

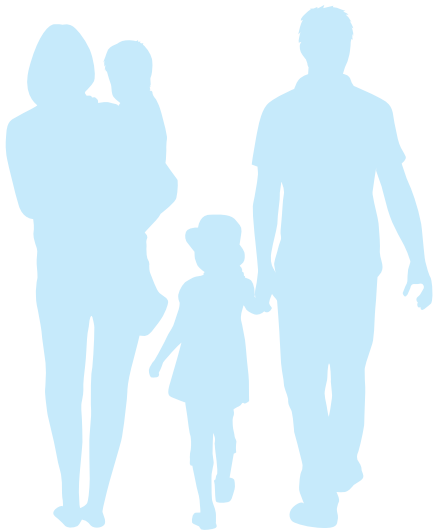
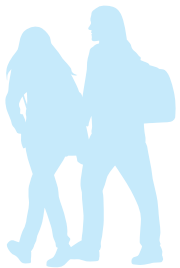
KEIO

あなたと あたらしい あしたへ——京王グループ

安全・社会・環境報告書

2022

CSRLレポート



— 京王グループスローガン —

あなたと あたらしい あしたへ

京王グループ理念

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。



Contents

トップメッセージ	02
経営計画	06
財務・CSRデータハイライト	10
京王グループの事業	12
京王の事業フィールド	14
京王グループの歩み	16
特集:まちづくりによる新たな価値の創出へ	18

安全報告

安全報告:全社員一丸での安全最優先の鉄道づくり	20
メッセージ	22
安全方針・安全管理体制	23
安全管理方法	24
安全目標・安全重点施策	26
人材の育成	32
安全文化の構築	34
危機に備えた訓練	36
施設・設備の取り組み	38
日々の保守管理	48
災害などへの備え	50
その他の取り組み	53
グループ会社の安全対策	54

社会性報告

社会性報告:住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり	56
メッセージ	58
お客様の利便性・快適性の向上	60
お客様との対話	64
多世代が生活しやすい沿線づくり	66
地域社会への貢献	68
株主・投資家・取引先等への取り組み	71
人材の活用と働きやすい職場づくり	72

環境報告

環境報告:環境保全の推進	76
メッセージ	78
環境方針	79
環境マネジメント	80
低炭素社会を目指して	82
循環型社会を目指して	86
自然共生社会を目指して	88
環境関連データ	90

企業統治

企業統治:コーポレート・ガバナンスの充実・強化	92
コーポレート・ガバナンス	94
財務データ	98
CSRアクションプラン	100
ガイドライン対照表/会社概要	102
第三者意見	105

編集方針

本報告書は、多角的な事業を展開する京王グループの活動を安全・社会・環境面から捉え、どのような考えを持って取り組んでいるかを、分かりやすくお伝えするものです。

当社の最大の使命である安全への取り組みをはじめとして、ステークホルダーに対する取り組みが伝わるよう留意しました。

なお、より詳しく、視覚的、タイムリーにお伝えするため、京王ホームページ、京王ニュース、環境・CSRポスター、インバスターズガイドなどでも適切な情報発信に努めています。あわせてご覧ください。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4により公表が義務付けられた「安全報告書」を兼ねているほか、皆様とのコミュニケーションを深めるための重要なツールと位置付けています。

【報告範囲・報告期間】

- 本報告書は、京王電鉄単体（鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門）の2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の報告です。当該年度以外の事例や京王グループの事例も一部掲載しています。
- 環境負荷データおよび環境会計データは、京王電鉄単体の2019年度～2021年度のデータです。

【参考にした報告ガイドライン】

- 鉄軌道事業者による安全報告書の作成手引き（国土交通省）
- 環境報告ガイドライン（2018年版、環境省）
- ISO26000（国際標準化機構）
- GRIスタンダード（Global Reporting Initiative）

「信頼のトップブランド」を目指し、 持続的成長に向けた歩みを進めます

事業環境の急速な変化への対応と、持続的な成長に向けた明確なビジョンを示すことが企業に求められています。京王グループは社会課題の解決に向け、「安心」「安全」「信頼」という価値観を大切にし、グループ一丸となって変革に取り組んでいきます。

代表取締役社長
社長執行役員

都利智史



新型コロナウイルス感染拡大を受けて、京王グループは創業以来の危機と言える状況であり、大きな変革を迫られていると感じています。これは、将来到来するであろう事象が、一気に時間を早めて顕在化してきたとも言えます。不確実性が増大している中での社長就任という重責に、身の引き締まる思いです。

ここ数年のコロナ禍で、生活様式が大きく変容していますが、鉄道会社の立脚点はあくまでも沿線地盤であり、ライフスタイルを牽引する存在であるべき、と考えています。沿線のお客様の生活を支える存在として、創業以来、培ってきた「安心」「安全」「信頼」という価値観を大切に、現在の危機をチャンスととらえ、変革に取り組んでまいり所存です。

中期経営計画における3つの方向性

当社グループは新型コロナウイルス感染症がもたらした大きな変化の渦中にあります。鉄道・バスの輸送人員はコロナ禍以前の水準への回復は想定できず、インバウンド需要の回復も時間を要する中、当社グループを取り巻く環境は劇的に変化しています。そうした中策定した、2022年度を初年度とする「京王グループ中期3カ年経営計画」では、コロナ前水準の利益回復、大規模投資の本格化に耐えうる財務体質を目指し、3つの方向性を打ち出しています。1つは、お客様のニーズをとらえた移動需要を創出し、新しいライフスタイルをけん引しつつ、魅力ある住みたくなる「まちづくり」への注力を推進し沿線力向上に取り組むこと。2つ目は、ポストコロナ社会に適応した抜本的な事業構造改革を成し遂げること。最後に、「やめるもの」「変えるもの」「加速させるもの」を明確にし、選択と集中を推進して、稼ぐ力の強化を図ることです。鉄道会社の原点に立ち戻り、課題に取り組んでまいります。

また、SDGsという国際社会全体で持続可能な社会を目指す潮流の中で、企業の果たす役割も大きくなってきています。ESGの視点では具体的な成果も強く求められるようになっており、当社グループはこれらを意識して事業活動や社会貢献活動を展開し、地域の発展と幸せな暮らしの実現に貢献していくことを目指しています。

鉄道の安全・安心をさらに強固なものに

鉄道事業において、安全を確保しつつ定時運行を継続することで得られる安心感と信頼は、グループ全体の背骨になる価値・強みにつながっていると考えております。基本方針として、「安全は最大の使命であり、最高のサービスである」ことを掲げておりますが、全社員一丸となって安全最優先の文化を強化していくことで、これからの信頼というブランドを維持・向上させていきたいと思っております。

そのような中、昨年京王線車内で傷害事件が発生しました。事件発生以降、専属の安全対策チームを設置し、車内巡回警備の強化など再発防止に向けた取り組みを進めております。本中期経営計画では、リアルタイムに車内の状況を把握できる防犯カメラを全車両・全駅に設置するなど、安全・安心のさらなる強化に取り組んでまいります。

選んでいただける魅力的なまちづくり

生活様式の変容にともない、街の機能も進化させていかなければなりません。沿線エリアの「まちづくり」は、今後も最重要課題であると考えます。

拠点開発については、新宿駅西南口地区をはじめ、連続立体交差事業が進捗する世田谷エリア、多世代共生型を目指す調布多摩川エリア、大規模タワーマンションの竣工により人口流入が見込める聖蹟桜ヶ丘エリア、リニア開通が控える橋本エリアなどが、重点開発地区となります。特に、新宿駅西南口地区開発計画は社運をかけたプロジェクトともいえます。当社グループは、新宿の発展とともに成長してまいりました。「次の100年をつなぐ京王グループの象徴」として、新宿と当社グループの成長に向け、開発計画を推進してまいります。

沿線のお客様の生活パターン・行動様式が変化している中で、特に通勤定期券利用のお客様が大きく減少

している傾向があり、働き方の変化が加速していることが窺えます。リモートワークが浸透し、今後はより生活圏が縮小していくことも予想されます。新しいライフスタイルに合わせた生活支援サービスの提供、近接エリア内の回遊性向上などの移動需要創出に資する駅メニューの開発などに注力し、魅力ある沿線エリアづくりに注力してまいります。

働きやすく多様な人材が活躍できる組織風土に

当社の最大のリソースは人材ですから、これら諸施策を推進するための人材育成策も、重要な検討課題となります。

多様な人材雇用や女性の活躍推進、育児・介護と仕事の両立やワークライフバランス、ハラスメント防止対策、定年延長などの施策について、継続して取り組むほか、働きやすい職場環境づくりも引き続き推進するとともに、専門性の高い人材の採用と育成など、多様な人材が活躍できるダイバーシティの取り組みを進めます。

また、本年7月から「誰もが知ってる鉄道を、まだ誰も見たことのない鉄道へ 鉄道事業変革への挑戦」というビジョンのもとに、オープンイノベーションプログラムを実施しています。鉄道事業の変革に加え、様々な沿線内外のプレイヤーのアイデアを募り、外部との協業の場を通して社員個人の創造性を磨くことも意図しており、イノベティブな風土への変革を進めていきたいと考えております。



地球環境が持続可能であり続けるために

京王グループの主力事業である鉄道は、他の輸送機関と比べて環境負荷が少ないという特性を活かし、多くのお客様にご利用いただくことで、社会全体のCO₂排出量削減に貢献してきました。また、当社は京王グループ環境基本方針に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続可能な社会の実現を目指し、省エネ車両の導入による走行用電力の削減をはじめとした様々な環境負荷低減策に取り組んでまいりました。

近年、自然災害の激甚化など地球温暖化に伴う気候変動の影響は年々大きくなっており、脱炭素や循環型社会に向けた取り組みなど、社会から企業に対する要請も高まっています。将来の気候変動が事業に影響を及ぼす可能性を長期的視野で改めて整理するとともに、CO₂排出量削減など環境負荷低減策に引き続き取り組んでまいります。



強固な経営体制の整備

コーポレート・ガバナンス体制についてさらなる充実をはかるため、経済的価値・社会的価値両面での持続的な成長に向けて、サステナビリティについての基本方針を策定するなど体制整備を進め、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に沿った情報開示の検討を進めております。また、リスク対応については、鉄道におけるテロや大事故等の重大事案発生時の全社対応方針を定め、複合災害に対処できるよう、体制を整備してまいります。このほか、グループ全体のコンプライアンスリスクを再点検し、ハラスメントに対処するとともに、サイバー攻撃に備え、ウェブサイトやシステムインフ

ラ基盤のセキュリティ対策の強化も進めてまいります。

財務面では、鉄道事業の安全・サービス向上に資する投資や、不動産物件の仕入など投資規模が拡大してまいります。資産効率を重視した投資事業の推進などの施策により、財務健全性を維持しながら、2020年代後半に訪れる、拠点開発等の大規模投資本格化に備えてまいります。

株主の皆様へ

株主還元につきましては、将来の事業展開と経営環境の変化に備えた経営基盤の強化に必要な内部留保を充実させながら、業績等を勘案し、株主の皆様への利益還元をはかっていくことを基本方針としております。

直近の業績は改善傾向ではございますが、各事業において未だ回復途上にあることから、2021年度の年間配当金は前年同額とさせていただきます。利益の回復度合いに合わせて、本中期経営計画ではコロナ禍以前の配当水準に戻すことを目指し、株主の皆様への期待に応えられるよう最大限の努力をしております。

信頼のトップブランドを目指して

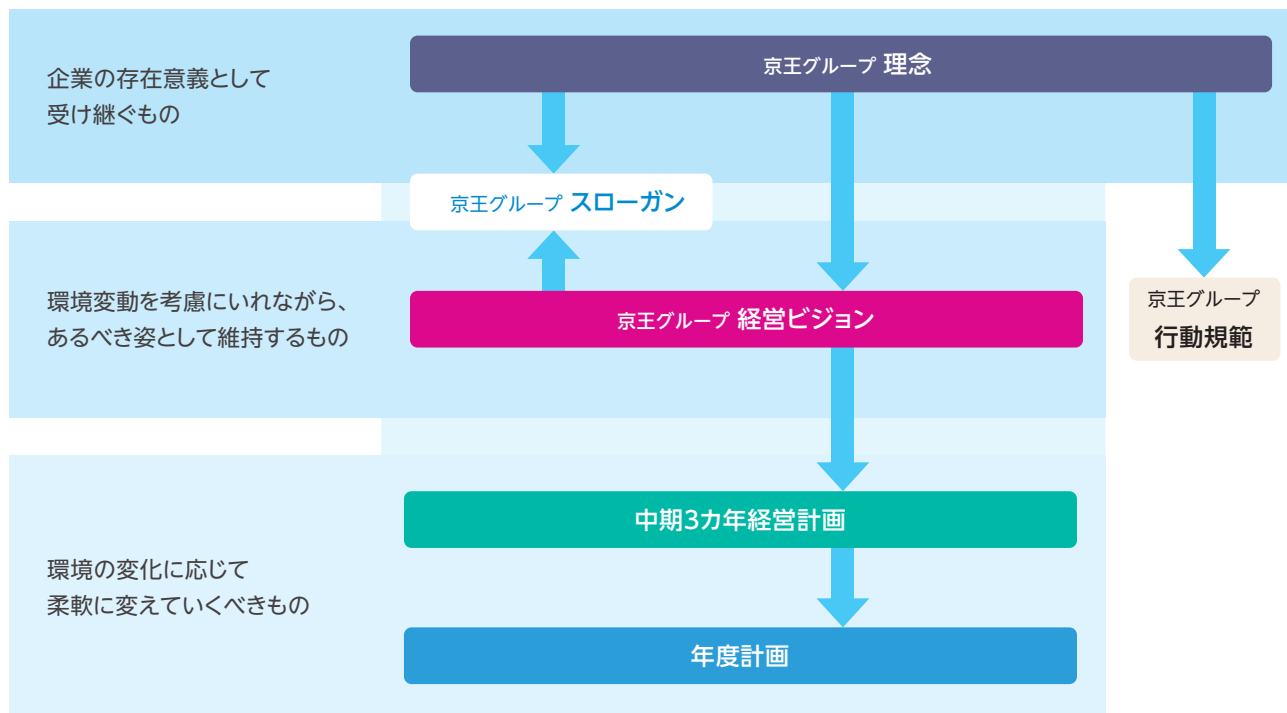
京王グループは公共的な交通事業を基盤としているため、経済的価値と社会的価値の両面を追求した経営を行ってまいりました。変化が激しく不確実性が増す時代を迎え、再度我々の社会的な役割と存在意義を見つめ直す必要があると認識しております。サステナビリティ経営の検討を進める中で、従来にも増して様々なステークホルダーと向き合い、多様な価値観を取り入れながら事業課題・社会課題を解決してまいります。

公共交通事業者として、揺るぎない安全・安心をお客様に提供しながらグループの成長を目指していくという私たちの信念は変わりません。生活様式が変容する激動の時代をグループ一丸となって乗り越え、「信頼のトップブランド」を目指してたゆまぬ歩みを進めてまいります。今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

京王グループの持続的な成長と 持続可能な社会の実現に向けて

京王グループでは、京王グループ理念を具現化し、経営計画につなげるための指針・将来像として「京王グループ経営ビジョン」を制定しています。そして、「京王グループ行動規範」を定め、事業活動を通じて社員一人ひとりが社会の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。

理念・ビジョン・経営計画の体系



あなたと あたらしい あしたへ

(2003年1月1日制定)

京王グループ 理念

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

(2003年1月1日制定)

京王グループ 経営ビジョン

京王グループは、変化する社会のニーズに対応したサービスを提供し、
安心・便利で生き活きとした沿線づくりに取り組むことで、
信頼され「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」を追い求め続けます。
また、発展し続けるグループへの変革を目指すため、
成長する新たな市場へチャレンジします。

(2003年1月1日制定、2012年4月1日改定)

京王グループ 行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、私たちは以下のとおり行動します。

企業活動を通じて社会に貢献します

- ・お客様の幸せな生活に資する商品・サービスを提供します
- ・常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- ・適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

法令・社内規程を遵守し、健全・公正な企業活動を行って、企業価値の向上に努めます

- ・全てのステークホルダー（お客様・株主・取引先・社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- ・法令を正しく理解し、法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します
- ・反社会的な組織、人物に対しては断固とした姿勢で臨みます
- ・知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- ・社員個人の権利を尊重し、社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

社会の一員としての責任を果たします

- ・すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- ・リサイクル、省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- ・社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- ・社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます

(2004年4月1日制定)

京王グループ中期3カ年経営計画(2022～2024年度)

基本方針

テレワーク等の定着により鉄道・バスの輸送人員はコロナ禍以前の水準に回復することは想定できない状況にあり、インバウンド需要に支えられてきたホテル業や百貨店業、駅を中心にビジネスを展開してきたグループ各事業についても極めて厳しい状況が続いているなど、当社グループを取り巻く環境は劇的に変化しております。

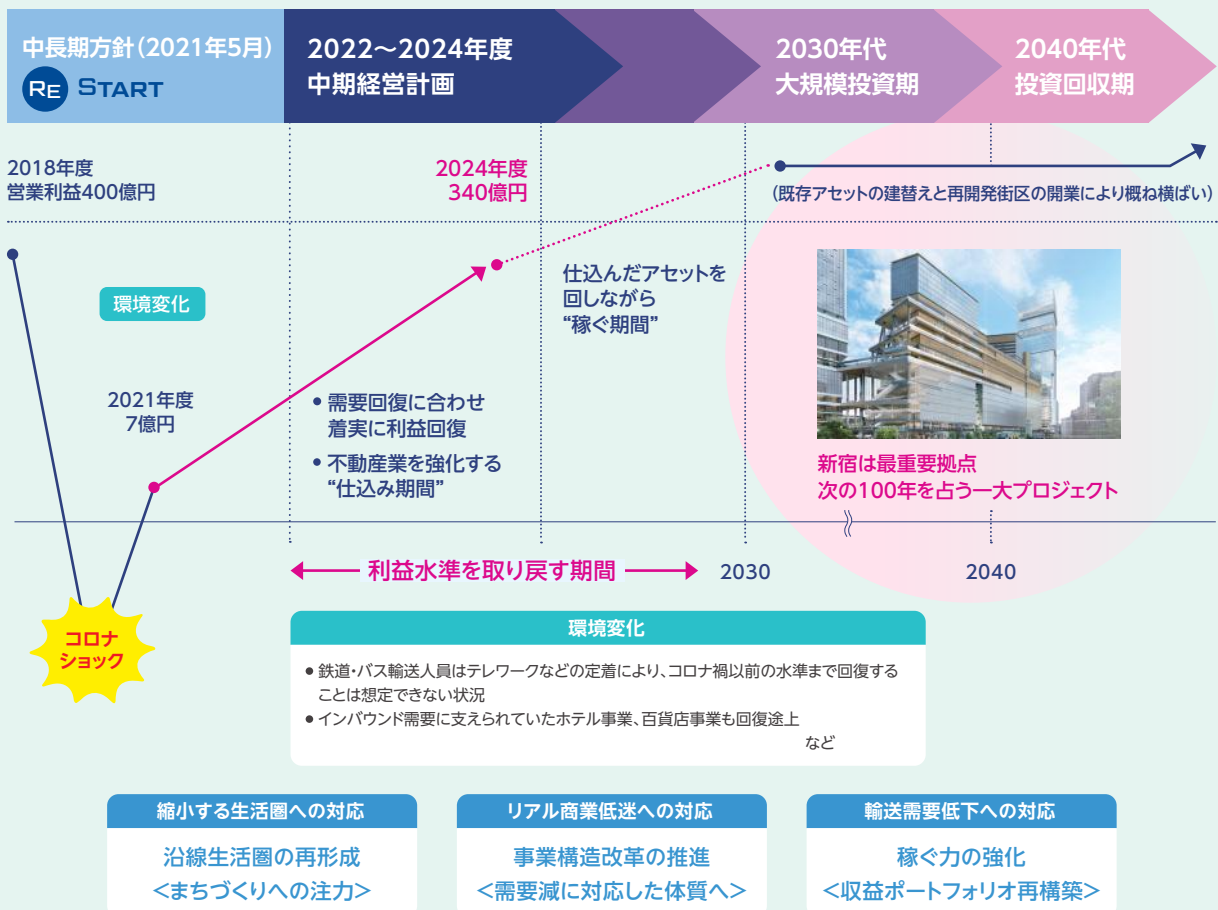
当社グループでは、これら諸課題に対応するとともに、今後の大規模投資の本格化を見据え、事業の選択と集中の推進により各事業の利益水準を改善し、ポストコロナ社会に適応した事業構造への抜本的な変革を完遂するため、2022年度を初年度とする「京王グループ中期3カ年経営計画」を策定しました。

本計画期間の2022～2024年度は、大きく「各事業の足元の出血をできる限り早期に止める」とことと「2030年代を見据えた事業変革の完遂」の2点に取り組むことで、コロナ前水準の利益回復、大規模投資の本格化に耐えうる財務体質を目指します。

また、社会における存在意義を見つめ直し、鉄道会社の原点である、お客様のニーズを捉えた移動需要の創出、新しいライフスタイルを牽引しつつ、魅力あふれる住みたくなる「まちづくり」を推進し、沿線力向上に取り組んでまいります。

本中期経営計画の位置づけ

本中期経営計画期間は、新宿・橋本エリアでの再開発といった2030年代に本格化する大規模投資期にむけて、「稼ぐ力」を取り戻すための重要な期間と位置付けています。



中期経営計画の概要

RE START

- ▶ 新しいライフスタイルを牽引する存在として、生活圏内の回遊性向上を図る
- ▶ 豊かで魅力的な「まちづくり」への主体的な関与
- ▶ 新しい移動需要の創出

RE DEVELOPMENT 「まちづくりへの注力」

- 生活圏内の回遊性向上により、新たな移動需要を創出
- 沿線のエリアマネジメント
- 駅を核とした拠点開発

RE STRUCTURING 「事業構造改革の推進」

- DX推進によるコスト構造改革やグループ横断的なデータ活用
- 不採算領域の見極め、選択と集中
- 人流やインバウンドに依存しない事業構造構築

RE INFORCE 「稼ぐ力の強化」

- 分譲マンション事業をはじめとする不動産販売業の強化
- 出口戦略を見据えた新規資産の取得と売却
- 物流事業進出やBtoB領域の拡大

鉄道事業「日本一安全でサービスの良い鉄道」

- より高度な安全・安心の追求
- お客様ニーズを先取りしたサービスの提供
- さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生
- 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

強固な経営基盤

- 専門性の高い人材の育成・採用と多様性の確保
- 環境への取り組み
- 大規模投資期のキャッシュアウトに耐えうる財務基盤づくり

経営目標

中期経営計画最終年度の2024年度には、2018年度(過去最高益)の85%程度まで営業利益を回復させ、2030年代までには過去最高益を超える水準を目指します。

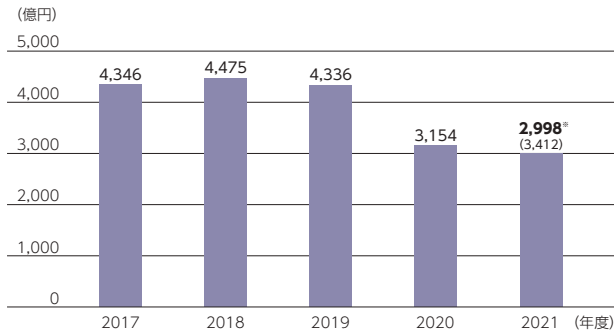
	(単位:億円)						財務・安全性指標	
	2021年度 実績	2022年度 計画	2023年度 中期計画	2024年度 中期計画	2018年度 実績	対2018年度 増減	2024年度 中期計画	
営業収益	2,998	3,460	3,630	3,880	4,475	—	ネット有利子 負債残高	
営業利益	7	149	250	340	400	△60	4千億円以下	
経常利益	53	135	237	324	392	△68	ネット有利子負債 /EBITDA倍率	
親会社株主に 帰属する当期純利益	55	64	180	240	272	△32	6倍以内	
EBITDA	322	449	576	675	767	△92	自己資本比率	
							38%程度	

※ EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却額により算出している
 ※ 2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しているため、営業収益の増減は非表示

財務・CSRデータハイライト

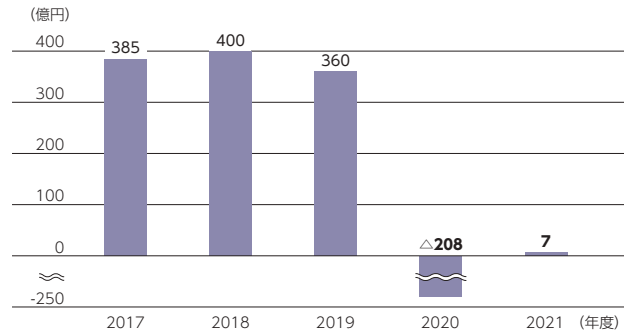
財務関連データ(連結)

●営業収益

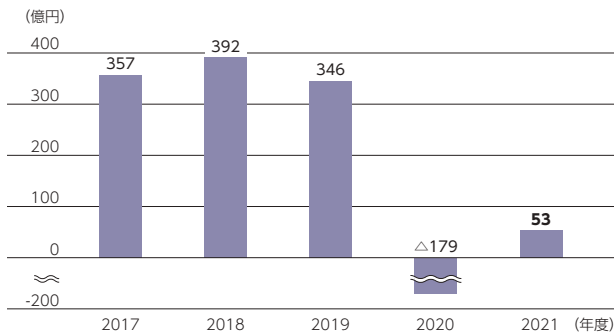


※2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています。
 ※下段()は「収益認識に関する会計基準」等適用前の数値を記載しています。

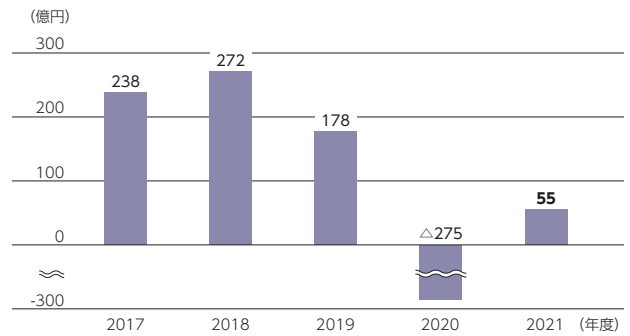
●営業利益



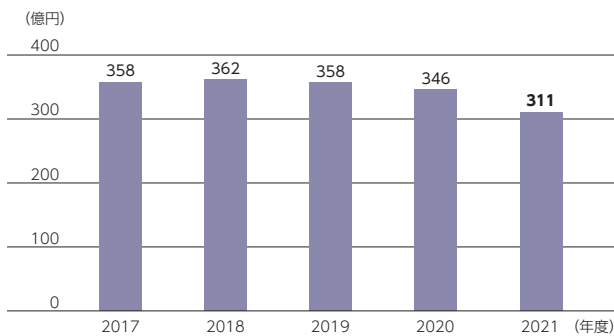
●経常利益



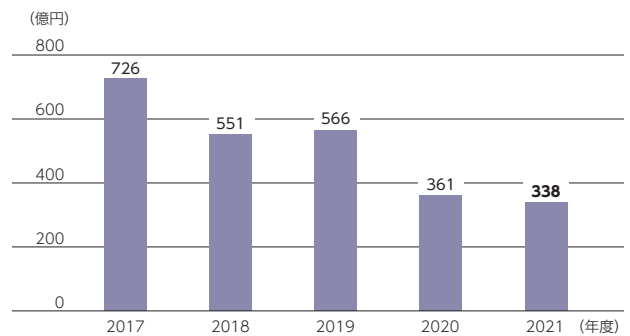
●親会社株主に帰属する当期純利益



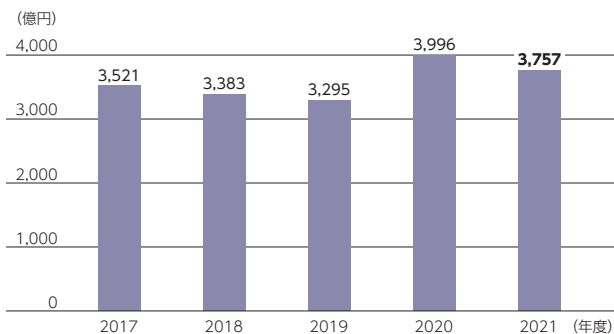
●減価償却費



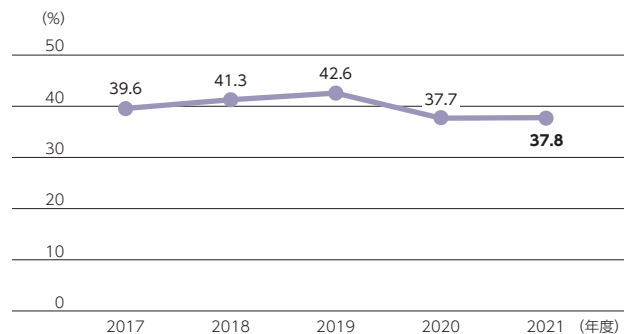
●資本的支出



●有利子負債



●自己資本比率

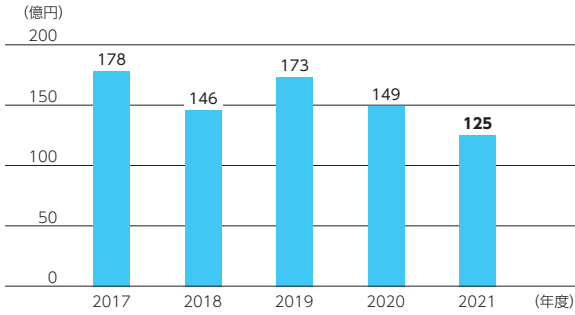


※有利子負債は、借入金+コマーシャル・ペーパー+社債により算出しております。



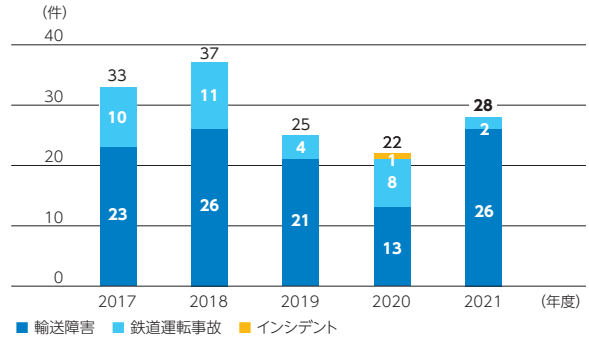
安全に関する投資額

125億円



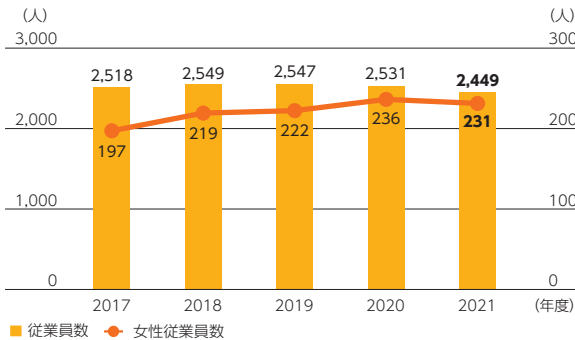
鉄道運転事故・輸送障害発生件数

28件



従業員数／女性従業員数

2,449人／231人

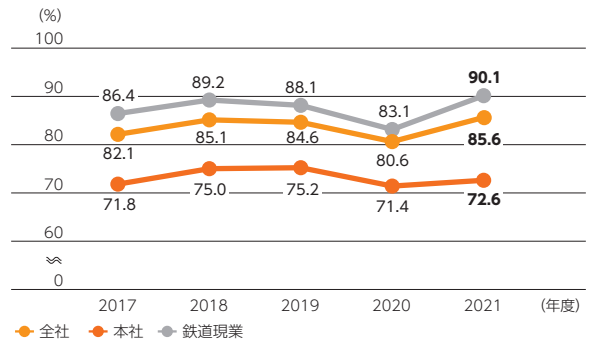


※グループ会社へ出向している女性正社員は除いています。



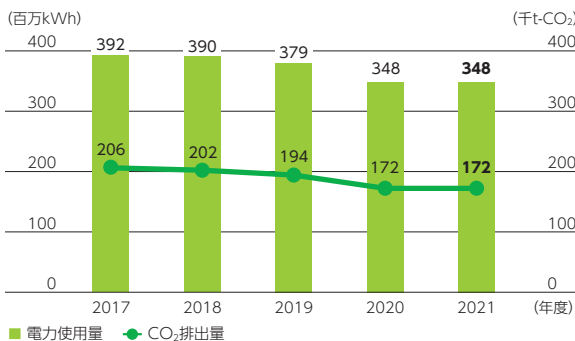
年休取得率

85.6%



電力使用量／CO₂排出量

348百万kWh／172千t-CO₂

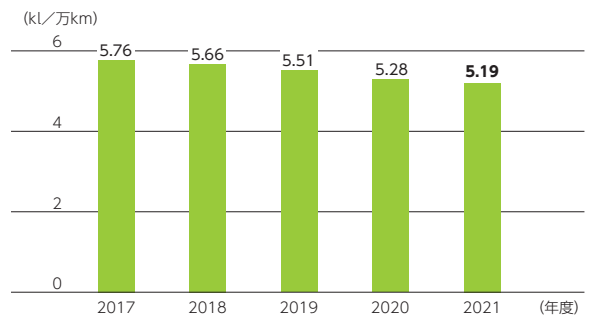


※省エネ法、東京都環境確保条例等に基づいて集計しています。



鉄道のエネルギー使用量原単位

5.19kl/万km



※集計対象は、電車の運行、駅および現業事務所です。

京王グループの事業

	事業内容	セグメント資産／資産構成比
運輸業	 <p>基幹事業である鉄道事業の他にバス、タクシー、貨物輸送などさまざまな運輸事業を行っています。安心・安全でお客様から信頼される交通サービスの提供に努め、運輸事業を通じて地域社会の発展に貢献します。</p>	セグメント資産 4,136億8百万円 資産構成比 46.0%
流通業	 <p>多種多様な事業を展開し、時代に適した商品とお客様の満足を第一に考えたサービスで、京王沿線を中心としたお客様の毎日の暮らしをサポートし、より豊かな生活への提案を行っています。</p>	セグメント資産 1,003億4千1百万円 資産構成比 11.2%
不動産業	 <p>土地・建物の売買や賃貸、リノベーション、駐車場の運営などを通じてお客様のさまざまなニーズに応え、質の高い商品・サービスを提供しています。</p>	セグメント資産 2,247億2千万円 資産構成比 25.0%
レジャー・サービス業	 <p>お客様に心の豊かさとうるおいある生活ステージを提供するために、お客様とのコミュニケーションを大切にしながら上質で安心できるサービスを展開しています。</p>	セグメント資産 1,225億4千4百万円 資産構成比 13.6%
その他業	 <p>「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」の実現に向けて、幅広い事業を手掛けています。京王グループの総合力を基盤にして、きめ細かなサービスや長年培った高い技術力を提供しています。</p>	セグメント資産 379億6千5百万円 資産構成比 4.2%

営業収益／営業損益	2022年3月期の事業概況	主要な会社名
<p>営業収益 992億3千2百万円</p> <p>営業損失 ▲26億9千9百万円</p>	<p>鉄道事業では、主に4～5月を中心に1回目の緊急事態宣言が発令された前年同期と比べ改善し、旅客運輸収入が10.4%増(うち定期0.2%増、定期外19.1%増)となりました。また、バス事業およびタクシー業においても、増収となりました。これらの結果、営業収益は992億3千2百万円(前期比12.2%増)となりましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活様式の変容や人流の減少など、移動需要は依然として低迷しており営業損失は26億9千9百万円となりました。</p>	<p>京王電鉄(鉄道)、 京王電鉄バスグループ、 西東京バス、 京王自動車グループ、 京王運輸</p>
<p>営業収益 969億4千1百万円</p> <p>営業利益 20億2千6百万円</p>	<p>百貨店業では、前期と比べ改善しましたが、「収益認識に関する会計基準」等の適用により、減収となりました。また、ストア業では、食料品等の巣ごもり需要が前期に比べて減少したほか、「収益認識に関する会計基準」等の適用などにより、減収となりました。これらの結果、営業収益は969億4千1百万円(前期比24.6%減)、営業利益は前期と比べて改善し20億2千6百万円となりました。</p>	<p>京王電鉄(ショッピングセンター)、 京王百貨店、京王ストア、京王書籍販売、京王バスポートクラブ、京王アートマン、京王食品、京王グリーンサービス</p>
<p>営業収益 472億2百万円</p> <p>営業利益 104億7千万円</p>	<p>不動産賃貸業では、新規物件の稼働などにより増収となりました。不動産販売業では、リノベーション物件の売上減などにより減収となりました。これらの結果、営業収益は472億2百万円(前期比1.7%減)、営業利益は104億7千万円(前期比0.7%増)となりました。</p>	<p>京王電鉄(開発)、京王不動産、京王地下駐車場、リビタ、京王重機整備(賃貸)</p>
<p>営業収益 329億8千2百万円</p> <p>営業損失 ▲134億4千1百万円</p>	<p>ホテル業では、主に10～12月を中心に前年同期と比べて稼働率の回復もあり、営業収益は329億8千2百万円(前期比30.2%増)となりました。一方で、依然として宿泊需要が低迷していること等により、営業損失は前期と比べて改善したものの134億4千1百万円となりました。</p>	<p>京王プラザホテル、京王プラザホテル札幌、京王プレッソイン、京王プレリアホテル京都、京王プレリアホテル札幌、高山グリーンホテル、京王観光、京王エージェンシー、京王レクリエーション、レストラン京王</p>
<p>営業収益 625億4千8百万円</p> <p>営業利益 51億4千2百万円</p>	<p>建築・土木業では、完成工事高の減少などにより減収となりました。ビル総合管理業では、受注減などにより減収となりました。これらの結果、営業収益は625億4千8百万円(前期比4.4%減)、営業利益は51億4千2百万円(前期比2.7%減)となりました。</p>	<p>京王設備サービス、京王重機整備(車両整備)、東京特殊車体、京王建設、京王ITソリューションズ、京王アカウンティング、京王ビジネスサポート、京王ユース・プラザ、京王シンシアスタッフ、京王子育てサポート、京王ウェルシステージ、京王フェアウェルサポート</p>

※記載の金額には、セグメント間取引を含みます。
※セグメント資産には、全社資産(報告セグメントに帰属しない金融資産)は含みません。

京王グループは、京王電鉄を中心に運輸業、流通業、不動産業、レジャー・サービス業、その他業の5つのセグメント（事業分野）から構成されています。この幅広い事業を通じて、お客様のニーズを捉えた移動需要を創出するとともに、魅力あふれる住みたくなる「まちづくり」を推進し、沿線価値向上を実現していきます。



全国の主な施設



高山グリーンホテル



高山

京王プラザホテル 札幌



札幌

京王プレミアホテル
京王プレミアホテル 京都烏丸五条
京王プレミアホテル 札幌

京王プレミアホテル 京都烏丸五条



京王プレミアホテル 札幌



THE SHARE HOTELS

- HakoBA 函館
- HATCHI 金沢
- KUMU 金沢
- LYURO 東京清澄
- KAIKA 東京
- RAKURO 京都
- TSUGU 京都三条
- MIROKU 奈良
- KIRO 広島

東京



キラリナ京王吉祥寺

フレんテ明大前

フレんテ仙川

フレんテ笹塚

京王百貨店 新宿店

京王プラザホテル(新宿)

トリエ京王調布

ミカン下北

JR 中央線

JR 山手線

京王線

井の頭線

吉祥寺

明大前

笹塚

新宿

調布

仙川

下北沢

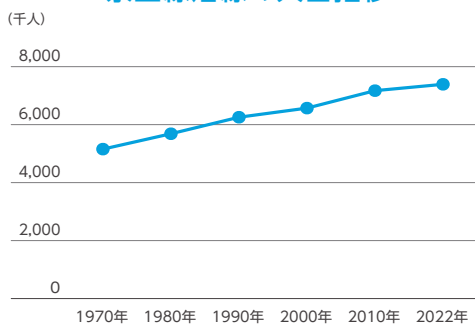
渋谷

京王稲田堤

神奈川

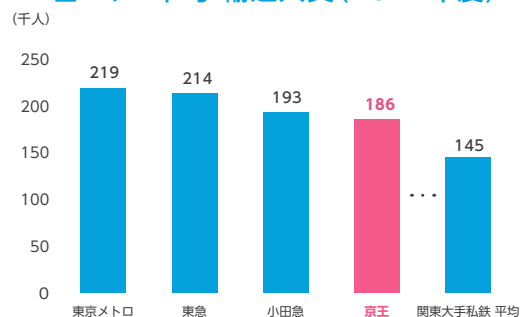
Business Overview

京王線沿線の人口推移



出典: 国税調査(1970年~2010年)
住民基本台帳・外国人登録者(2022年)

1日1キロ平均 輸送人員(2021年度)



出典: 日本民営鉄道協会「大手民鉄の素顔」2021年

沿線の魅力的な街づくりにチャレンジし 暮らしを支え続けてきた100余年

京王電気軌道開業

鉄道とバスを走らせ
人々の往來を支える

1913年～

京王線は新宿と八王子を結ぶ路線として計画され、1913年に笹塚～調布間が開業しました。

未開業区間の新宿～笹塚間などで、東京で最初のバスの営業も開始しました。1928年には新宿から東八王子まで電車が直通となり、1934年には渋谷～吉祥寺間が全線開業。当時まだ開発が進んでいなかった西東京エリアに鉄道とバスを走らせ、公共交通機関として人々の往來を支えました。

京王帝都電鉄の時代

事業を多角化し
沿線の街づくりを本格化

1948年～

戦後、1948年に京王帝都電鉄が発足。戦後復興と高度経済成長期の中で、沿線の街づくりに着手。不動産、流通など事業の多角化も進めました。

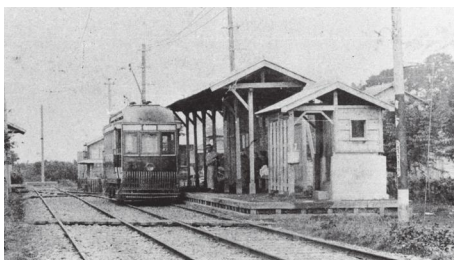
1964年には「京王百貨店新宿店」が、1971年には当時の超高層ホテル第1号として「京王プラザホテル」がオープンしました。また、1986年には、推進していた聖蹟桜ヶ丘駅周辺総合開発において「京王聖蹟桜ヶ丘SC」がオープンするなど、魅力ある沿線づくりを進めました。

- 1910 京王電気軌道株式会社が発足
- 1913 笹塚～調布間の電車開通
- 1934 帝都電鉄株式会社により渋谷～吉祥寺間が全通

- 1964 京王百貨店新宿店がオープン
- 1971 京王プラザホテルがオープン
- 1986 京王聖蹟桜ヶ丘SCがオープン



東京で最初のバス営業



1914年頃の調布駅



1964年の京王百貨店新宿店



1971年の京王プラザホテル



1986年の京王聖蹟桜ヶ丘SC

鉄道事業と路線バス事業から始まり、沿線に魅力的な街をつくり、人々の暮らしを支え続けてきた100余年。「進取の気性」に代表される京王の精神は、歴史の中で脈々と継承されています。大きな社会の変革期にあっては、さらにステークホルダーとの共創という視座も加えて、さらなる変革に挑戦し続けます。

京王電鉄に社名変更

幅広い世代が
住みやすい街へ豊かな暮らしづくり

1998年～

1998年に社名を京王電鉄に変更。2012年に調布駅付近地下化切り替えを実施し、鉄道により分断されていた市街地の一体化を図りました。その調布の新たなランドマークとして2017年には「トリエ京王調布」が誕生しました。

さらに2018年には当社初となる有料の座席指定列車「京王ライナー」を夜間時間帯で運行を開始するなど、時代のニーズに合わせたサービス・沿線活性化策を推進してきました。

鉄道会社としての新たな役割

企業価値向上と、
持続可能な社会の実現

2022年～

2022年3月、下北沢駅の高架下施設「ミカン下北」が開業しました。多様な人々がジャンルを超えて交ざり合う場を創出します。

さらに、スタートアップ企業をはじめとした外部企業との共創によるオープンイノベーションの実現を目指す「KEIO OPEN INNOVATION PROGRAM」を開始しました。中期3カ年経営計画の初年度として、次の時代につながる移動と沿線の価値向上を実現していきます。

2017 トリエ京王調布がオープン

2018 座席指定列車 京王ライナー運行開始



トリエ京王調布



座席指定列車
京王ライナー運行開始

2022 下北沢駅の高架下新施設「ミカン下北」開業
京王オープンイノベーションプログラム開始



ミカン下北



京王オープンイノベーションプログラム



京王グループが進めるまちづくり

100年に一度の大規模プロジェクト～ともに歩む京王と新宿の再開発～

当社、東日本旅客鉄道株式会社が事業主体となる新宿駅西南口地区開発計画は、2021年10月に東京都から内閣府に対し、都市再生プロジェクトとして提案され、2022年4月に都市計画手続きが開始されました。

新宿エリアは、日本・東京の中で高いポテンシャルを持ったエリアで、京王電鉄バス、京王百貨店、京王プラザホテルなど、京王グループの主要施設の事業基盤が立地する最重要拠点です。本計画を「次の100年をつなぐ京王グループの象徴」として推進し、新宿全体の活性化、当社の成長を目指していきます。

新宿エリアのポテンシャル

交通結節

- 世界一の乗降客数 **約360万人／日**
- 日本一の高速バス発着数 **約1,600便／日**

東京都統計年鑑(平成27年)
国土交通省HPより

商業集積

- 日本一の小売販売額 **約9,148億円**

東京の小売業
(平成19年商業統計調査報告
立地環境特種別集計編)より

訪日外国人数

- 日本一の外国人宿泊者数 **国内最多**
訪日外国人旅行者数のうち、
新宿エリアに宿泊される方 **約15%**

平成24年東京都観光客数等
実態調査より

事業所数

- 都内最大の事業所数 **約10,500事業所**

平成26年度経済センサス
(経済産業省)より

VOICE



新宿再開発推進室長
中瀬 正春

これまで、これからも、 「進取の気性」で新宿の街づくりに取り組んでいきます

これまで新宿の街とともに歩み、成長してきた当社グループ。新宿駅の地下化に伴い誕生した駅ビルに京王百貨店が開業したのが1964年。その7年後、当時何もなかった西新宿の淀橋浄水場跡地にそびえ立った京王プラザホテルの白亜の雄姿は、当社グループの「進取の気性」の象徴でもありました。それから半世紀が過ぎ、新宿の街は新たに生まれ変わろうとしています。

これから始まる新宿駅西南口地区開発計画は、老朽化した施設の機能更新のみにとどまらず、街の課題解決に向けた基盤の再整備や、世界に冠たる新宿の街の国際競争力をさらに高めるためのソフト戦略等にも取り組んでいきます。そして、何よりも当社グループのブランドイメージを支えるフラッグシップとしての役割を担うプロジェクトですので、「進取の気性」をもう一度想起し、積極的に関与することによって、世界中から人々が集う新宿の街の賑わいと活気が沿線拠点にも波及することによる経済効果や社会的価値を源泉とした循環的な成長に寄与してまいります。

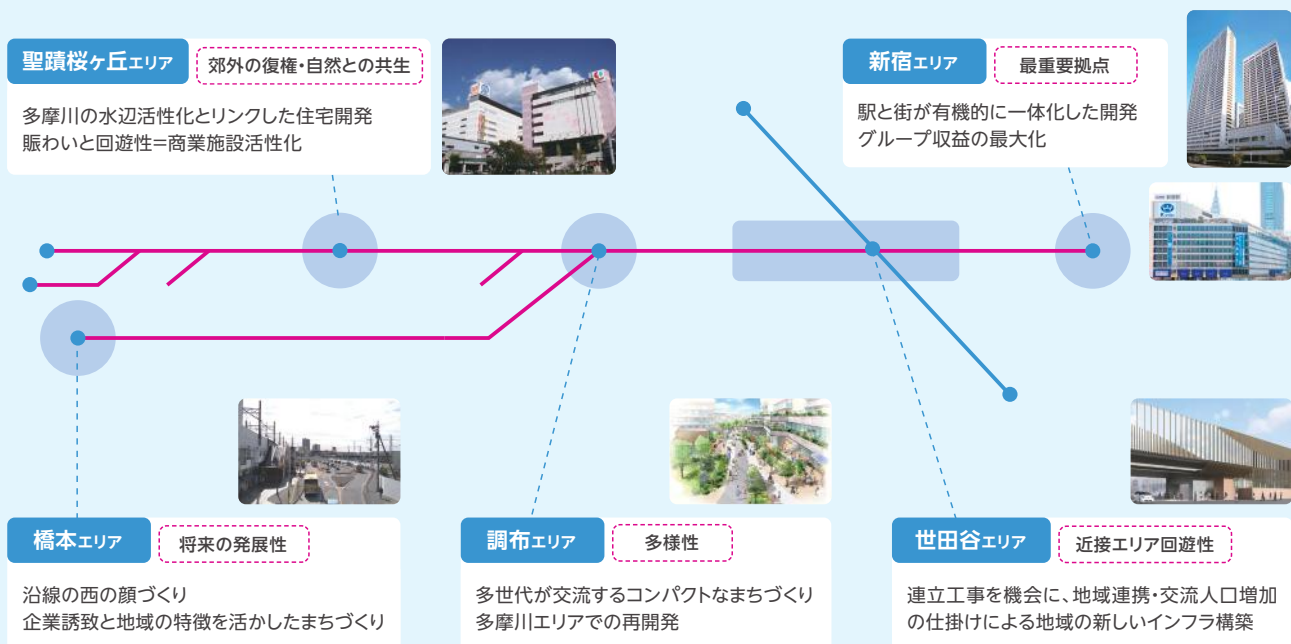
京王としてのまちづくりの基軸

ライフスタイルが変化していく時代においても、これまで培ってきたリソース(駅、生活支援・リノベーションメニュー、交通網など)をコアとし、生活圏内の回遊性の向上と新しい移動需要の創出を目指し、蓄積している人流データ等の活用による新しい価値を創造することで、魅力あるまちづくりを進めてまいります。



各エリアでのまちづくりのテーマ

沿線をエリア単位でマネジメントし、駅を核とした拠点開発を進めて魅力的な「まちづくり」に注力し、エリア内外の移動の活性化を図ります。



全社員一丸での 安全最優先の 鉄道づくり

鉄道の安全性向上への取り組みとして、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業、ホーム安全対策、激甚化する自然災害や施設の老朽化対策、鉄道テロ対策などを着実に進めているほか、安全意識の高い鉄道従事員の育成を行っています。「日本一安全でサービスの良い鉄道」の実現に向けて、引き続きお客様目線での安全施策を本社・現場が一体となって推進していきます。

CONTENTS

安全方針・安全管理体制.....	P.23
安全管理方法.....	P.24
安全目標・安全重点施策.....	P.26
人材の育成.....	P.32
安全文化の構築.....	P.34
危機に備えた訓練.....	P.36
施設・設備の取り組み.....	P.38
日々の保守管理.....	P.48
災害などへの備え.....	P.50
その他の取り組み.....	P.53





さらなる安全性の向上を目指して 日々努力してまいります



取締役 常務執行役員
鉄道事業本部長
(安全統括管理者)
井上 晋一

日頃から、京王線・井の頭線をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当社では、皆様から信頼され、愛される鉄道であるために、『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」ことを常に意識し、「全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る」ことを最大の命題として、日々の業務に取り組んでいます。

笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差事業については、引き続き事業主体である東京都とともに進めているほか、ホームドアや転落防止ゴム、踏切障害物検知装置の設置をはじめ、各種安全対策についても着実に推進しています。

災害対策としては、高架橋柱・盛土部などの耐震補強工事や信号設備の耐雷性向上工事を進めるなど、激

甚化・頻発化する自然災害への対策を着実に実施しました。

鉄道テロ対策では、リアルタイム伝送機能付き防犯カメラの全車両・全駅への設置を決定したほか、お客様の速やかな避難誘導に向けた乗務員の取扱いを見直すとともに、非常用設備の視認性向上を図りました。

事故の未然防止に向けては、「安全に関する基本方針」「安全に係る社員の行動規範」の徹底を図るとともに、現場と本社が一体となって、安全意識のさらなる高揚を目指してまいります。

これからも、「有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減」などを安全目標と定め、全てにおいてお客様の視点に立ち、安全確保を第一に行動してまいります。



鉄道事業本部長による職場巡視



鉄道事業本部長による現場視察

安全方針・安全管理体制

「安全に関する基本方針」「安全に係る社員の行動規範」に基づき、経営トップをはじめ、鉄道部門以外の部長も交えた安全管理体制を構築し、安全最優先の鉄道づくりに取り組んでいます。

安全方針


当社では、安全に関する基本方針とそれに基づく社員の行動規範を次のように定めています。本社およびすべての現場に掲出しているほか、カード形式にしたものを全社員に配布しています。

安全に関する基本方針

- 「安全」は最大の使命であり、最高のサービスである。
- 全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る。

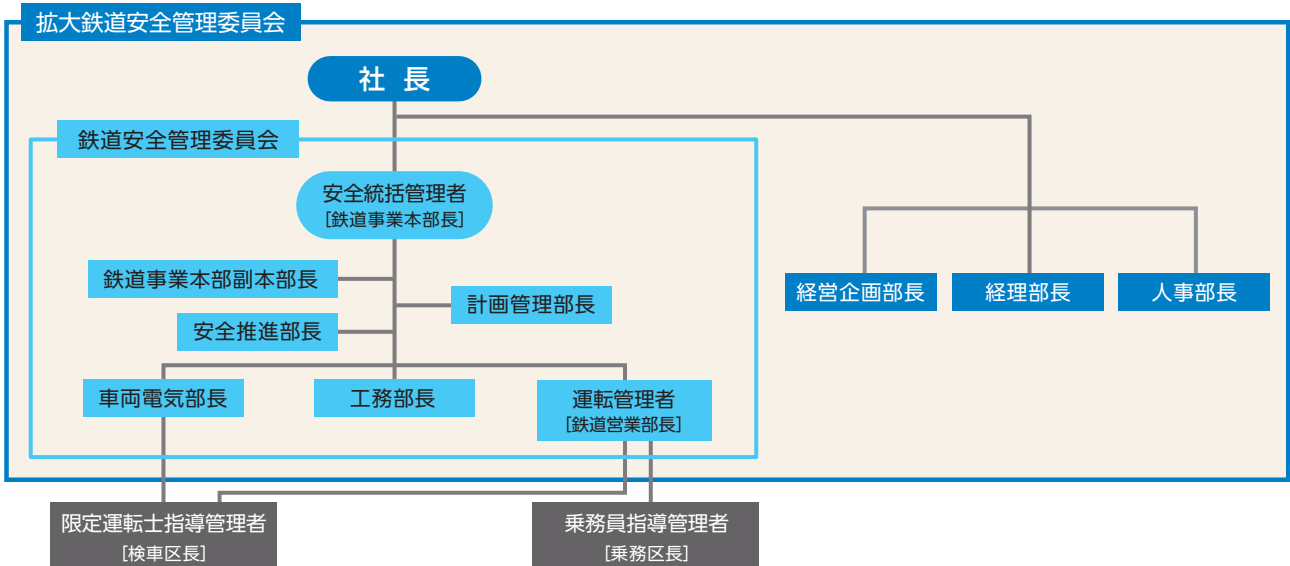
安全に係る社員の行動規範

- 全てにおいてお客さまの視点に立ち、安全確保を第一に行動する。
- 社員一人ひとりがルールを遵守し、判断に迷ったときは、自ら考え、最も安全と認められる行動をとる。
- 情報伝達は迅速かつ正確に行い、共有化を図る。
- 組織・職位を越えたコミュニケーションを構築し、全社員が連携して問題解決にあたる。





安全管理体制



責任者名	役割
社長	輸送の安全の確保に関する業務全般を総理する。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
限定運転士指導管理者	車両電気部長および運転管理者の指揮の下、限定運転士の資質の保持に関する事項を管理する。

安全管理方法

安全管理規程を定め、輸送の安全を確保するためのさまざまな取り組みを行っているほか、内部監査や国の評価をもとに、安全管理方法の継続的改善を図っています。

鉄道安全管理委員会

安全統括管理者を中心に、運転管理者を含む鉄道事業本部の各部長がメンバーとなり、原則として毎月1回、また必要により臨時に開催し、事故などの原因の究明・対策の検討・検証などを行っています。また、他社で発生した重大な事故・トラブルについて、当社の対応状況を確認しています。

さらに、拡大鉄道安全管理委員会を社長出席の下、年2回開催し、安全重点施策をはじめとした安全管理体制全般の実施状況の評価(マネジメントレビュー)を行っています。



拡大鉄道安全管理委員会

経営トップによる職場巡視

年4回の安全推進運動や、毎月の「安全再確認の日」を中心に、社長をはじめとする役員が現業職場を巡視して安全管理の状況を確認するとともに、現業係員との意見交換を実施してコミュニケーションを図っています。



社長と現業係員との意見交換

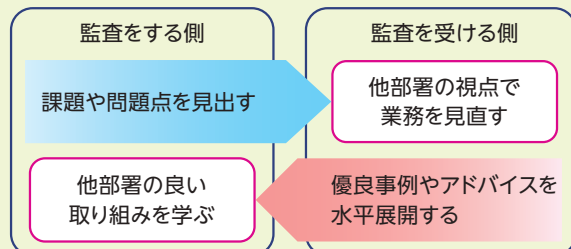


社長による連立工事現場の視察

内部監査の実施

運輸安全マネジメントに基づく内部監査を毎年行い、安全管理体制が適正に機能していることを確認しています。社長、安全統括管理者ならびに部長、課長および現業長に対してインタビューや書類検査などを行い、監査で見出された事項については、鉄道安全管理委員会に報告され、共有しています。

内部監査の目的



社長による列車添乗



事故の芽・トラブル情報・ヒヤリ・ハットの報告

鉄道係員による取扱い上の支障、機器の故障、自然災害などに起因する異常やそれらに対する措置の報告、また、事故が発生する恐れがあった事態、事故などや労働災害に関係するヒヤリ・ハットを幅広く収集・分析し、対策を講じることで、安全性の向上に役立てています。



ヒヤリ・ハット情報の収集ポスト

目 ヒヤリ・ハット改善事例

掘削作業時に重機械の操縦者より、誰が重機械誘導員なのかわかりづらかったことから、操縦者が視認しやすい安全チョッキを誘導員が着用し、一目で誘導員であることが区別できるようにしました。

before

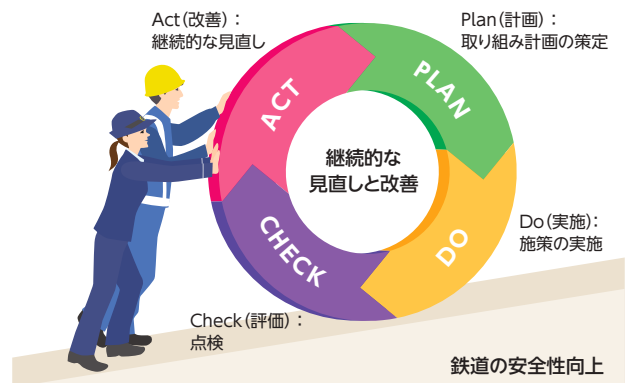


after



安全管理のPDCAサイクル（スパイラルアップモデル）

鉄道安全管理委員会を中心として、計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Act)サイクルに沿って、継続して安全性の向上を図っています。



国土交通省による運輸安全マネジメント評価

事業者の安全管理体制が適切に維持・改善され、有効に機能しているかを、社長・安全統括管理者等へのインタビューや文書・記録の確認を通じて国土交通省が評価・助言するもので、2007年より定期的に受検しています。

第8回評価の主な内容

【実施期間】

2019年6月5・10・11日

【評価事項】

- 経営トップが取り組むべき方向性を明確にするとともに、自らの言葉で社内に情報発信し安全意識の向上に努めていること
- 部門横断的な研修とともに、安全講習会や安全川柳等を活用し、鉄道部門以外の社員の安全に対する意識の向上を図っていること
- 小集団活動等の改善活動を通じて各現場でのPDCAサイクルの実践を促していること

【助言事項】

- 内部監査が、被監査職場が取り組むべき課題とその対応に関する気づきを得る場となるよう強化すること

助言事項を受けて、2019年度の内部監査より被監査職場による「事前調査書」の作成プロセスを導入

安全目標・安全重点施策

経営計画に基づき毎年度、安全目標と安全重点施策を定め、目標の達成に向けて、施策の進捗および実績の管理を行っています。

2021年度 安全目標・安全重点施策

2021年度 安全目標

- (1) 有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策の徹底

2021年度 安全重点施策

- | | |
|---|---|
| <p>1. 新型コロナウイルス感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社員とお客様の感染防止対策を徹底 (2) 危機管理体制の維持・強化 <p>2. 事故・テロ防止施策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ホーム転落・踏切でのトラブル対策の推進 (2) 事故災害やテロ行為などへの備えを強化 <p>3. 大規模イベントへの体制整備と輸送遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 大会期間中の安全・安定輸送を遂行 <p>4. 災害・危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 安全確保および施設の機能維持に向けた対応の推進 (2) 自治体への情報提供など行政との連携強化の推進 | <p>5. 安全意識の高揚、人材育成・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 内部監査の充実、ヒヤリ・ハットの収集活用 (2) 安全教育受講体制の拡充および事故防止力向上 <p>6. 大規模工事の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進 <p>7. 減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 建造物の耐震補強工事の継続実施 (2) 設備更新の継続および防雷設備整備 <p>8. ホーム安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 下北沢駅のホームドア整備、段差隙間対策の実施 (2) 注意喚起ラインの全駅整備完了 |
|---|---|

! topics

2021年夏季開催の東京オリンピック・パラリンピックへの対応

期間中、新宿駅・渋谷駅のターミナル駅や競技会場となった「東京スタジアム」と「武蔵野の森総合スポーツプラザ」の最寄駅である飛田給駅などにおいて、危機管理レベルを引き上げ巡回を強化したほか、缶ゴミ箱を封鎖するなどの対応を行い輸送の安全を確保しました。これらの取り組みに対して、警視庁より感謝状を授与されました。



警戒警備の様子



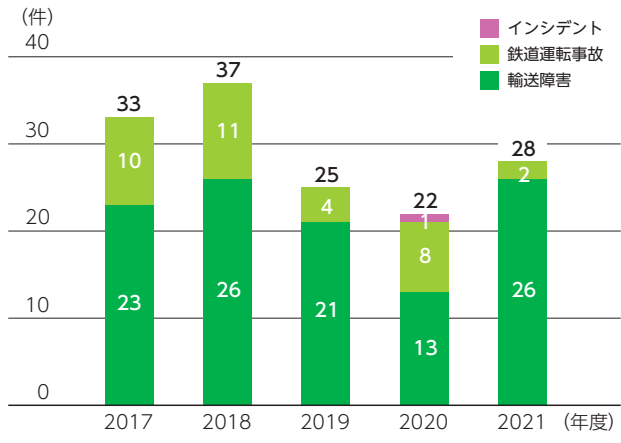
警視庁からの感謝状

2021年度 輸送安全実績

鉄道運転事故などの発生件数(2017年度～2021年度)

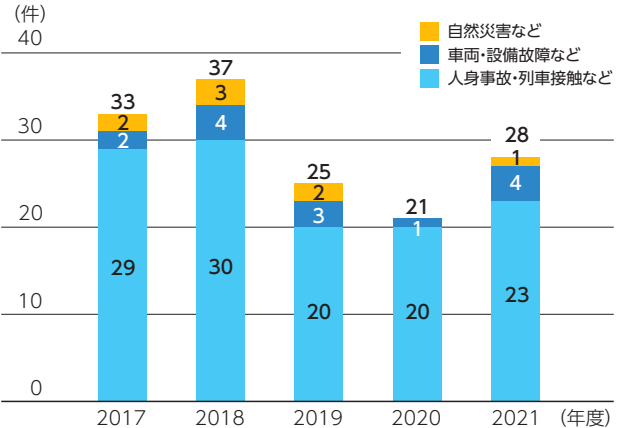
2021年度は、鉄道運転事故が2件(対前年度6件減)、輸送障害が26件(同13件増)発生しました。インシデントは発生していません。

- 鉄道運転事故とは**
「列車衝突事故」「列車脱線事故」「列車火災事故」「踏切障害事故」「鉄道人身障害事故」「鉄道物損事故」をいいます。
- 輸送障害とは**
鉄道による輸送に障害を生じた事態で、鉄道運転事故以外の運休、また列車に30分以上の遅延が生じたものをいいます。
- インシデントとは**
事故には至らなかったが、鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態をいいます。



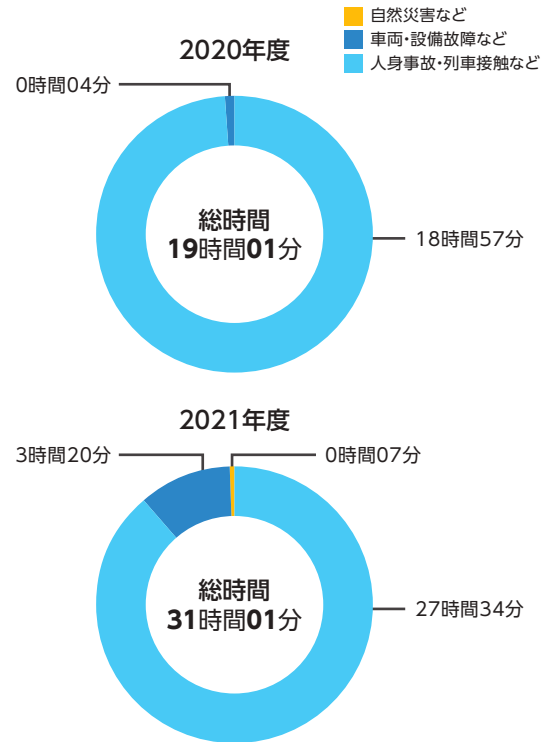
鉄道運転事故などの発生原因(2017年度～2021年度)

2021年度は、駅や踏切道での人身事故や列車との接触などが23件発生しました。また、車両故障などが4件、自然災害によるものが1件発生しました。



鉄道運転事故などに伴う運転見合わせ時間

2021年度の運転見合わせ総時間は、車両故障や車内傷害事件の影響があり、対前年度で12時間00分の増加となりました。



安全報告

社会性報告

環境報告

企業統治

2021年度に発生したトラブルおよびその後の対処

京王線車内傷害事件

- 【発生日時】 2021年10月31日(日) 19時56分頃 【支障区間】 つつじヶ丘駅～飛田給駅間、
 【発生場所】 京王線布田駅～国領駅間 調布駅～若葉台駅間
 【列車】 京王八王子発 新宿行 特急10両編成 【影響人員】 52,000人
 【支障時分】 4時間56分

【概況】

1. 特急列車が布田駅を通過中、車掌は車内非常通報装置の鳴動を認め応答したがお客様からの返答はなく、その後も複数箇所からの車内非常通報装置の鳴動を認め応答したが、お客様からの返答はありませんでした。
2. 運転士は、運転台の仕切扉を叩くお客様を認め緊急事態と判断して国領駅に緊急停車しました。車掌は、お客様から刃物を所持した人物が車内にいる旨の申し出を受けたため、運輸指令所に連絡しました。なお、車両ドアと可動式ホームドアの位置がずれていたため、全開扉を行いませんでした。
3. 被害に遭われた方の対応や、駅間停車列車からの避難誘導を実施し、警察・消防の現場検証を経て、翌1時18分に全線で運転を再開しました。

【事件後の主な対応策】

1. 早期の状況把握に向けた各種防犯カメラの設置
リアルタイム伝送機能付き車内防犯カメラを全車両へ設置するとともに、ホーム上防犯カメラを全駅へ設置します。(2023年度末までに完了予定)
2. お客様の速やかな避難誘導に向けた乗務員の取扱いの見直し
 - (1) 列車の走行中に、複数の車内非常通報装置が押され、かつ、内容が確認できない場合は、最寄駅に停車することを基本とします。
 - (2) 非常時に最寄駅へ緊急停車した際、ホームドアと列車のドアの位置がずれている場合においても、ホームドアと列車のドアの双方を開け、お客様を安全に避難誘導することを基本とします。



車内防犯カメラ

! topics

■ 車内傷害事件を受けて実施した教育

2021年10月31日に発生した車内傷害事件を受けて、見直した乗務員の取扱いを周知するため集合教育を行いました。また、非常時において従業員自らが判断して行動できるよう、対応力向上を目的として、自衛隊OBIによる講演会を行いました。



現業職場での教育

3. 非常用設備の認知度向上の取り組み

- (1) 非常用設備 (非常用ドアコック、ホームドア非常開ボタンなど) の設置場所について、ピクトグラム等を活用した表示方法により視認性向上を図ります。
- (2) 非常用設備の取扱い方法をまとめたポスターや動画を掲出し周知を図ります。



非常用ドアコックの表示



ホームドア非常開ボタンの表示



非常用設備取扱いポスター

4. 未然防止に向けた取り組み

- (1) 駅構内の巡回強化や、京王ライナーの警戒添乗を実施します。
- (2) 警察との合同での訓練を引き続き実施します。
- (3) 車内への持ち込みが禁止されている物品を周知するポスターを掲出します。
- (4) 2021年11月22日付で鉄道事業本部安全推進部に「鉄道テロ・災害対策担当」を新設しました。

傷害事件発生後に行った警察との合同訓練

日付	場所	概要
2021年11月25日、26日	高井戸警察署	暴漢対応訓練
2021年11月30日	渋谷駅	暴漢対応訓練
2021年12月6日	富士見ヶ丘車両基地	車内暴漢対応訓練
2021年12月16日	府中競馬正門前駅	車内暴漢対応訓練 初期消火・救急救命訓練
2021年12月21日	新宿駅	車内暴漢対応訓練
2021年12月22日	多摩中央警察署	暴漢対応訓練
2022年1月18日	京王八王子駅	暴漢対応訓練
2022年3月18日	若葉台車両基地	車内暴漢対応訓練 化学物質テロ訓練
2022年4月21日	多磨霊園駅～飛田給駅間 飛田給駅	車内暴漢対応訓練 初期消火・救急救命訓練
2022年8月4日、5日	高井戸警察署	暴漢対応訓練



車内持ち込み禁止ポスター



訓練風景

主幹制御器カムスイッチ破損によるブレーキ不緩解

【発生日時】 2021年6月28日(月)19時29分頃

【発生場所】 府中駅～分倍河原駅間

【列車】 新宿発 京王八王子行 特急10両編成

【支障時分】 2時間27分

【支障区間】 府中駅～高幡不動駅間

【影響人員】 23,000人

【発生事象】

- 府中駅～分倍河原駅間を走行中の担当乗務員より、非常ブレーキ不緩解の連絡。
- 担当乗務員は点検を行ったところ、制動NFBの遮断を確認したため復位したが、再度遮断。

■NFB(ノーヒューズブレーカー)とは

配線用遮断機のことであり、電路に負荷や短絡などの要因で過電流が流れた際に作用し、回路や電線を保護するもの

【原因】

- 運転台の主幹制御器カムスイッチの「バネ押さえ」が破損し、カムスイッチ部品がフレームに接触し短絡、制動NFBが遮断。
- 「バネ押さえ」製作時、気体の混入により気泡が生じ、長期保管で温度・湿度ストレスを受け、素材の化学的変化の発生に伴い「バネ押さえ」の通常の強度が低下した状態で主幹制御器に使用していたところ、バネの繰返す応力に耐えられず、き裂が生じたと推測。

【対策】

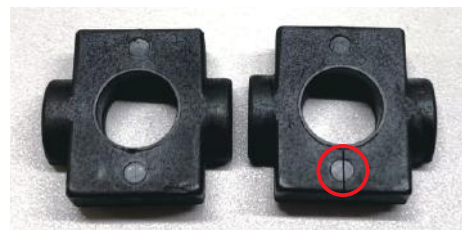
- 京王線の同構造主幹制御器の緊急一巡点検を実施。
- 主幹制御器および、破損、き裂が発生した「バネ押さえ」について、メーカーと合同で調査を実施。
- 月検査時(3カ月を超えない期間)に、「バネ押さえ」の目視点検を実施。
- 「バネ押さえ」の材質と製作方法の変更。



主幹制御器



主幹制御器内部



「バネ押さえ」き裂箇所(左側が正常、右側が今回のき裂)



「バネ押さえ」の対策(材質を変更)

2022年度 安全目標・安全重点施策

2022年度から新たにスタートした中期3カ年経営計画に、安全性を向上していく施策を掲げています。

2024年度に向けた中期3カ年経営計画(2022年度～2024年度)

- 新型コロナウイルス感染症対策の取り組みの徹底
- 事故や輸送障害、テロ行為の未然防止と被害軽減に向けた施策の実施
- 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進
- 耐震補強をはじめとした減災対策の実施
- ホームドア・ホームと車両の段差隙間対策の整備

(鉄道の安全性向上への取り組みを抜粋)

2022年度 安全目標

- (1)有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減
- (2)車内傷害事件を受けた予防策や被害軽減対策の実施
- (3)新型コロナウイルス感染症対策の徹底

2022年度 安全重点施策

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> (1)社員とお客様の感染防止対策を徹底 (2)危機管理体制の維持・強化 2. 事故・輸送障害、テロ行為の未然防止施策 <ul style="list-style-type: none"> (1)ホーム・踏切でのトラブル対策の推進 (2)車内防犯カメラ・ホーム上防犯カメラの設置 (3)様々なトラブルを想定した訓練の定期的実施 3. 自然災害への対応力と危機管理体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> (1)安全確保および施設の機能維持に向けた対応の推進 (2)警察・消防・自治体等関係機関との連携強化 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 危機管理・対応力向上に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> (1)安全教育のさらなる充実 5. 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> (1)用地取得および高架橋構築工事などの実施 6. 減災対策 <ul style="list-style-type: none"> (1)構造物の耐震補強工事の継続実施 (2)耐震性向上素材への設備更新と防雷設備の整備 7. ホーム安全対策 <ul style="list-style-type: none"> (1)笹塚駅でのホームドア・転落防止ゴム整備の実施 (2)ホーム端部の注意喚起ラインの整備 |
|--|---|

人材の育成

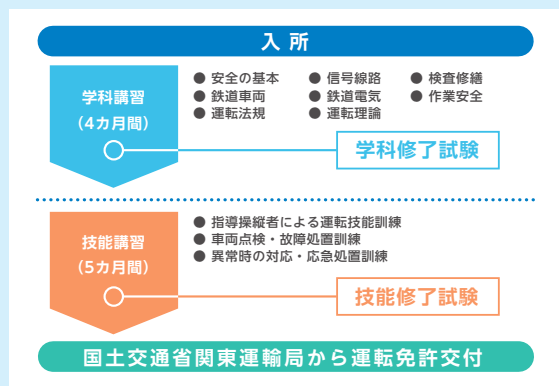
「鉄道従事員として自ら知識・技能の習得に努め、安全・安心・快適な鉄道であるための使命を果たせる人材を育成する」という教育方針に基づいて、教育訓練を行っています。

乗務員の養成と技能の維持・向上

鉄道教習所は、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所として、運転士に必要な知識・技能の教育を行っています。あわせて車掌の養成教育を行っています。

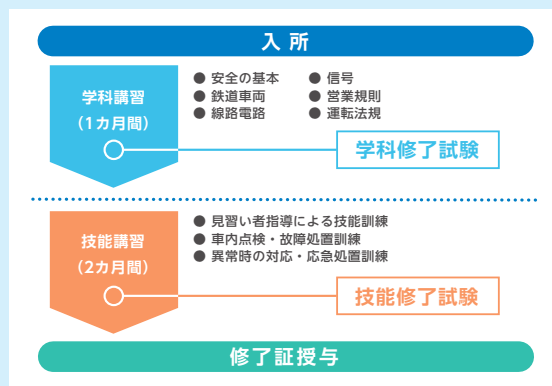
運転士の養成

運転士になるためには、駅係員、車掌を経験した後、学科講習と技能講習をあわせて約9カ月間受けて、試験に合格する必要があります。



車掌の養成

車掌になるためには、駅係員を経験した後、学科講習と技能講習をあわせて約3カ月間受けて、試験に合格する必要があります。



乗務員の技能の維持・向上

運転士・車掌になった後もフォロー教育や監督者による定期的な添乗指導のほか、各職場での勉強会や、個別の面談による指導を通じて、知識・技能の維持・向上を図っています。



運転シミュレータによる運転士訓練



運転シミュレータによる車掌訓練

VOICE

安全意識を持ちお客様に安全・安心を提供する人材を育成します

鉄道営業部
鉄道教習所教師

佐藤 玲



鉄道教習所における乗務員養成では、様々な教材や運転シミュレータを活用して知識や技能のスキル向上を目指すとともに、安全啓発室で過去の事故事例を学ばせ、職責の重みや基本動作の重要性を再認識させ、安全意識向上を図っています。

お客様に安全・安心を提供し、万が一不測の事態が発生した場合でも、最も安全と認められる行動がとれる乗務員の育成に取り組んでいます。



乗務員の体調管理

乗務開始前に、監督者により健康状態を確認するほか、アルコールチェックを徹底しています。また、定期的に健康診断や適性検査を実施しています。



監督者による点呼



アルコールチェック



体温測定

駅係員・技術員の教育

駅に設置されている安全設備を再現したホーム訓練室や信号扱い訓練室、架線や踏切保安設備を再現した屋外訓練施設を使用し、異常時における対応力の強化に向けた訓練を行っています。



信号扱い訓練



屋外訓練施設



ホーム訓練室

競技会・講習会

技能レベル向上を目的とした競技会や技術継承を目的とした講習会、保守管理を委託する協力会社との勉強会などを行っています。



技能競技会



技能継承の講義

安全文化の構築

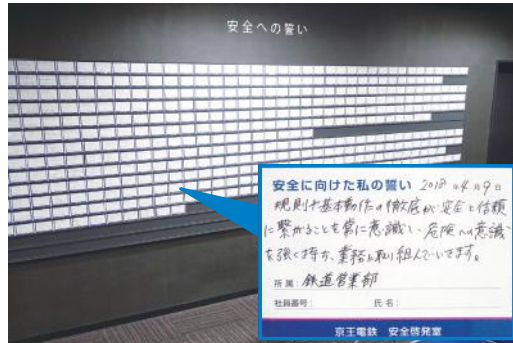
社員の安全意識のさらなる高揚を目指して、「安全啓発室」のリニューアルや、専門家・ベテラン社員による講演会、鉄道部門以外の社員を対象とした安全講習会などを開催しています。

安全啓発室

過去の鉄道事故やインシデントについて、デジタルサイネージを活用し、事故の経緯や原因などを学ぶことができます。鉄道事故の悲惨さを実感することで、一人ひとりが考え、行動につなげることを目指しています。乗務員養成教育や新入社員教育をはじめ、各種教育・訓練に活用することで社員の安全意識のさらなる高揚を図っています。



最新の事故・災害事例を用いた教育



受講後に「安全に向けた誓い」を記入したカードを提出

小集団活動発表会

毎年、各職場で取り組んでいる安全性向上や業務改善活動の発表会を開催し、社員の改善意欲を高揚させながら、業務の継続的改善を行っています。



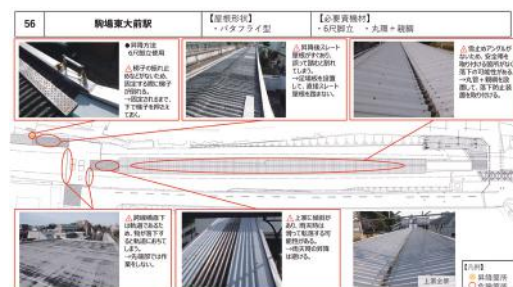
職場の代表者による発表



新型コロナウイルス対策のためリモートによる開催

活動事例 上家安全マップの作成

労働災害のリスクが特に大きいホームの上家について、危険箇所を把握しているベテラン社員が減少しており、若手社員への知識の継承が課題となっていました。そのため、協力会社や先輩社員から得た上家に関する情報を、一目で確認できる資料にわかりやすくまとめることで、経験不足の社員でも安全に点検・作業を行うことができるようになりました。



危険箇所をまとめた上家安全マップ



安全講演会

安全意識の高揚を目的として、毎年開催しています。2021年度は、ANAビジネスソリューション株式会社の松本 理一郎氏をお招きし、『ヒューマンエラー対策』～「誰の責任か」ではなく「どのようにすれば防止できたか」～をテーマにご講演いただきました。



現業職場で聴講している様子

京王失敗学会

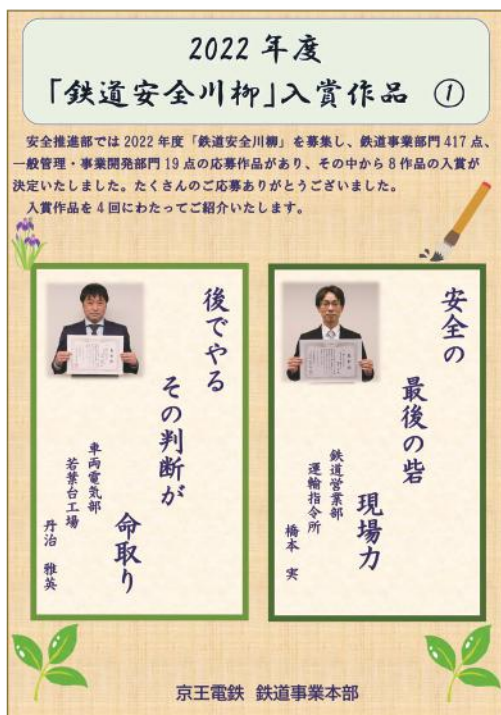
当社のベテラン社員やOBが、過去に体験した事故やヒヤリ・ハット、またそこから学んだ教訓を自ら語ることで、後輩社員に安全文化を伝承する講演会「京王失敗学会」を開催しています。



OBによる失敗体験の発表の様子

鉄道安全川柳

安全への取り組みや思いを広く伝えるものを全社員から川柳形式で募集、入賞作品をポスター化しています。



入賞作品を紹介するポスター

鉄道部門以外の社員への働きかけ

大規模な災害や事故が発生した場合に、鉄道部門以外の社員が駅などでお客様のご案内を行う体制を整備しています。「応援者活動用ワッペン」「応援者対応ツール」などを使用した応援方法のガイダンスを実施しているほか、非常用設備の操作を体験できる安全講習会を定期的に開催しています。

なお、車内傷害事件では、事件後しばらくの間、鉄道部門以外の社員も駅構内の立哨警備を担当しました。



鉄道教習所での安全講習会の様子

危機に備えた訓練

鉄道運転事故や自然災害の発生に備え、さまざまな訓練を通じて、事故・災害への対処能力を高めています。

大規模な訓練

地震や踏切での自動車との接触による脱線など重大事故を想定した訓練を毎年行っています。二次災害を防止する「列車防護」や通報・連絡などの初動対応、警察や消防と連携した負傷者の救出やお客様の避難誘導の確認のほか、脱線車両や電気・通信設備、線路などの復旧訓練も実施しています。



列車防護



負傷者の救出



避難誘導



踏切の復旧



線路の復旧



脱線車両の復旧

VOICE

危機管理について 教育・訓練を積み重ね 安全確保を進めます

鉄道営業部 桜上水乗務区
指導運転士兼車掌

廣瀬 孝太



常日頃から、異常が起きた場合にどのように対応するかをイメージしています。特に一緒に乗務している車掌とは緊密に連絡を取り合い、少しでも気になることがあったら列車無線を使って報告しようと決めています。

また、昨年10月に発生した車内傷害事件では、私たち乗務員だけでなく、応援に来た駅係員や警察、消防と連携して、お客様を安全かつ迅速に避難誘導する大切さを学びました。

そのほかの訓練

▶ 指令本部設置訓練

自然災害発生時の体制構築および本社対策本部、現業部門との連絡体制確認の目的で実施しています。



▶ 指導指令式訓練

ATC(自動列車制御装置)が故障した際、運転方式を変更する取扱いを定めており、関係職場との連絡方および手順確認の訓練を実施しています。



▶ 重連回送訓練

車両故障などで列車が自力で運転できなくなった時に、他の列車と連結して運転する訓練を実施しています。



▶ ウォータースクリーン消防設備訓練

地下駅での火災発生時に備えて、初期消火やウォータースクリーンの確認訓練を実施しています。



▶ マルチプルタイタンパー応急復旧訓練

京王線の道床つき固めを行うマルチプルタイタンパーの故障を想定し、応急復旧訓練を実施しています。



▶ トロリ線復旧訓練

工具の適切な使用方法や作業上の注意点を習得する目的で実施しています。



施設・設備の取り組み

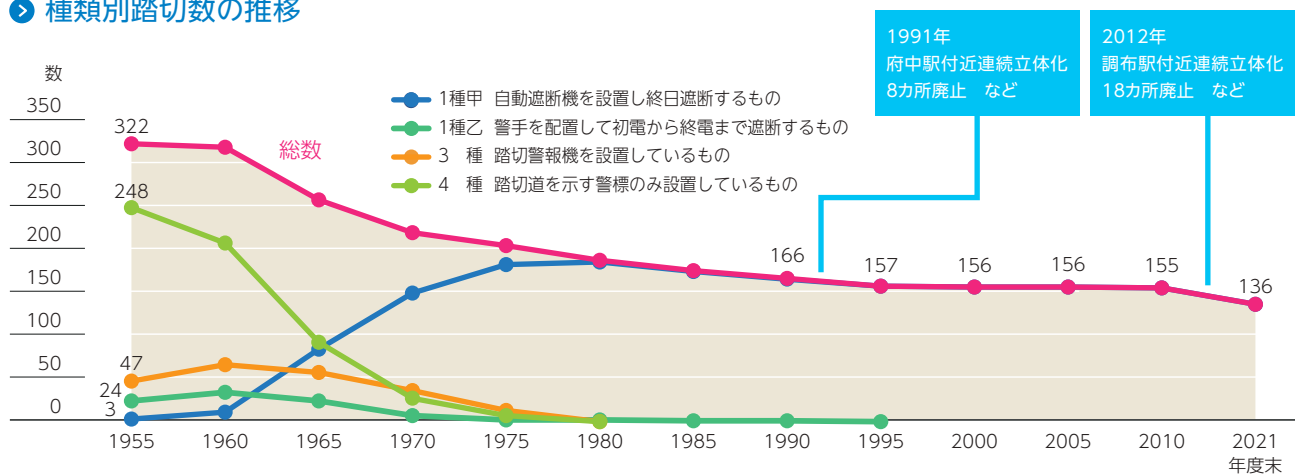
笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差化の推進をはじめ、ホーム・踏切への安全設備の増強、お客様への運行情報提供も含めた運行管理機能のさらなる充実を図っています。

立体交差化

運転保安の向上のため、線路と道路の立体交差化や踏切の整理統合を行ってきました。特に連続立体交差化については1964年の京王線新宿駅～初台駅間の地下化を皮切りに、複数の箇所で開催を実施し、直近では2012年8月に調布駅付近を地下化しました。この結果、踏切数は1955年度末の322カ所から2021年度末で136カ所に減少しています。

※連続立体交差事業:2カ所以上の幹線道路を含む多くの道路と鉄道を連続的に立体化するものであり、道路整備の一環として施行する都市計画事業です。

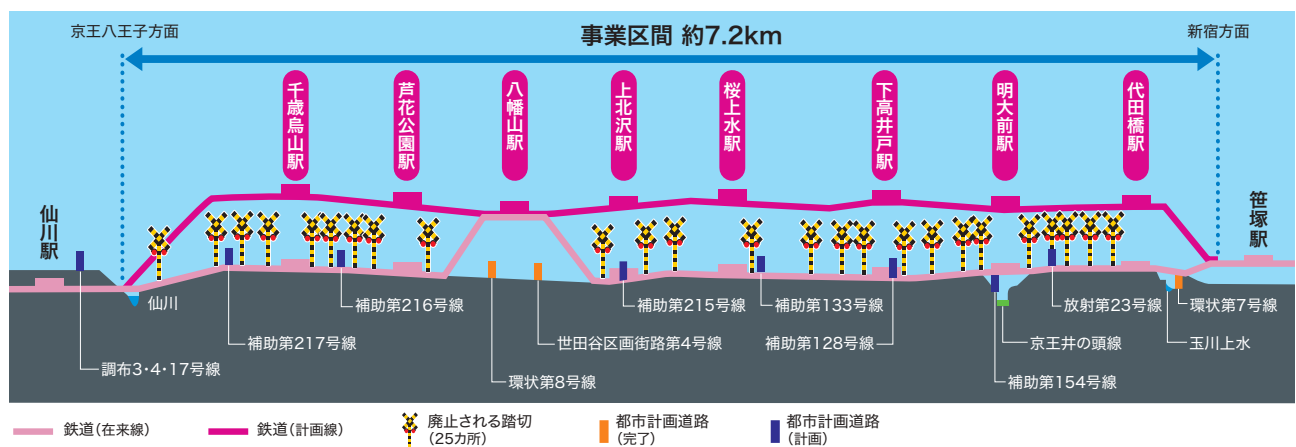
種類別踏切数の推移



京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業

事業主体である東京都と協力し、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業を実施しています。2014年2月、国土交通省から都市計画事業の認可を取得し、用地取得や設計業務などを進めているほか、2018年10月から工事に着手しています。

この事業の完成により、笹塚駅～仙川駅間の約7.2kmを高架化し、25カ所の踏切を廃止するとともに、放射第23号線(井ノ頭通り)などの立体交差化を図ります。





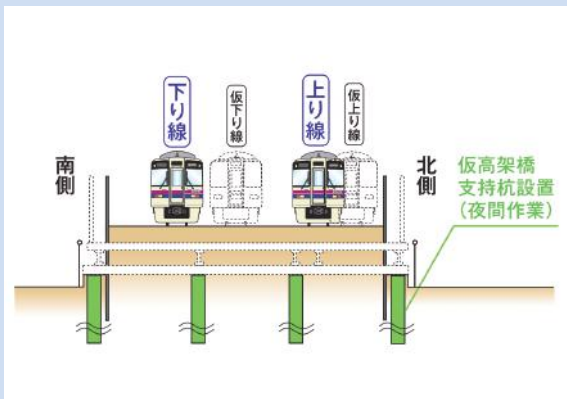
! topics

■ 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の進捗状況

2018年10月から「笹塚駅側取付部・代田橋駅付近」「明大前駅付近」「芦花公園駅付近」「仙川駅側取付部」、2021年4月から「下高井戸駅付近」「桜上水駅付近」の工事に着手していましたが、2022年10月より「千歳烏山駅付近」の工事にも着手いたします。

現在、「明大前駅付近」「桜上水駅付近」「芦花公園駅付近」「仙川駅側取付部」において高架橋躯体の構築を進めており、「明大前駅付近」では、高架橋の橋脚が2基完成いたしました。

また、「笹塚駅側取付部」では仮線工事の準備として、仮高架橋(工事桁)支持杭の設置を行っています。



笹塚駅側取付部付近断面図



高架橋構築箇所(明大前駅付近)



仮高架橋支持杭設置箇所(笹塚駅側取付部)



高架橋構築箇所(桜上水駅付近)

VOICE

安全と生活を
第一に事業を
着実に推進します

工務部
連続立体交差工事事務所技術員

澤田 健



駅部や線路近接箇所での工事が多いため、列車の安全運行を最優先に工事を行っています。また、低騒音・低振動型の工事車両を使用するなど、日頃からご協力いただいている近隣にお住まいの方々の生活環境の保持に努めています。引き続き鉄道の安全と近隣にお住まいの方々の生活を第一に考え、高架化による踏切撤去完遂を目指し、事業を着実に推進していきます。

ATC(自動列車制御装置)

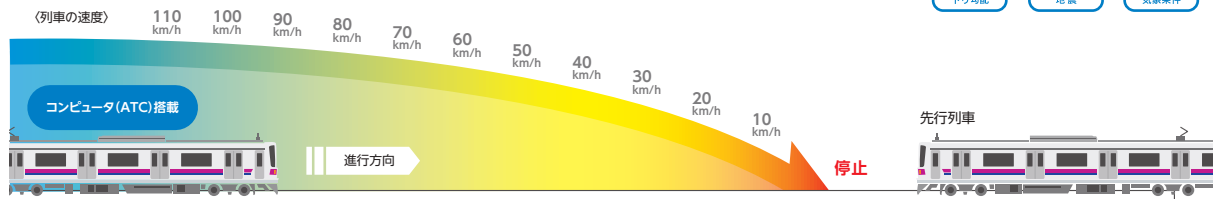
安全性の高いATC(自動列車制御装置)を2013年3月から当社全線で使用しています。

車両に搭載しているコンピュータが、レールに流れている信号電流を受け取ることにより、先行列車との間隔を連続的に把握し、常に適切な速度で走行できるよう、列車を制御します。

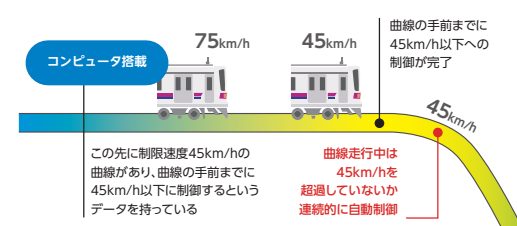
■ ATCで列車を制御できる主なケース



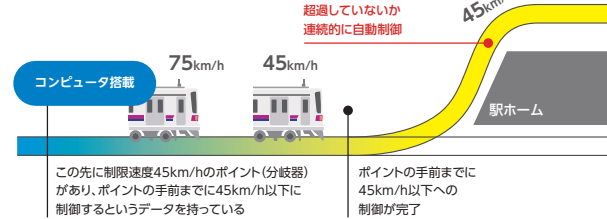
■ ATCによる列車制御のイメージ



■ 曲線通過の場合



■ ポイント通過の場合



鉄道総合指令センター

免震構造となっている鉄道総合指令センターには、列車の運行などを管理する運輸指令所と、電力の供給を管理する電力指令所の機能が集約されています。平常時だけでなく、事故や災害発生時の対応を迅速に行えるよう、連携を強化する体制を整えています。

▶ 運輸指令所

列車の運行を円滑に行うため、TTC(列車運行管理システム)により、進路設定、出発指示合図などを自動制御しています。事故発生時などには、列車の位置や遅れなどを総合的に判断し、運行ダイヤの整理・復旧を図るとともに、駅の「お客さま案内ディスプレイ」や「車内案内表示器」などを通じて、一括してお客様に最新の情報をご案内しています。



▶ 電力指令所

列車運転用電力と駅設備や信号保安設備などに用いる付帯用電力を供給する20カ所の変電所の運転状況や送電状況を、集中監視制御システムにより24時間体制で監視しています。事故や停電が発生した場合は、直ちに予備の設備に切り替え、列車の運行への影響を最小限にするなど、電力の安定供給に努めています。



鉄道運行情報の提供

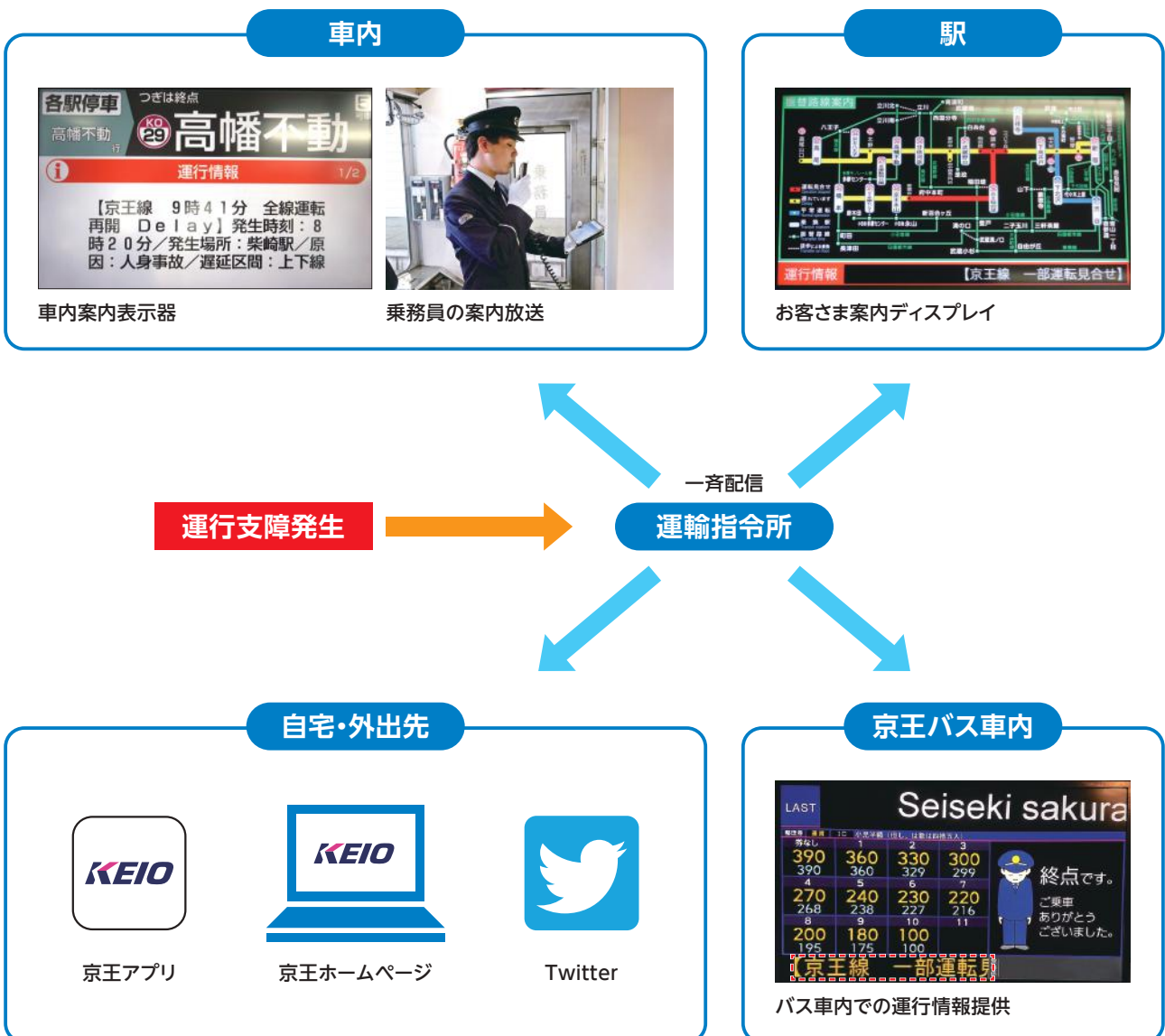
列車の運行に支障が生じた場合、文字情報・路線図・音声などで、鉄道運行情報をお届けしています。

文字情報については、ホームに設置の「行先案内盤」、車内に設置の「車内案内表示器」のほか、「京王アプリ」「Twitter」での情報提供を行っています。

路線図については、改札付近に設置している「お客さま案内ディスプレイ」および「京王ホームページ」にて提供しているほか、ディスプレイなどに表示される文字情報は、音声に変換され全駅で放送しています。

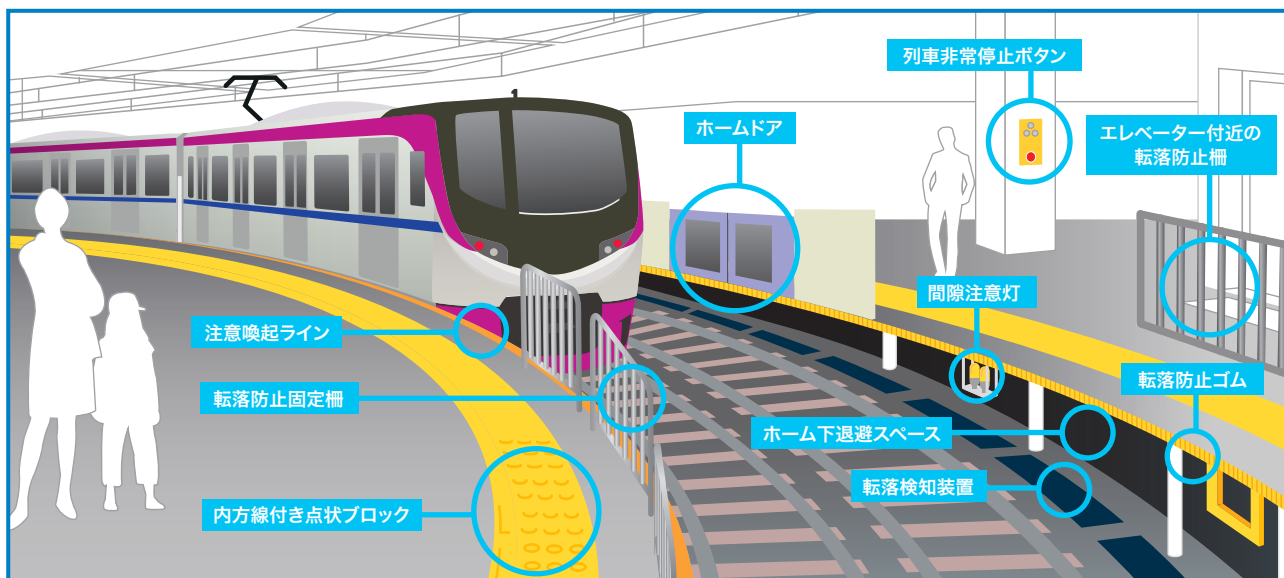
これらの情報の一部については多言語（英語・中国語・韓国語）によるご案内も行っています。

異常時などは、車掌が運輸指令所からの連絡やタブレット端末を活用して、お客様に必要な情報をよりスムーズにご案内できるよう努めています。また、京王バス車内でも鉄道の運行情報を提供しています。



ホームの安全対策

ホームでの安全を確保するため、さまざまな対策に取り組んでいます。



▶ ホームドア

お客様のホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、ホームドアを設置しています。2021年度は下北沢駅で使用を開始しました。今後、笹塚駅で整備するとともに、全駅整備に向けた検討を進めます。



ホームドア車両間扉

▶ 転落防止固定柵

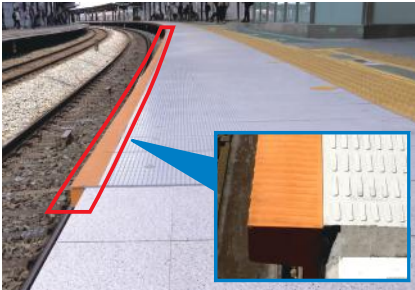
お客様のホームからの転落防止を目的として、終端部や狭隘部のほか、乗客が滞留する駅などのホームの一部に固定柵を設置しています。



ホームドア非常開ボタン

▶ 転落防止ゴム

車両とホームとの間が広く空いている駅では、お客様が乗降の際に転落しないよう、隙間を狭くするための転落防止ゴムの設置を進めています。



▶ 列車非常停止ボタン

お客様がホームから転落された場合などに、このボタンを押すことで接近する列車の乗務員や駅係員などに異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。全駅のホームに設置しています。



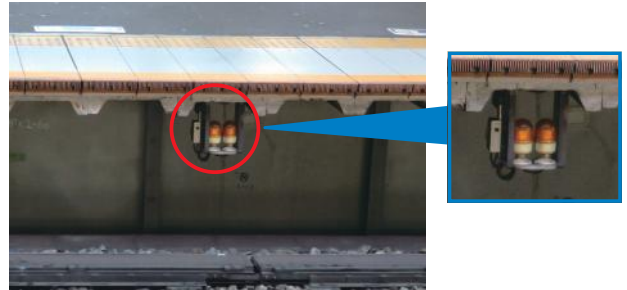
▶ 転落検知装置

曲線ホームなど、車両とホームとの隙間が広く空いている箇所がある13駅に設置しています。お客様がホームから転落された場合、この装置が転落を検知し、乗務員や駅係員に知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。



▶ 間隙注意灯

曲線ホームなど、車両とホームとの隙間が広く空いている箇所がある12駅では、光の点滅で隙間をお知らせする間隙注意灯を設置しています。



▶ ホーム下退避スペース・ステップ

お客様がホームから転落された場合の緊急避難場所として、ホーム下に退避スペースを整備しています。また、退避スペースのない箇所には、ホームに上がりやすくなるためのステップを設置しています。



ホーム下退避スペース

ホーム下ステップ

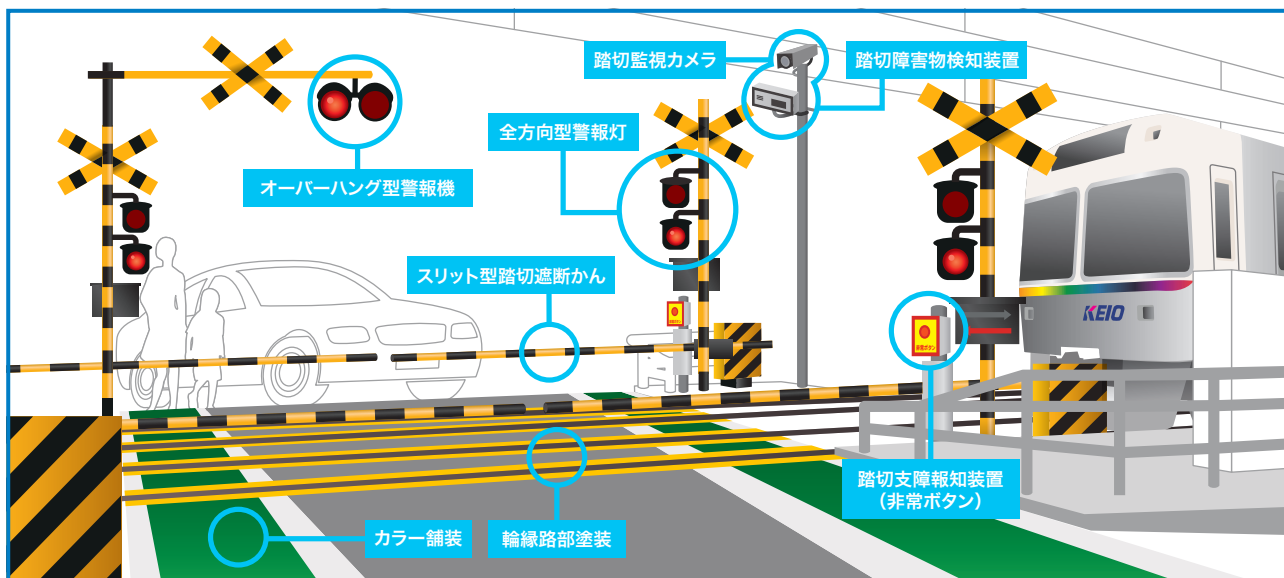
▶ 注意喚起ライン・内方線付き点状ブロック

線路への転落や、列車への触車防止を図るため、ホーム端をオレンジ色に塗装し、注意喚起を行っているほか、目の不自由なお客様の転落防止対策として、ホーム縁端部にある警告ブロックにホームの内側を示す内方線を整備しています。



踏切の安全対策

踏切での安全を確保するため、各種保安装置を設置しています。



▶ 踏切支障報知装置(非常ボタン)

列車との接触事故を未然に防止するため、すべての踏切に設置しています。踏切内に自動車や歩行者が閉じ込められた時に、ボタンを押すと、運転士に異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。また、一部の踏切には、渡りきれずに閉じ込められた場合に、踏切内から操作できる非常ボタンも設置しています。



踏切支障報知装置(非常ボタン)



踏切内の踏切支障報知装置(非常ボタン)

▶ 踏切障害物検知装置

踏切での列車と自動車などとの接触事故を未然に防止するため、89カ所の踏切に設置しています。踏切内に何らかの障害物を検知すると、運転士に異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。従来の光線式より高い精度で検知できる高機能型(エリア検知式)への更新を進めています。



三次元レーザーレーダー式障害物検知装置

▶ スリット型踏切遮断かん

自動車などによる折損を防止するため、屈折可能なスリット型踏切遮断かんを一部の踏切に導入しています。



▶ 踏切監視カメラ

踏切事故の防止や、事故発生時などの状況確認を行うため、踏切に監視カメラの設置を進めています。



▶ カラー舗装

踏切の歩道部分へカラー舗装を行うほか、線路間にスペースがある箇所では、立ち止まり禁止を明示し、事故防止を図っています。



▶ 全方向型警報灯・オーバーハング型警報機

どの角度からも点滅が確認できる全方向型警報灯の導入を進めています。また一部の踏切には道路上の高い位置に警報機を設置しています。



▶ 輪縁路部塗装

自転車などの車輪が線路の溝に落ちることを防止するため、輪縁路部を塗装し、注意喚起を図っています。



▶ 注意喚起看板の更新

踏切内での立ち止まり禁止や、う回路のご案内などわかりやすい看板への更新を進めています。



車両の安全対策

▶ 5000系新造車両の導入

7000系車両の代替として5000系車両1編成(10両)を2022年12月に導入します。車内防犯カメラ、通話式車内非常通報装置を設置するなど車内の安全性向上を図っています。また、車上蓄電池を搭載することで停電時においても自力走行を可能としています。



▶ 車内の安全確保のためのお知らせ動画

車両やホームドアにある非常用設備の取扱い方法や、車両からの避難方法をまとめた動画を、車内ドア上の液晶ディスプレイで放映しています。また、京王ホームページにも動画を掲載して、お客様の認知度向上を図っています。



▶ 消火器

列車火災時における初期消火に対応するため、各車両に消火器を設置しています。



▶ 非常通報装置

車内の異常を乗務員に知らせる装置を全車両に設置しています。また、一部の車両では、乗務員と直接通話ができる非常通報器を設置しています。



▶ 車内防犯カメラ

テロ行為などの未然防止や、車内での迷惑行為などを鑑み、一部の車両に防犯カメラを設置しています。なお、映像データは社内規程に則り、厳正に管理しています。



▶ 非常用ドアコック

車内で異常が発生した時に避難ができるよう、各車両の扉付近に手で扉を開けられる、非常用ドアコックを設置しています。



駅の安全対策

防犯カメラ

駅構内の状況確認や犯罪行為などの抑止を目的として、全駅に防犯カメラを設置し、本社、鉄道総合指令センターにおいて常時確認することができます。



地下駅火災対策

地下駅では複数の避難経路を確保するほか、新宿駅や調布駅などにおいて排煙設備および防火区画の設置工事を行うなど、火災対策を行っています。



幅ヶ谷駅の避難通路

駅係員呼出インターホン

ホーム上で不審者や不審物を発見したとき、また具合の悪いお客様を見かけた際などに駅係員に連絡することができます。



避難経路図

火災や震災時などの避難誘導のため、駅構内に避難経路図を表示しています。地下駅については蓄光タイプのパネルにより、暗所でも確認できるものになっています。



脱線防止対策

脱線防止ガード

半径300m以下の曲線に設置しています。また、一部のポイント(分岐器)や踏切にも設置しています。



PQモニタリング台車(京王線)

営業運転を行いながら、脱線係数(Q/P)を測定し、軌道の状態の安全性を常時監視しています。



日々の保守管理

車両や施設、軌道、設備などについて、計画的な保守管理を行うことで、日々の鉄道の安全運行を支えています。

車両

列車を安全に運行するために定期検査を行っています。日常的な検査は検車区（京王線は若葉台・高幡不動、井の頭線は富士見ヶ丘）で実施し、大規模な検査と修理は若葉台工場で実施しています。

▶ 若葉台工場

4年または走行距離が60万kmを超えない期間に行う「重要部検査」、8年を超えない期間に行う「全般検査」のほか、大規模な修理やリニューアル工事を行っています。



車体吊り上げ

▶ 検車区

10日を超えない期間に行う「列車検査」や、3カ月を超えない期間に行う「月検査」のほか、臨時の小規模な修理や車両の清掃を行っています。また、若葉台検車区では床下型車輪旋盤装置による車輪の削正を実施し、静かで乗り心地のよい車両を維持しています。



車輪の削正

電気設備

変電所・架線・運転保安設備・踏切などの電気設備については、計画的な検査を実施しているほか、点検結果に基づき補修・交換を行っています。



踏切保安設備の点検



変電所の点検



軌道

日中に総合高速検測車や測定機器を用いたさまざまな点検を行い、終電後には点検結果に基づき、軌道のゆがみの整正や各種部品の交換などを行っています。京王線の道床つき固めにはマルチプルタイタンパーという大型の作業車を使用しています。



マルチプルタイタンパー



道床のつき固め

構造物

高架橋・トンネル・橋梁・擁壁などの構造物については、定期的な目視検査や打音検査を実施するとともに、必要に応じて補修工事を実施しています。



トンネル天井部の点検



橋梁の点検

総合高速検測車

実際の列車と同じ速度で走行しながら、架線と軌道の状況を同時に検測することができる総合高速検測車を京王線に導入しています。検測で得られたデータを保守計画に反映し、安全性・乗り心地の向上を図っています。



総合高速検測車



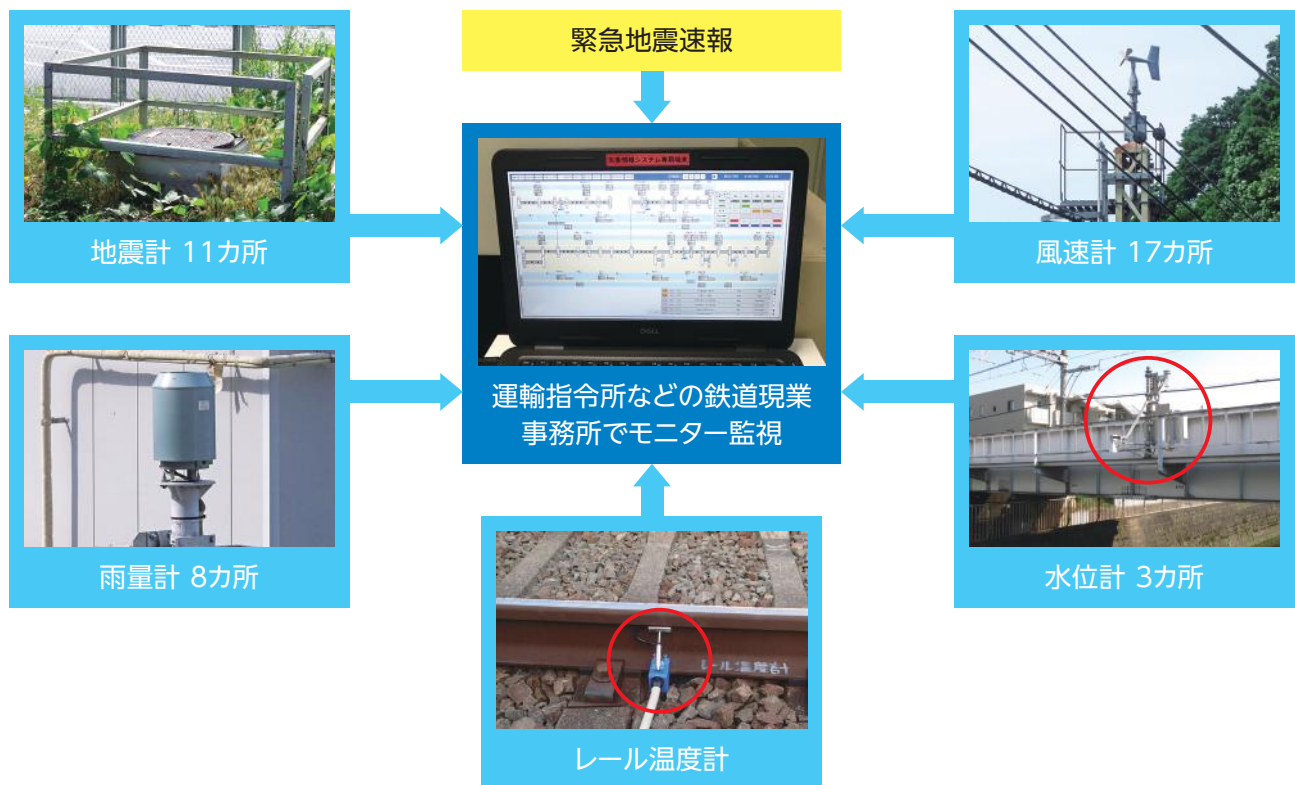
総合高速検測車車内

災害などへの備え

激甚化する自然災害などに対して、監視体制を構築しているほか、耐震補強工事などの施設改良を推進しています。

気象情報システム

自然災害などに迅速に対応するため、沿線に地震計・風速計・雨量計・水位計・レール温度計を設置しています。それぞれの計器で観測されたデータは運輸指令所をはじめとする各鉄道現業事務所において、24時間体制で監視するとともに規定値超過による運転規制や点検巡回の実施状況もモニターに表示されます。



地震への備え

沿線の地震計で、一定以上の震度を感知すると、全列車に警報を送り、列車を停止させます。さらに、気象庁の「緊急地震速報」を活用し、震度4以上の地震発生が想定される場合、自動的に全列車に警報を送り、乗務員が列車を安全な場所に停止させます。また、新たな耐震基準に適合した構造物とするため、橋梁、盛土区間や高架橋柱、トンネルを対象とした耐震補強を実施しています。



耐震補強を実施した高架橋柱



耐震補強を実施した盛土

大雨への備え

沿線に設置した雨量計や水位計の観測データに加えて、気象情報会社から提供される解析雨量のデータを活用しています。観測された時間雨量、累積雨量に応じて、速度規制、運転中止の基準を定めています。また、線路脇斜面の改修工事や施設の浸水対策を進めています。



法面改修



変電所の止水板

強風への備え

高架橋や橋梁などに風速計を設置しています。観測された瞬間風速に応じた速度規制、運転中止の基準を定めています。井の頭線には防風柵を設置しています。



防風柵

落雷への備え

き電線より一段高いところに避雷針の役割を果たす「架空地線」と呼ばれる防護線を必要な箇所へ設置完了したほか、電子機器の耐雷性強化を図っています。



架空地線

VOICE

災害を想定した訓練や災害対策を強化しています

車両電気部
電力管理所 技術掛

芹田 恭也



災害発生を想定した情報連絡訓練を実施し、異常時に迅速な情報共有を行えるよう訓練を都度行っています。また、近年増大している様々な異常気象に対応するため、変電所の浸水対策や避雷器の点検・更新を実施し災害対策を強化しています。

発災時には鉄道の安全を守るために尽力するとともに、お客様と社員の安全を第一に考えて行動し、早急な復旧ができるよう努めていきます。

降雪対策

着雪面の少ないシングルアームパンタグラフの採用や車両基地などの架線には着雪・着氷を防止するため、ヒーターを内蔵した電線を使用しています。

また、主要なポイント(分岐器)には電気融雪機や融雪能力の高い温水式融雪機を導入しています。



シングルアームパンタグラフ



温水式融雪機

事業継続計画(BCP)の制定と改善

大規模地震などの災害発生時、お客様や社員の安全確保を最優先に、迅速な被害調査や早期の運転再開が行えるように事業継続計画を定めています。計画に基づき訓練の実施や備蓄を行っているほか、定期的に計画の改善を図っています。



事業継続計画に基づく訓練の様子



各拠点に設置の防災備蓄倉庫

降灰対策

富士山をはじめとする火山の噴火に備え、線路上に積もった火山灰を除去するカートを導入しています。また、沿線の拠点に除灰用の備品を配備しています。



除灰カート

帰宅困難者対策

大規模災害などにより、帰宅が困難になったお客様への対応として、全駅に備蓄品(飲料水、救急シートなど)を配備しています。



各駅での備蓄品

その他の取り組み

11 住み続けられる
まちづくりを



お客様に安心してご利用いただけるよう係員の知識・技能の向上に努めているほか、さまざまな安全啓発活動を通じて、事故防止の取り組みを行っています。

救急救命対応の充実

異常時に迅速な救護ができるようにするため、救命講習を受講し、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の使用方法などを習得しています。また、全乗務員室、全駅に包帯や止血パッドなどの応急救護品を配備しています。



救命講習会の様子



応急救護品セット

お客様サポートの充実

盲導犬を帯同したお客様や白杖を使用するお客様へのご案内や、接客スキルを向上させるための講習会の実施など、障がいのあるお客様への接客向上のためサービス介助士の資格取得を推進しています。



講習会の様子



有資格者の胸章

安全啓発活動

交通安全運動期間中に、踏切の無理な横断などをしないように呼びかけを行うほか、駅構内や高齢者施設・学校などを訪問し、安全な鉄道利用を呼びかけています。



踏切での啓発活動



小学校での安全教室

グループ会社の安全対策

運輸安全マネジメントに基づく安全対策

京王グループ運輸業各社では「運輸安全マネジメント」に取り組み、安全管理規程の制定、事故件数削減目標の設定、安全意識の向上などを行うとともに、安全関連情報をホームページで公表しています。

また、社長以下役員が営業所を巡回し、安全管理体制の確認や、営業所員・乗務員と安全に関する意見交換を行うなど、積極的なコミュニケーションを通じて、輸送の安全確保を図っています。

バス

安全設備の導入

アイトラッカー(視線計測機)

京王電鉄バスグループでは、各種センサーやカメラを搭載したメガネサイズの機器を用い、運転中の視線を抽出して映像化する「アイトラッカー」を導入しています。

この機器を用いて運転時に見るべきポイントを見ているかを可視化し、確認の偏りやタイミングのずれを明確にすることで、安全確認技能の向上を図っています。



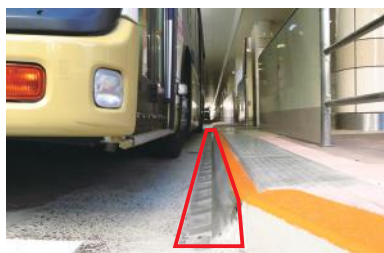
アイトラッカーを使用した訓練の様子

運転中の目線を可視化

バリアレス縁石

京王電鉄バスグループでは、聖蹟桜ヶ丘駅ターミナル等にバス乗降口と停留所間の段差や隙間を小さくする「バリアレス縁石」を設置しています。

これは、お客様からいただいた声が多かった「もう少しバス停に寄せて停めてほしい」という要望にお応えする取り組みで、今後も実証データなどを参考に自治体と協議しながら設置を進めていきます。



バリアレス縁石

側方衝突防止補助装置

2021年4月に運行を開始した連節バスの運転席には、安全確認するミラー以外に、常にバス車外の左右側方・後方室の車内の安全確認ができるように独立したモニターが3台あります。

その他にもバスの左右側方の危険を、モニター表示と音で乗務員に知らせる「側方衝突防止補助装置」を搭載しています。



側方衝突防止補助装置

事故の未然防止

乗務員の教育

京王電鉄バスグループでは、通常では体験できない運転上の危険などを体験する泊りがけの研修を行うなど、安全運転に対する意識の向上を図っています。西東京バスでは、全乗務員を対象に、社長懇談会、事故防止・接遇向上の座学研修、運転実技訓練の3部構成の定期研修を開催し、役員が会社方針の説明を行うほか社長が質疑応答を通じ全乗務員と直接対話すること



で、現場の声を安全対策につなげています。

運転実技訓練

高尾登山電鉄

高尾登山電鉄では、毎年2回、乗客の救助訓練を実施しています。ケーブルカーの夜間運行時や、リフトの急斜面、高所保護網上など、さまざまな状況下で運行不能となった場合を想定した訓練を実施しています。さらに、高尾警察署と合同で不審者対応訓練を実施しました。



刺股を使用した制圧訓練の様子

御岳登山鉄道

御岳登山鉄道では、運輸安全マネジメントに基づく内部監査、経営トップによるパトロール、年2回の集合教育、地元消防署のご協力をいただきテロ対策および旅客避難誘導訓練などを実施しています。

また、自然災害や老朽化によるリスクに対処するため、鉄道構造物健全度調査や車両台車浸透検査を行い、事故の未然防止に努めています。



旅客避難誘導訓練の様子

タクシー

京王自動車グループでは「安全運転支援システム」を導入し、IT会社に対し、適宜システム改良の要望を行いながら、事故削減に向けた取り組みを行っています。

また、年に2回開催している現業説明会「くるまの会」では、事故発生状況や各種施策の内容について、営業所ごとに本社経営層と乗務員のリーダーで意見交換を行い、本社と営業所が一丸となって「安全・安心」の実現を推進しています。



車庫内で一時停止の実技講習

トラック

京王運輸では、2008年に全日本トラック協会が認定する「安全性優良事業所」の取得率100%(全5事業所)を達成しました。

また、安全性優良事業所に10年間認定されたことにより、多摩営業所が2017年に関東運輸局長より表彰されました。



安全性優良事業所に交付される「Gマーク」が貼付されたトラック

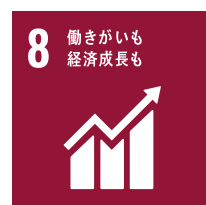
住んでもらえる、 選んでもらえる 沿線づくり

個性的な飲食店舗を中心とした商業エリアと「遊ぶように働く」を体現するワークプレイスが同居したミカン下北の開業や、日常の買い物に不便なお客様を対象に行う移動販売、「京王キッズプラッツ桜上水」の開園など、地域社会の課題解決への取り組みを推進しています。

事業活動を通じて社会的責任を果たすことで、沿線とともに成長し、より良い暮らしの実現に努力し続けます。

CONTENTS

お客様の利便性・快適性の向上	P.60
お客様との対話	P.64
多世代が生活しやすい沿線づくり	P.66
地域社会への貢献	P.68
株主・投資家・取引先等への取り組み	P.71
人材の活用と働きやすい職場づくり	P.72





移動販売



京王キッズプラッツ桜上水の屋上園庭



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

10 人や国の不平等
をなくそう

11 住み続けられる
まちづくりを

16 平和と公正を
すべての人に

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

時代の変化に柔軟に対応し、魅力ある街づくりと お客様の幸せな暮らしの実現に向け取り組みを進めます



取締役
常務執行役員
南 佳孝

下北沢駅の高架下施設
ミカン下北

京王グループは、鉄道、バスを始めとした、社会インフラを担う企業グループとして幅広い事業を通じ、お客様に「住んでもらえる、選んでもらえる」沿線を目指し、将来にわたり安心・便利で魅力ある街づくりを進めています。

2022年3月に下北沢駅高架下にオープンした「ミカン下北」では、賑わいが街に滲み出す施設、敢えて完成させない進化し続ける施設づくりを目指し、個性豊かな店舗とワークプレイスを同居させ、遊ぶと働くが融合する新しい街づくりの形を提案しています。また、MaaS（様々な移動手段を一元的に提供するサービス）への取り組み「TAMa-GO」では、2021年11月に青梅市内で地域と連携し「エリア内の観光情報などの提供」や「Webチケットの販売」「デマンド交通の運行」などの実証実験を行いました。多世代が生活しやすい沿線に向け

ては、2022年4月に認可保育所「京王キッズプラッツ桜上水」を新たに開設したほか、移動販売の展開エリアを拡大するなど、それぞれの地域の課題解決に貢献する取り組みを積極的に推進しています。

一方、人材の活用と働きやすい職場づくりに向けては、人権・ハラスメント防止の啓発をはじめ、従業員アンケートの実施や柔軟な働き方の実現に向けた制度の充実に努めることで、多様な人材が長期にわたり活躍できる環境づくりを推進しており、2022年3月「健康経営優良法人2022」に認定されました。今後も、様々なステークホルダーの皆様の声に耳を傾け、一つひとつ課題を解決していくことで、地域社会の持続的な発展と幸せな暮らしの実現に貢献してまいります。



ミカン下北 オープン時のイベント



! topics

■ ようこそ。遊ぶと働くの未完地帯へ。

下北沢駅の高架下新施設「ミカン下北」開業

「ようこそ。遊ぶと働くの未完地帯へ。」というプロジェクトコンセプトのもと、下北沢に「働く」というエッセンスを加え、多様な人々がジャンルを超えて交ざり合う場として下北沢駅の高架下新施設「ミカン下北」が開業しました。下北沢カルチャーを感じさせる物販店と、商業施設への出店自体が稀有な人気飲食店を中心とした商業エリアに「遊ぶように働く」を体現するワークプレイスが同居しています。

事業パートナーと協同運営するワークプレイス「SYCL by KEIO」では、『誰かの“やってみたい”が街とつながる』をテーマに、多様なつながりからコトが生まれ、その活動を下北沢の街に循環させるコミュニティプログラムを推進していきます。



憩いのスポットになっている大階段

SYCL入居者や下北沢の街の人が参加した
下北妄想会議 @SYCL by KEIO

■ MaaS(様々な移動手段を一元的に提供するサービス)への取り組みについて

デジタルを活用して交通や各種サービスを「ひとつのサービス」として提供するMaaSの取り組みを2021年から進めています。スマートフォン専用サイト「TAMa-GO(タマ・ゴー)」を活用し、高尾山ケーブルカー・リフトチケットや京王プラザホテルのグルメチケットなどの発売、当社グループの高速バスやホテルが事業を展開する岐阜県高山市での観光情報発信やバスチケットの発売を行っています。

また、2021年11月には青梅市内や八王子市南大沢駅周辺において、来訪者の利便性向上と回遊性の向上を目指したMaaSの実証実験を地域と連携して実施いたしました。

今後も地域の方々のニーズをくみ取りつつ、京王線沿線をはじめとしたエリアの魅力を発信することで、多くのお客様にお越しいただき、活力のあるまちづくりにつなげていくことを目指します。



告知ポスター

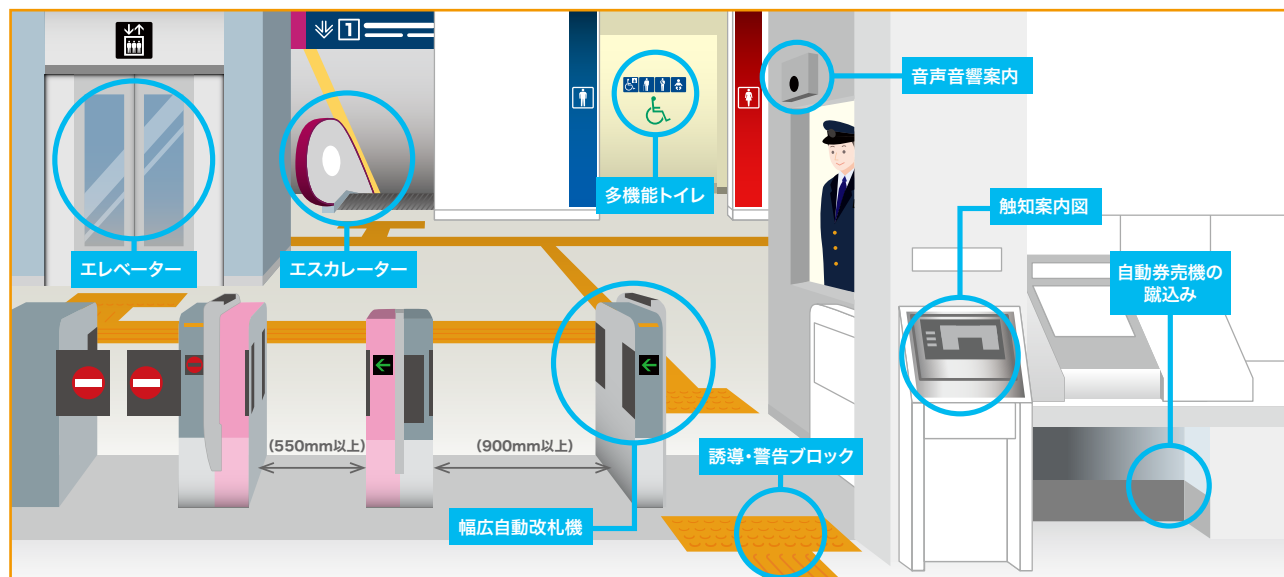


サービス画面(イメージ)

お客様の利便性・快適性の向上

バリアフリー設備の整備や、外国語でのご案内、係員によるお客様への声掛け・見守りを実施することで、すべてのお客様が安心して京王グループをご利用いただけるよう、サービスの拡充を進め快適性の向上を図ります。

駅サービスの向上



▶ エレベーター・エスカレーター・スロープ

全駅の出入口から各ホームまで、段差がなく移動できるよう、エレベーターやスロープを設置しているほか、エスカレーターを設置しています。エレベーターは66駅、エスカレーターは47駅に設置しています。2020年度には新宿駅(京王新線口)改札外にエレベーターを新設しました。

▶ 触知案内図・点字による案内

凹凸・点字・ピクトグラム(案内用図記号)を用いた案内図を全駅に設置しています。

▶ デジタル障がい者手帳「ミライロID」

スマートフォン向けのデジタル障がい者手帳「ミライロID」を呈示することで、身体障がい者手帳および療育手帳の呈示に代える取り扱いを早期から開始しているほか、「ミライロID」を運営する株式会社ミライロに出資しています。



▶ お客様用トイレの環境改善

車いすをご利用のお客様や小さなお子様連れのお客様にも安心してご利用いただけるよう、「多機能トイレ」を68駅に設置しています。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、洗浄・殺菌効果の高い泡タイプのオートソープディスペンサーを全駅のお客様トイレ洗面台に導入しました。

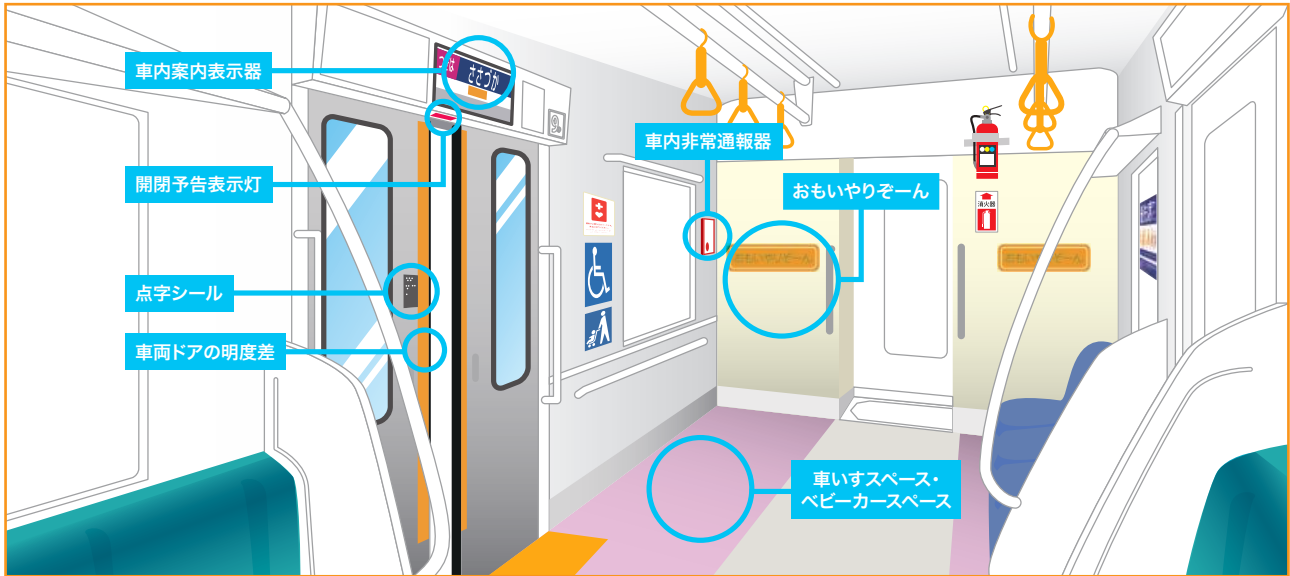


▶ 駅係員呼出インターホン

ホーム上で緊急事態が発生した場合やご案内が必要な場合などに、駅係員と通話ができるインターホンを全駅に設置しています。



車内サービスの向上



▶ おもいやりゾーン

車内の優先席を明確化するため、優先席付近のつり革や座席の色を変えた「おもいやりゾーン」を設置しています。「おもいやりゾーン」付近では混雑時に携帯電話の電源をお切りいただくようご案内するなど、人にやさしい車内環境の整備に努めています。

▶ 車両のリニューアル

車両はユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、すべてのお客様がご利用しやすい車内環境の整備を進めています。車いす・ベビーカースペースについては、全編成に設置しており、既存車両のリニューアルおよび車両の新造に合わせ、全車両に拡大します。2021年度は、京王線2編成(16両)に整備しました。



ユニバーサルデザインによる車内の一例



車いす・ベビーカースペース

▶ 女性専用車

2000年に実施した試験導入の結果を踏まえて、2001年から平日23時以降に新宿駅を出発する急行系列車の最後部1両を女性専用車として運転を開始し、2005年から平日朝間・夕間の通勤時間帯にも拡大しました。

なお、女性専用車には女性のお客様のほか、小学生以下のお客様、身体の不自由なお客様とその介助者の方もご乗車いただけます。

▶ 車内案内表示器の2画面化

車内ドア上に液晶ディスプレイを2画面設置し、運行案内およびニュースや天気予報などのコンテンツ、交通広告を放映しています。2020年度には井の頭線全編成での2画面化が完了しました。



駅・車内での情報提供

▶ お客さま案内ディスプレイ・行先案内盤

事故や災害などで列車の運行に支障が発生した際には、支障区間や振替輸送経路などを、視覚的に分かりやすく表示する「お客さま案内ディスプレイ」を全駅の改札口付近に設置しています。

また、列車の発車時刻や種別・行先・停車駅などを文字でお知らせする「行先案内盤」を全駅に設置しています。



行先案内盤

▶ 京王アプリ

京王線・井の頭線の運行情報や列車の走行位置が確認できる京王アプリを配信しています。

列車の走行位置から各駅の到着時刻と編成両数などの情報が分かるほか、列車の運行に支障が発生した際には「お客さま案内ディスプレイ」と同様の情報や、迂回路検索サービスへのリンクを表示できるように改修し、お客さまへの情報提供機能を強化しています。

2021年度には、京王アプリをリニューアルし、マイステーションを機能拡充したことで、鉄道利用時の利便性が向上しました。



▶ タブレット端末の導入

お客様に分かりやすいご案内をするため、列車の最新の運行状況を確認する機能のほか、翻訳・筆談などのアプリを搭載したタブレット端末を全駅に設置するとともに、同様のアプリ等を搭載したスマートフォン端末を車掌が携帯しています。

▶ 外国語による情報提供

外国人のお客様へのご案内の拡充を図るため、駅の看板や車内案内表示器などで4カ国語表記(日・英・中・韓)によるご案内を行っています。また、一部の車両には自動放送装置を導入し、日本語と英語による停車駅や乗り換えなどのご案内を実施しています。2021年度には京王線2編成に導入しました。



運行情報提供用
二次元コード

▶ 駅・電車内での公衆無線LANサービス

無料Wi-Fiサービス「KEIO FREE Wi-Fi」を20駅3施設において日本語、英語、中国語(簡体・繁体)、韓国語で提供しているほか、2017年9月に登場した5000系車両において「KEIO TRAIN FREE Wi-Fi」サービスを提供しています。

また、2019年から京王線・井の頭線全駅および列車内(一部の列車を除く)で、訪日外国人のお客様向けの無料Wi-Fi接続支援アプリ「TRAVEL JAPAN Wi-Fi」での接続対応を開始しました。



公衆無線LANサービス

グループの取り組み

▶ デジタルサイネージ案内板

京王電鉄バスグループでは、京王線の府中駅ターミナル等に「デジタルサイネージ案内板」を設置しております。

視認性の向上につながり、お客様のストレスが軽減できるだけでなく、利用しやすい環境を整えることで利用促進が図れます。行先の乗り場、発車時刻などが確認できます。



府中駅のデジタルサイネージ案内板

▶ 京王すまいるサポートタクシー

2020年6月から、青梅市内のお客様を対象に、病院などへの付き添いや買い物代行サービスを行う「京王すまいるサポートタクシー」を行っています。

2022年2月からは、「定期訪問による見守り」と専用呼び出しボタンによる「ご用命承り」をセットにした見守りサービスを多摩市内のお客様を対象に開始しました。



ワクチン接種会場への輸送の取り組み

▶ 京王電鉄バス

多摩市のワクチン接種会場への輸送と、ワクチン接種会場待機バスとして貸切バス259台を稼働しました。



▶ 西東京バス

羽村市で受託運行しているコミュニティバスの一部のバス停を活用し、市内を巡る4コースを設定してワクチン接種の貸切バスを運行したほか、奥多摩町でも貸切バスを運行しました。



▶ 京王自動車

新型コロナワクチン接種の開始に伴い、港区、調布市、国立市、昭島市、福生市、青梅市、あきる野市、多摩市、羽村市と提携し、集団接種会場までの移動にかかるタクシー料金の一部を自治体が負担する施策のもと、合計で約3万回の輸送を行いました。



お客様との対話

京王グループに対する理解を深めていただくため、さまざまな形でお客様との積極的な対話を行いながら、お客様からの声を事業活動にも反映させています。

積極的な広聴活動

▶ 京王お客さまセンター

2021年度は24,989件のお客様からのご意見・ご要望を頂戴し、うち20,444件は鉄道に関するものでした。いただいた声に対しては、速やかに回答しているほか、担当部署においてサービス向上や従業員教育に活用しています。

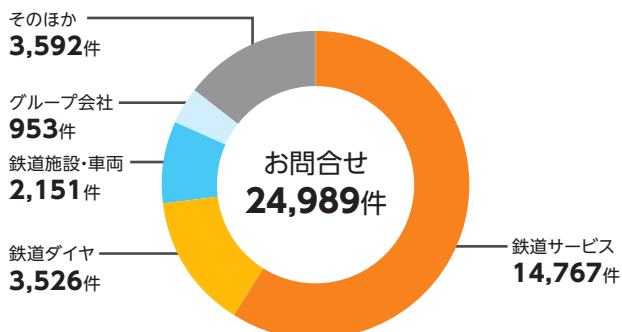
電話 042-357-6161

受付時間 9:00～18:00 年中無休(年末年始を除く)

▶ 車内温度に関するご意見・ご要望

ご意見・ご要望が多い声の一つに、電車内の温度に関するものがあります。ホームページ上に投稿フォームをご用意し、詳細な状況を伺うことで、適切な温度管理に活用しています。

■ お客様の声(2021年度)



▶ お客様満足度調査

電車の運行・ダイヤや、係員・駅施設のサービスレベルなどについて、お客様満足度調査を定期的に行っています。京王お客さまセンターには寄せられない、潜在的なご意見を伺うことで、問題点の把握と改善に努めています。

ホームページや冊子における多言語案内

▶ ホームページ・Facebook

京王ホームページでは、英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、フランス語、タイ語での情報案内をしています。また、2018年3月に中国語(繁体字)のFacebookを開始し、訪日リピーターの多い台湾・香港のお客様によりタイムリーな沿線情報の提供を行っています。



京王ホームページ(英語)

▶ 各種案内パンフレット・動画

京王電鉄では、外国人のお客様に京王沿線の観光スポットを紹介する冊子や動画などを配布・公開しています。西東京バスでは、バスの乗降ポイントを英語、中国語、韓国語で解説する動画を制作し、YouTubeで公開しています。



沿線紹介動画
One Day Fun Day! Ride the Keio Line

沿線情報誌(英語・中国語・タイ語)



西東京バス
「バスの乗り方」動画

その他のコミュニケーション

交通教室

京王電鉄、京王電鉄バスグループ、西東京バスでは、地域の学校施設を訪問し、電車・バスの安全な利用の仕方やマナーについて動画などで分かりやすく授業を行っています。動画の教材は、京王ホームページやYouTubeなどでも公開しています。



授業の様子

けい太くん安全・マナー教室動画

VOICE

電車の安全な利用の仕方を伝えています

鉄道営業部
井の頭北管区 営業主任

押田 隆幸



電車内・ホーム・踏切道などの鉄道施設を利用する上で、危険な行為・行動によっては思わぬ重大事故につながる恐れがあるため、沿線の学校施設を訪問し、電車の安全な利用の仕方について授業を行っています。また、授業では鉄道に関わる仕事内容についても伝えることで、子どもたちが将来の職業について考えるきっかけづくりの一助にもなっています。

安全報告

社会性報告

環境報告

企業統治

新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

京王線・井の頭線の安心・快適なご乗車に向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症の感染対策に関するお客様の声・要望を多くいただく中、継続してお客様がより安心して電車を利用できる環境の整備に努めています。

1 車内換気【密閉対策】

【車内の換気イメージ】



換気のために窓を開ける際のご目安 社員による窓開け



2 車両内の抗ウイルス・抗菌加工

当社の全車両(873両)のつり革、手すり、座席、ガラス面、壁面など車両内全般に、抗ウイルス・抗菌効果のあるコーティング剤の噴霧加工を実施しています。



3 混雑情報の提供

電車をご利用されるお客様の「密集」「密接」を避け、空いている時間帯へのご乗車(オフピーク乗車)を積極的に推奨するため、当社ホームページにて、ラッシュ時間帯のお客様ご利用状況を提供しています。



多世代が生活しやすい沿線づくり

幅広い世代の方が生活しやすくなるよう、ライフスタイルに応じたサービスを提供することで、持続可能で住み続けられるまちづくりに貢献していきます。

子育て支援の取り組み

子育て世代へ幅広いサービスを提供し、子育てしやすい環境づくりを行っています。

▶ 京王キッズプラッツ

認可保育所・東京都認証保育所・企業主導型保育所「京王キッズプラッツ」は、家庭的な雰囲気の中、お子様一人ひとりの発達や気持ちに寄り添い、豊かな成長をサポートします。

2022年4月には10ヵ所目となる認可保育所「京王キッズプラッツ桜上水」を開設しました。「京王キッズプラッツ桜上水」は敷地内の園庭に畑を設け、体を動かす遊び以外にも土や植物に触れることで、京王の保育の特徴の一つでもある「自然とのふれあい」を推進しています。



京王キッズプラッツ桜上水の園庭

▶ 事業所内保育所「サクラさーくる」

多摩市の認可基準に基づく地域型事業所内保育所として、地域のお子様の受け入れも行っています。



事業所内保育所「サクラさーくる」

地域高齢者を支える事業

多様化するライフスタイルにあわせシニア向け住居の充実を図っています。

▶ 介護付有料老人ホーム「アリスタージュ経堂」

バリアフリーの居室と魅力的な共用空間を有するシニアレジデンスで、ご入居者の身体状況に応じて、生活サポートサービスや介護サービスなどを提供しています。



アリスタージュ経堂

▶ サービス付き高齢者向け住宅「スマイラス聖蹟桜ヶ丘」

快適な住み心地にこだわったバリアフリーの居室と24時間体制の有人管理により、シニアの自由で安心な暮らしをサポートします。また、地域の方のご利用も可能な在宅介護サービスの拠点も併設しています。



スマイラス聖蹟桜ヶ丘



暮らしのお手伝い

子育て世代からシニア世代まで幅広い世代の方にゆとりある暮らしの実現をお手伝いする生活サポートサービスの提供を行っています。

京王ほっとネットワーク

移動販売

沿線地域(多摩市・日野市・八王子市・調布市・稲城市など)にて日常の買い物に不便なお客様を対象に移動販売を行っています。対象エリアを拡大したことで、より多くのお客様にご利用いただいています。



「移動販売」の様子

家事代行

水まわりのお掃除やお洗濯などの家事全般のお手伝いや、お買い物や病院への付き添いにも対応し、お客様の安心・便利をお手伝いしています。



「家事代行」の様子

! topics

家事代行サービスで子育て世帯を応援しています

2021年7月、家事代行サービスのメニューに、妊婦の方や未就学児がいらっしゃる家庭を対象に、家事代行を気軽にお試しいただける「子育て応援お試しメニュー」を新設しました。

また、「付き添いサービス」の対象者を拡大し、5歳以上のお子様の習い事と自宅の間の送迎などが利用可能になるなど、子育て世帯の家事負担軽減をサポートしています。

さらに、世田谷区が発行する「せたがや子育て利用券」や、杉並区が発行する「杉並子育て応援券」の対象事業者として承認を受け、家事代行サービスが利用券、応援券の対象サービスとなりました。



京王メモリアル

葬儀や法要の施行のほか、終活のお手伝いや相続準備、葬儀に関する心配事など、沿線にお住まいのシニア層やそのご家族の不安を解消するため、幅広いお手伝いを行っています。



終活相談の様子

地域社会への貢献

京王グループは、地域の活性化や課題解決、地域とのコミュニケーションなどに寄与する事業活動や社会貢献活動を通じて、地域社会とともに持続的な発展を目指していきます。

文化・教育・子育て支援イベント 京王アカデミープログラム



京王では、沿線の大学・団体などと連携して、沿線地域で育まれてきた多様で豊かな文化資産を見つめ直し、お子さまから大人まで幅広い世代に向けた「学びプログラム」を実施しています。

ともに学び、ともに創り、ともに育つ。

「京王アカデミープログラム」は、より豊かな京王沿線の暮らしに向けた、新しい学びのかたちです。

2021年度に実施したイベント

	実施イベント	対象	内容
教育	天体観測イベント 「ふくにわ」で皆既月食を観よう	小学生と保護者	京王リトナード永福町の屋上庭園「ふくにわ」にて、コスモプラネタリウム渋谷のチーフ解説員の永田美絵さんによる天体や皆既月食についての解説を交え学びの機会を提供しました。
文化	沿線めぐり 「大本山 高尾山薬王院」 ～貫首の法話を聞き修行僧と境内を巡り学ぶ～	大人向け	法話や護摩祈祷、御本社（飯縄権現堂）のほか普段一般公開していない書院や仏舎利塔の内部などを、修行僧の案内で巡るプログラム。

天体観測イベント

「ふくにわ」で皆既月食を観よう



沿線めぐり

「大本山 高尾山薬王院」
～貫首の法話を聞き修行僧と境内を巡り学ぶ～



寄附・支援

フードドライブ（子どもへの食品支援）

子どもの貧困が社会問題となる中これらの支援を目的に、京王電鉄本社勤務者に家庭で余っている食品の提供を呼びかけました。集めた食品は特定非営利活動法人 フードバンクTAMAを通じて多摩エリアの子ども食堂や、支援を必要とする家庭に寄附をしました。



集められた食品

国連難民支援キャンペーンへの貢献

紛争・迫害により、難民となった人々を支援するため、京王聖蹟桜ヶ丘SC、京王八王子SC、キラリナ京王吉祥寺などで、2015年5月～2021年4月の6年間、国連UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）協会の公式支援窓口を設置しました。

月々一定額の支援を呼びかけた結果、802名から1,830,000円／月の支援協力をいただき、活動に貢献したことから、同協会から感謝状をいただきました。





チャリティ・スポーツ振興・産学連携

京王駅伝フェスティバル

2013年から、駅伝競技や親子ランのほか、キャラクターや学生・団体によるパフォーマンス、鉄道イベントなどを味の素スタジアムにて実施しています。参加料の一部は、チャリティとして寄付しています。(2020・2021年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止)



京王駅伝フェスティバル

京王音楽祭

1994年から実施しています。京王駅伝フェスティバルと同様に、入場料の一部をチャリティとして寄付しています。(2020・2021年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止)



京王音楽祭

産学連携

沿線の大学や高校などと連携し、フィールドワークを通じて地域課題や活性化策に取り組むことで、学生の支援を行っています。

東京都立八王子東高校1年生対象の課題探求プロジェクトや、明治大学商学部と経営学部で開講されているフューチャースキル講座などで、企業が課題と捉えているテーマについて学生の皆さんと一緒に解決策を検討していく中で、地域や沿線エリアを知り、愛着を深めていただけるよう授業協力を行っています。

また、昭和女子大学と井の頭線エリアの活性化を目的としたプロジェクトや、小学生が楽しく学ぶことができる場の提供を目的に、沿線の大学生協力のもと「大学生によるプログラミング教室」を実施しています。



VOICE

京王沿線の活性化に関する課題を提供いただいています

明治大学 商学部長
出見世 信之



明大前駅にある和泉キャンパスにおいて、商学部と経営学部で開講されているフューチャースキル講座に2013年より協力いただいています。京王線沿線の活性化に関する課題を様々な形で提供いただき、新入生が入試問題とは異なり、唯一の正解のないことにチームで取り組み、その後の大学での学びに気づきを得ています。

沿線自治体との連携

▶ コミュニティバス

京王電鉄バスグループと西東京バスは、利便性の高いまちづくりに貢献するため、東京都内の13の自治体



からコミュニティバスの運行を受託しています。

ちゅうバス(府中市)

! topics

■ 地域社会との共催イベント

2021年12月、アリオ橋本にて神奈川県・相模原市・多摩大学他と協働し、地域の親子向けにロボットふれあいイベント「ロボット大集合! in アリオ橋本」を開催いたしました。最新ロボットの操作を体験できるイベントやロボットプログラミング教室を開催し、地元企業や地域の皆様に広く参加いただき、相模原市の魅力であるロボット産業を広くPRする機会をつくることも、今後の橋本エリアでのまちづくりの機運を高めました。



中部地方との連携

中央道の高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携し、京王沿線において観光情報の提供・特産品の紹介などさまざまな取り組みを行うことで、地域活性化に貢献しています。

▶ 新宿駅の観光案内所

○ 「中部地方インフォメーションプラザin京王新宿」

新宿「京王モール」において、岐阜県・長野県・山梨県・富山県の自治体などが出展する「観光案内所」を運営し、観光情報の提供、特産品や農産物の販売など、各地域の旬な魅力を紹介しています。

○ 農産物・特産品の貨客混載輸送の拡大

中部地方で生産された農産物や特産品を、高速バスのトランクを活用した「貨客混載」により東京へ輸送し、京王ストアなどで販売しています。



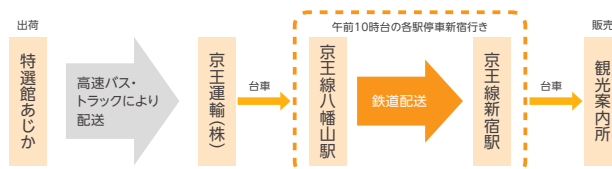
高速バスを利用した貨客混載

○ 中部地方インフォメーションプラザ

「中部地方インフォメーションプラザ in 京王新宿」で販売する飛騨高山の農産物を、2021年7月より飛騨高山から高速バスと京王線に積載して配送しています。

配送しているのは「特選館あじか」の農産物となり、地域特有の自然の恩恵を受けて育てられています。

京王グループの「高速バス」「鉄道」という既存の公共交通インフラを活用することで、配送に伴う環境負荷低減、商品配送の定時性・速達性確保につなげることができました。



VOICE

一人でも多くの方に
美味しい飛騨高山を
お伝えしていきます

飛騨高山「特選館あじか」
支配人

坂田 聡一郎



「東京のお客様に飛騨高山の美味しい農産物を届けたい」そんな想いで開始した「貨客混載」の取り組み。早いもので今年5年目を迎え、京王線で運ぶ取り組みも開始するなど、少しずつですが着実に出荷量も拡大しており地元農家の励みとなっております。これからも地元農家と協力して、一人でも多くの方に美味しい飛騨高山を伝え、お越しいただけるよう、貢献していきたいです。

株主・投資家・取引先等への取り組み



持続的な成長と企業価値の向上を図るため、株主・投資家の皆様や取引先との対話を促進するための諸施策に取り組んでいます。

株主・投資家の皆様との対話

▶ ディスクロージャー・ポリシーに基づいたIR活動 (Investor Relations)

株主・投資家への情報開示に向けた基本的な考え方として、2006年4月に「ディスクロージャー・ポリシー」を制定し、これに基づきIR活動を実施しています。当社グループの業績や中長期計画を中心とした財務情報の提供に加えて、当社グループの将来像やESGに関する取り組みなどについて、株主・投資家と活発な対話（意見交換）を行うとともに、得られた声を社内で共有し、適切に経営に反映させるよう努めています。

▶ 株主・投資家との対話事例

取り組み	時期	内容
決算説明会	年2回	社長をはじめとした経営陣幹部が、証券アナリストや機関投資家に対して、当社グループの業績や将来像などを説明するとともに、質疑応答を行い、経営陣幹部の考えを直接伝えています。
スモールミーティング	適宜	当社グループの業種や中長期計画の内容への理解を深めていただくため、証券アナリストや機関投資家と、財務・情報開示担当役員との間でミーティングを開催しています。
個別取材	年50件以上	経理部長やIR業務の担当者が、証券アナリストや機関投資家と個別に面談（電話・Web形式を含む）し、業績の内容や事業の具体的な取り組みなどについて、1回あたり約1時間の意見交換を行っています。
施設見学会	適宜	実際の物件を見学することで事業内容の理解を深めていただくため、証券アナリストや機関投資家を対象に、適宜見学会を開催しています。また、個人株主を対象に、2022年8月に「VRを活用したバーチャル見学会（若葉台工場&高尾山編）」および「京王れーるランド&京王あそびの森 HUGHUG（ハグハグ）」の見学会を開催しました。
ホームページでの情報開示	適宜	投資判断に影響を及ぼすと考えられるIR情報を、当社ホームページに積極的に開示しています。公平性のさらなる向上を図るため、「決算説明会資料」を中心に開示内容の充実を図っています。



決算説明会



個人株主向け
VRを活用したバーチャル見学会



個人株主向け
京王れーるランド&京王あそびの森
HUGHUG（ハグハグ）見学会

取引先への取り組み

京王電鉄では、京王グループ行動規範に基づき、日々の調達活動を行っています。法令・社会規範の遵守や地球環境への配慮など企業の社会的責任の観点から、取引先各社に対し、購買活動におけるSDGsやCSRへの取り組みに関するアンケートを実施することで、活動状況の把握など今後の相互理解に必要な情報収集に努めました。これらの活動を通じ、社内および取引先各社に対し、当社の購買活動についての理解と協力を得ることで、今後もよりよい関係の構築を目指します。

人材の活用と働きやすい職場づくり

多様な価値観・ライフスタイルを持つ従業員がその能力を存分に発揮できるよう働きやすく、働きがいのある職場環境づくりを目指しています。

人権・労働安全衛生

人権・ハラスメント防止の啓発

京王グループ行動規範に基づき、人権研修を実施するなど啓発を行っています。また、ハラスメントの無い、明るく活力のある職場の実現のため、相談窓口の設置や研修の実施に加え、2021年4月にハラスメント防止指針の制定を受け、当社全社員に対し、階層別のハラスメント防止研修を実施しました。具体的には、「無意識にハラスメントの傍観者となっていないか」をテーマに、受講者にセルフチェックをしてもらい、パワハラと指導のグレーゾーンについて説明するなど、実践的な内容としました。あわせて、万が一ハラスメントが発生した場合の事例共有を行うことで再発防止に努め、社員のハラスメントへの意識向上を図っています。

安全衛生の取り組み

「安全・衛生のひろば」を定期的に開催し、労働安全や健康に関する課題を共有しているほか、安全衛生概況や安全衛生委員会の活動状況などについて社内掲示板を活用し、周知しています。また、労働安全週間の期間中には、経営トップによる職場巡視を実施しました。2021年度の労働災害発生率は0.8%でした。



経営トップによる職場巡視



安全・衛生のひろば

人材雇用

公正な採用方針

京王グループは、厚生労働省が示す「公正な採用選考の基本」に基づいた採用活動を行っています。

人材雇用に関するデータ

従業員数、平均年齢

	従業員数(人)	平均年齢(歳)
2017年度	2,518	40.4
2018年度	2,549	40.3
2019年度	2,547	40.4
2020年度	2,531	40.7
2021年度	2,449	41.2

平均勤続年数

男性	18年5カ月
女性	11年1カ月

離職率 2.9%

年休の取得率向上に向けて

「計画的な年次有給休暇の取得推奨」「年次有給休暇の半日単位付与」などにより休暇の取得を推進しています。

働きやすい職場環境づくり

働きやすい職場環境づくりに向けた調査の実施

社員一人ひとりが主体的に働きやすい職場環境づくりをするために、無記名式アンケートによる「従業員意識調査」を実施しています。

柔軟な働き方の実現

本社部門では「フレックスタイム制度」や「サテライトオフィス」などを活用することで、柔軟に働くことができる職場環境を整備しています。

2019年度には一部の現業職場で「フレックスタイム制度」や「年次有給休暇の半日単位付与制度」を導入するなど、さらなる制度の充実に努めています。なお、2021年度の平均残業時間は19.8時間でした。



健康で安心して働ける環境づくり

心と身体 の健康増進施策

社員一人ひとりが心身ともに健康で、安心して働くことができる職場を目指し、さまざまな施策を実施しています。2020年度には、鉄道事故に遭遇した乗務員などのストレスを軽減するため、専門のカウンセラーが心理面をサポートする仕組みや、異動や昇進で環境が変わった社員に対するストレスチェックと支援の体制を導入するなど、社員のメンタルケアの充実に取り組んでいます。

また、禁煙外来を利用した際の費用補助制度を設け、社員の卒煙を支援しています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の予防にあたり社内発行物、イントラネット、衛生委員会等により、産業医、保健師、管理栄養士から基本的な感染予防策とともに、免疫力を上げる食事や運動の仕方について情報を発信しています。

衛生講演会・メンタルヘルスケア

定期的に衛生講演会を開催し、診療所の産業医や外部講師により健康に関する講演を行っています。また、法令に基づくストレスチェックを実施し、高ストレス者と判定された社員には産業医との面談を促し、必要に応じて専門医による相談を実施するとともに、職場ごとの傾向を分析し、フィードバックして職場環境改善につなげています。2021年度、メンタルヘルス不調により休職した社員の割合は0.7%でした。



医師による面談

社員の健康管理

企業内診療所を設置し、定期健康診断のほか医療相談・保健指導・社員を対象とした内科外来を実施しています。産業医と医療スタッフが各職場と連携し、社員個人の健康維持と、職場全体の環境整備に取り組んでいます。

健康経営優良法人2022の認定

経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人認定制度」において、当社は「健康経営優良法人2022」(大規模企業部門)に認定されています。



当社の健康経営に関わる主な取り組み

実施項目	対象	内容
新型コロナウイルスワクチン職域接種	全社員 (グループ会社含む)	2021年7月から10月まで約3,900人に対し、初回接種(1回目、2回目)を実施。2022年2月から5月まで約2,200人に追加接種(3回目)を実施しました。
がん検診勧奨	35歳以上の社員	健康保険組合と連携し、対象全社員に胃がんリスク健診を順次実施、受診勧奨を行っています。また、大腸がん検診キットの対象全社員への配布を行っています。
「若メタボ」対策	39歳以下でBMI28以上の社員	産業医、保健師、管理栄養士等による生活習慣改善指導を実施しています。
健康増進施策「京王ヘルスチャレンジ2021」	全社員	ウォーキングを主体とした通年の健康イベントを実施し、効果検証を行いました。
衛生講演会	全社員 (グループ会社含む)	産業医や外部有識者による健康をテーマとした講演会(年2回)を開催しています。
メンタルヘルス対策	全社員	2020年度から鉄道事故に遭遇した現業社員に対する心理的支援の強化に取り組んでいます。また、ストレスチェック結果に基づく職場環境の改善、高ストレス者への面談等を実施しています。
長時間労働の是正	本社員	ノー残業デーの設定や深夜残業の原則禁止などの施策を実施しているほか、サテライトオフィスやフレックスタイム制度の活用により柔軟で効率的な働き方を推奨しています。
休暇取得の促進	本社員	年次有給休暇の取得率の全社目標を掲げ、計画的な休暇取得を推奨しています。

ダイバーシティ・マネジメントの推進

仕事・育児・介護の両立支援

育児・介護ともに休業制度・短時間勤務制度について、法定以上の制度を有しています。特に本社部門では、自宅で育児や介護をしながら働く社員を対象とした在宅勤務制度を2020年度に導入しました。

その他、育児・介護が理由で退職した社員を対象とした再入社制度などを整備しています。

また、2021年12月より、子の看護休暇の対象となる子どもの年齢を小学校入学前から小学4年生まで引き上げるとともに、2022年4月より、病児・病後児保育制度利用者を対象とした、利用料を一部助成する制度を導入するなど、育児との両立支援制度の拡充を行っています。

2021年度の育児休職取得率は男性20.9%、女性100.0%となりました。育児休職取得者数は32名で復職率は100%となっています。

ライフステージに応じた両立支援

不妊治療のための休職制度導入や、不妊治療やがん治療、配偶者の転勤により退職した社員を再入社制度の対象に加えるなど、多様化するライフスタイルに応じて、制度の整備に取り組んでいます。

VOICE

家族の結束が強くなりました

鉄道営業部
高幡不動乗務区 車掌

立石 雅人



第1子の出産時は育児を妻に任せることが多く、今度は一緒に頑張りたと思ったことから、第2子出産時に職場の協力のもと、約3カ月の育児休職を取得しました。育児を協力し合うことで家族の結束がより強くなり、育児は「手伝う」のではなく「協力する」という気持ちになりました。この経験から、男性が育児に関わる意義を職場の後輩達にも伝えていきたいです。

女性の活躍

グループ会社社長をはじめとして幅広く女性が活躍しています。女性総合職の採用について、2022年度に入社した女性総合職の新卒採用人数は総合職新卒採用人数全体の33.3%となりました。

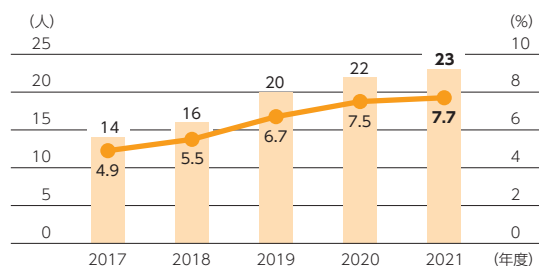
女性社員の活躍推進に向けた目標設定

2016年から「女性活躍推進法」に関する取り組みとして、女性の課長級以上の管理職人数を2021年3月までに2016年4月と比較して5割増とする数値目標を設定し取り組みを進めてきました。その結果、管理職における女性人数は2016年4月と比較して8割増となり、数値目標を達成しました。また、2022年度には当社出身としては初となる女性執行役員が誕生しました。当社ではさらに2021年4月からの数値目標を設定し、取り組みを進めています。

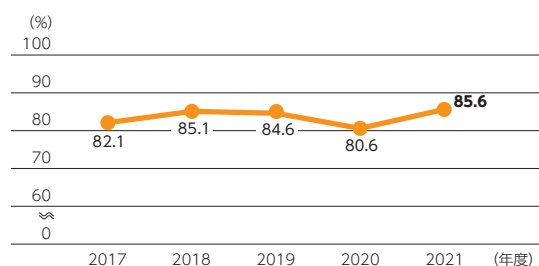
2021年4月から2026年3月までの数値目標

- ①管理職（課長以上）における女性人数を2026年3月までに2021年4月と比較して3割増とする
- ②年次有給休暇取得率80%以上を継続する

①管理職における女性人数と比率



②年次有給休暇取得率



➤ 子育てサポート企業認定マークくるみんの取得

当社における地域社会貢献活動や社員の仕事と家庭の両立を支援する取り組みの推進により、2021年2月24日付で「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受け、3度目の「くるみん」を取得しました。



➤ 高齢者再雇用

2006年から「継続雇用制度」を実施しており、2021年度の再雇用割合*は83.7%でした。

*該当年度における継続雇用者数/定年退職者数

➤ 障がい者雇用

2004年に特例子会社「京王シンシアスタッフ」を設立しました。2006年からは、関係会社特例認定を取得し、京王グループ全体の障がい者雇用も拡大し、社内施設の清掃業務、名刺作成、事務補助作業などに従事しており、実雇用率は基準以上となっています。当社では、2016年度から「障害者相談窓口」を設置しています。

■ 障がい者雇用と雇用割合

	障がい者数(人)*	実雇用率(%)*
2017年度	181	2.6
2018年度	177	2.5
2019年度	181	2.6
2020年度	184	2.6
2021年度	187	2.6

*障害者雇用促進法に定める計算方法に基づく

! topics

■ 育児・介護等に関する相談機会の創出

希望する社員を募り、仕事と育児・介護の両立について定期的に個別面談・座談会を実施しています。

また、改正育児・介護休業法に対応するため、2022年4月より育児制度に関する相談窓口を設置するとともに、法対応を超えて、同窓口を介護および出生支援制度に関する相談窓口としても活用し、幅広く社員のライフ・ワーク・バランスを支援しています。

➤ 社員のキャリア支援

当社では、若手社員から中堅社員、正社員から非正規社員に至るまで様々な社員が自律し、長期にわたって活躍できるように、社員のキャリア支援に取り組んでいます。

■ 社員のキャリア支援

実施項目	内容
キャリアデザインシートおよびキャリア面談	社員の自律性を高めることを目的とし、社員が自らのキャリアを考え、主体的に能力開発を進めていく仕組みとして「キャリアデザインシート」の導入や上司との「キャリア面談」を実施しています。
キャリアチャレンジ制度	自らのキャリアを自身で変革する機会を提供することを目的として、人材公募制度である「キャリアチャレンジ制度」を導入しています。
社外派遣制度	当社では得られない経験・スキルの習得や、自社とは異なる環境に身を置くことによる自律心や忍耐力の体得を目的とし、グループ外の企業に一定期間社員を派遣する制度を導入しています。
トライアルコース研修	経営層が考える会社のビジョンや仕事観等を直接社員が聞き、意見交換を行う場として「トライアルコース研修」を実施しています。
メンター制度	総合職の若手社員と先輩社員がグループを組み、キャリア支援やフォローアップを行う仕組みを導入しています。
生き方・働き方プランニング研修	50歳を迎えた社員に対し、「これからありたい自分」になるには今後なにをすべきか修得するための機会として「生き方・働き方プランニング研修」を実施しています。
正社員登用制度および特定社員制度	非正規社員から正社員への登用制度、有期雇用の非正規社員を無期雇用へと変更する特定社員制度を整備しています。

環境保全の推進

鉄道は環境負荷が小さく環境にやさしい乗り物ですが、多くの電力を消費していることから、さらなる省エネルギー化を推進しています。2021年度は地下駅の省エネルギー施策が高く評価され、省エネ大賞を受賞しました。

また、東京都水道局と連携した水道水源林の保全活動への参画をはじめとした生物多様性への取り組みのほか、事業活動における資源の有効活用等の取り組みを通じて、地球環境保全に貢献しています。

CONTENTS

環境方針	P.79
環境マネジメント	P.80
低炭素社会を目指して	P.82
循環型社会を目指して	P.86
自然共生社会を目指して	P.88
環境関連データ	P.90





環境負荷低減策に取り組み 持続可能な社会と、豊かで居心地の良い街づくりを目指します



取締役
常務執行役員
(環境管理責任者)
小野 正浩

京王グループは、「京王グループ環境基本方針」「生物多様性行動指針」に基づき、環境にやさしい企業集団を目指し、職場ごとに環境目標を定め、全ての職場が目標を達成できるようPDCAサイクルを着実に回し続けています。

2021年度の取り組みとしては、調布駅をモデルケースにホームやコンコースの環境の最適化を図りながら空調の運用改善を行った結果、大幅な省エネルギー化を実現した取り組みが高く評価され、2021年度省エネ大賞の省エネ事例部門・輸送分野において、最高賞の経済産業省を受賞しました。

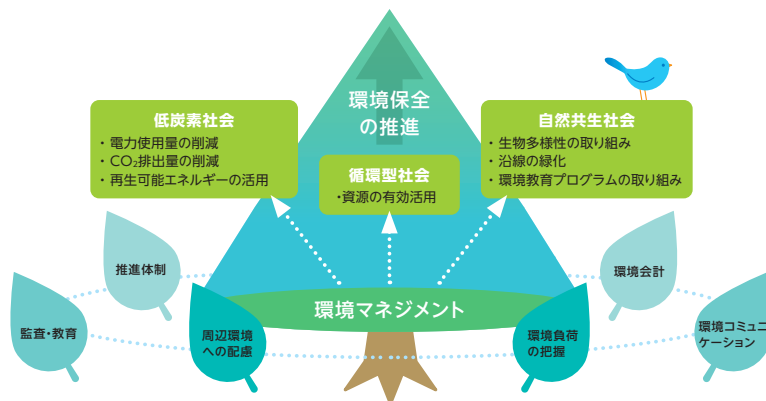
さらに、当社で保有している建物については省エネ機器の導入や、照明のLED化など積極的な省エネルギー化に取り組んでいます。その結果、東京都環境確保条例

が定める削減目標以上にCO₂排出量を削減、この超過削減量の一部を、カーボンオフセットとして活用することで、2022年の1年間、高尾山エリアにおける周遊の際のCO₂排出量を実質ゼロとする試みを行いました。

また、水道局と協働した森づくりを行うことを通じて、水道水源林を適切に管理していくことを目的に、2021年9月、東京都水道局と「東京水道～企業の森」の協定を締結しました。本協定にてネーミングライツ設定した水道水源林の一部を「京王水源の森」とし、森林保全作業を通じて多摩川の水源を保全していきます。

今後も引き続き、省エネルギー施策や環境保全活動などに取り組み、政府が掲げているCO₂排出量削減目標の達成を目指してまいります。

環境方針概念図



環境方針

2000年11月に環境基本方針を制定し、環境法令遵守をはじめ、省エネや廃棄物削減、リサイクル、環境教育の実施などを推進してきました。その後、環境保全是グループ共通の課題であるとの認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」を制定し、環境マネジメントシステム(EMS)の継続的運用を通じて浸透を図っています。

基本方針

京王グループ環境基本方針	生物多様性行動指針
<p>私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全是に配慮した事業活動を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。 2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。 3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。 4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。 5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。 6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。 7. これらの環境保全活動を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。 <p>2004年12月9日制定</p>	<p>私たちは、生活に身近な事業を展開していくなかで、自然の恩恵を継続的に享受していることを認識し、持続可能な利用や自然と共生する社会の実現に向け、生物多様性に配慮した事業活動を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業活動がおよぼす環境への影響把握 事業活動と生物多様性とのかかわり(恵みと影響)を把握するように努め、取り組みの必要性に対する認識を高めます。 2. 自然環境の確保と保全 事業活動における自然環境への影響の回避または低減に取り組むとともに、緑化を推進し、地域の豊かな自然環境の確保と保全に努めます。 3. 資源循環の推進 資源の利用が生物多様性におよぼす影響を低減するために、グリーン購入など環境に配慮した調達や3R活動(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、環境負荷低減に努めます。 4. ステークホルダーと連携した生物多様性の保全 従業員をはじめ、取引先企業、お客様など多くのステークホルダーと連携し、情報の発信と収集を行いながら生物多様性の保全に努めます。 <p>2010年9月8日制定</p>

中期環境目標

当社では、「国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)」において、2020年以降の地球温暖化対策の新たな指針となるパリ協定が採択されたことを踏まえ、中期環境目標を更新しました。

	中期環境目標	目標達成に向けての取り組み
鉄道事業部門	電車の運転用電力を2030年度に26%削減(2013年度比)	新型VVVFインバータ制御装置導入 車内照明のLED化実施 など
開発事業部門	東京都のCO ₂ 排出量削減義務(27%)の達成 第3計画期間(2020年度~2024年度)	照明のLED化など省エネルギー施策の推進 排出量取引制度の活用

環境マネジメント

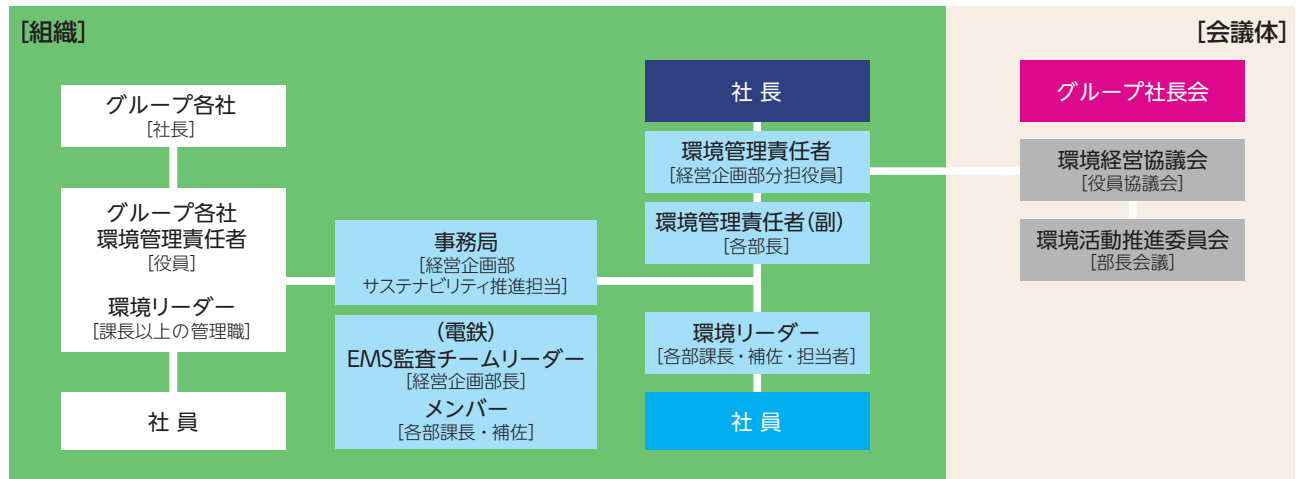
独自の環境マネジメントシステム (EMS) の構築・推進や、内部監査、従業員への環境教育を実施することで社内における環境意識向上を図るとともに、中期環境目標の達成に向けて取り組みを推進しています。

推進体制

当社は鉄道現業を含めたすべての職場において、ISO14001を参考に独自のEMSを構築・推進し、環境経営協議会において経営層へ報告・承認を受けています。また、グループ社長会を通じて各社に環境マネジメントを徹底しています。

グループ会社では、ISO14001を3社、グリーン経営認証を4社、エコアクション21を1社で取得し、その他の各社はISO14001またはエコアクション21を参考にしたEMSに取り組んでいます。

京王グループEMS推進体制



監査・教育・コミュニケーション

EMS内部監査

EMSの有効性と環境活動の推進を図るため、毎年各部管理職1人以上のEMS監査員を選出し、新任監査員はコンサルタントによる専門教育を受けた後、部署間相互による内部監査を実施しています。

環境教育

環境意識やEMS理解度の向上など必要性を明確にした上で、環境教育を実施しています。

主な教育実績(2021年度)

名称	時期	対象	人数
EMS監査員養成研修	11月	新任監査員	1名
環境eラーニング	1月	京王電鉄社員	1,366名

CSR・環境コミュニケーション

京王グループの活動に関する情報は、以下の媒体で公表しています。



京王子ども百科



京王ニュース



京王ホームページ

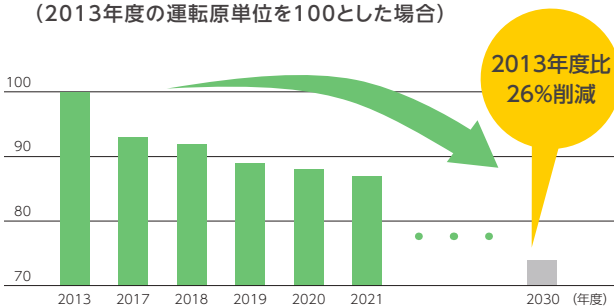


中期環境目標 (P.79) の達成に向けて

▶ 鉄道事業部門

2030年度における運転原単位(1車両が1km進む際に使用する電力量)を2013年度比で26%削減することを目指します。2021年度は2013年度比で約13%の削減となりました。

■ 電車の運転用電力削減推移
(2013年度の運転原単位を100とした場合)

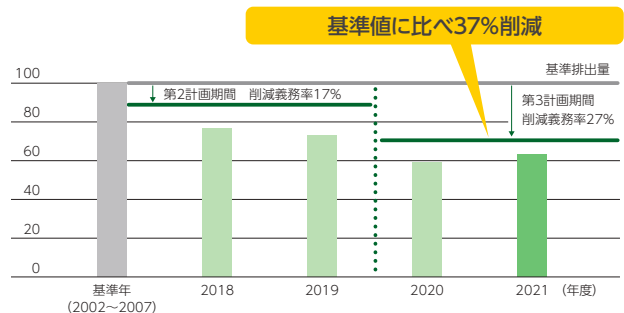


※車両の走行に関する性能(理論値)に限定して原単位を算出しています。

▶ 開発事業部門

2021年度のCO₂排出量は48,777t-CO₂となり、基準排出量に比べ約37%の削減となりました。当社では引き続き東京都のCO₂排出量削減義務の達成を目指します。

■ 大規模ビル8物件のCO₂排出量削減実績と目標
(東京都環境確保条例の削減義務 第3計画期間)



※京王プラザホテル(新宿)、京王プラザホテル八王子、京王プラザホテル多摩、京王品川ビル、京王百貨店新宿ビル、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター、京王八王子ショッピングセンター、2017年度からキラリナ京王吉祥寺を追加
※「基準値」とは、2002~2007年度のうち任意の連続した3カ年におけるCO₂排出量の平均値をいいます。
※第三計画期間(2020~2024年度)から京王八王子明神町ビルを除外

目 気候変動への対応

① 基本的な考え方

自然災害の激甚化など地球温暖化に伴う気候変動の影響は年々大きくなっており、脱炭素社会や循環型社会に向けた取り組みなど、社会全体での気候変動対応が進んでおります。当社でも、重要な経営課題の一つである気候変動対応について、リスクと機会の分析を行い、情報開示に向けた作業を進めております。

② リスクと機会の特定

当社事業のうち、気候変動の影響が大きいと想定される鉄道事業を対象とし、事業に影響を及ぼす可能性のあるリスクと機会の洗い出しを行いました。特に影響が大きいと特定*したものを、次の表に示しております。

移行リスク	エネルギー調達コストの増加 顧客の評判・行動変化による売上減少 資材調達コストの増加
物理的リスク	気象災害による営業停止に伴う売上減少 災害対応コストの増加 顧客の外出意欲減退による売上減 サプライチェーンの分断
機会	エネルギー調達コストの減少 低炭素型製品・サービスによる売上増加 災害適応型製品・サービスによる売上増

・移行リスク: 低炭素社会への移行に伴うリスク
・物理的リスク: 気候変動によってもたらされる災害等のリスク

※今後の検討状況により、変更となる可能性があります。

③ 当社の取り組み

当社のCO₂排出量削減に向けた取り組みについては、現在電車の運転用電力の削減について環境目標に掲げておりますが、今後も環境に関する技術の進展を注視しつつ、政府が掲げているCO₂排出量削減目標の達成を目指してまいります。

【現在実施している適応対策】



① 激甚化する台風など異常気象に対して法面改修などを実施



② 河川氾濫時の車両基地浸水に備え、終電後に車両を各駅に疎開させる訓練を実施しています。

低炭素社会を目指して

京王グループでは事業活動における環境負荷を低減することで、CO₂排出量の削減を目指し、地球温暖化防止に貢献していきます。

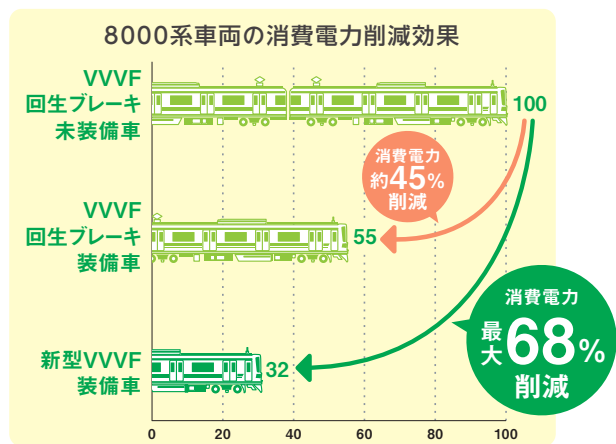
鉄道における電力・CO₂排出量削減の取り組み

鉄道事業では1年を通じて多くの電力を消費することから、少ないエネルギーで効率的に動くことができる「環境にやさしい鉄道」を目指しています。

▶ 走行用電力の削減

○ VVVFインバータ制御装置

VVVFインバータ制御装置とは、電車の加速力や速度などに応じて電圧や周波数を変化させながらモーターを効率良く動かす装置です。当社では1992年に初めて導入して以降、継続的に導入を進め、2012年に全営業車両のVVVFインバータ制御化を大手民鉄で初めて完了しました。2015年から、さらに消費電力削減効果に優れたVVVFインバータ制御装置への更新を進めています。



※横軸は未装備車の使用電力量を100とした場合の数値

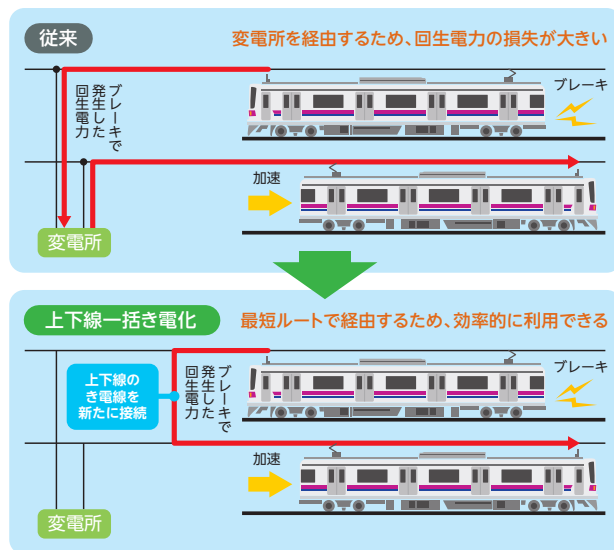
▶ 走行用電力の再利用

○ 回生ブレーキ

回生ブレーキとは、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作動させ、発生した電力(回生電力)を架線に戻すことで他の電車が使えるようにする装置です。1999年に全車両への装備が完了しました。

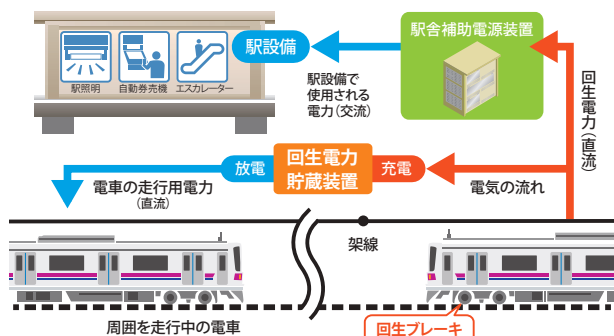
○ 上下線一括き電化

上り線と下り線のき電線(電車に電気を供給する線)を接続することで、回生ブレーキで発生した電気を他の電車に最短ルートで送り、電気を送る際の損失低減を図ることができる設備です。当社では、2012年に井の頭線で整備したほか、2020年度には高尾線で整備が完了しました。



○ 駅舎補助電源装置

電車がブレーキをかけた際に発生する回生電力を駅設備で使用される電力に変換して、駅の照明や空調、エスカレーターなどに供給する装置で、東府中駅、高幡不動駅、北野駅、若葉台車両基地に導入しています。また、2021年度はめじろ台駅に導入しました。



➤ LED照明の導入

⊙ 駅などのLED化

駅舎・ホームや車両の客室内に、従来の照明設備に比べて大幅に消費電力を削減できるLED照明の導入を進めています。また、調布駅付近の地下化に合わせて、トンネル内の照明設備にもLED照明を使用しています。明るさは変わらずに交換サイクルが長くなることから、廃棄物の削減にもつながっています。

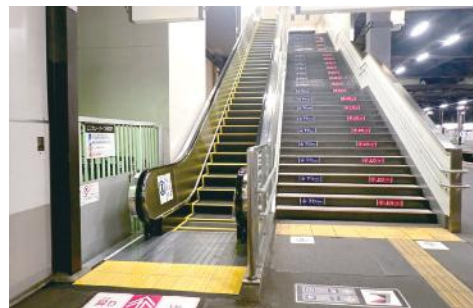


駅構内のLED照明

➤ その他の省エネルギー対策

⊙ 省エネ運転エスカレーターへの導入

老朽化が進んでいるエスカレーターについて、更新を進めています。一定時間ご利用がない場合に、運転速度を減速または自動的に停止する機能のあるエスカレーターへ更新することにより、従来より最大約35%の消費電力削減が図れます。2020年度には南大沢駅にて省エネ型運転エスカレーターを導入しています。



南大沢駅 エスカレーター

⊙ 自然採光

ホームやコンコースの屋根に自然採光の工夫を行うことで、照明の消灯に努めています。



自然採光の屋根

⊙ カーボンオフセットの取り組み

所有する物件における省エネ施策により、創出したクレジットをカーボンオフセットとして活用し、2022年の1年間、高尾山エリアにおいて京王グループの鉄道・施設を利用して周遊する際の年間CO₂排出量を実質ゼロとしています。

! topics

■ 2021年度省エネ大賞を受賞

地下駅における空調設備の最適化を図ることで、大幅な省エネに貢献できた取り組みが高く評価され、2021年度省エネ大賞において、最高賞の経済産業大臣賞を受賞しました。



グループによる電力・CO₂排出量削減の取り組み

▶ 燃料電池バスの導入

京王バスでは走行時にCO₂等の環境負荷物質を排出しない燃料電池バスを4台導入しています。

水素を燃料とし、エンジンではなくモーターだけで走行するため、騒音や振動が少ないほか、大容量外部給電機能を活かして、災害時には電源としての利用が可能です。



燃料電池バス

▶ ハイブリッドタクシー・アイドリングストップ車

京王自動車グループでは、タクシーにハイブリッド車やアイドリングストップ車を導入し、エネルギーの効率利用に取り組んでいます。



ハイブリッドタクシー

▶ 建物の省エネルギー化

キラリナ京王吉祥寺では、壁面・屋上緑化を行っており、壁面緑化の灌水には、井戸水かんすいを使用することで、水資源を守っています。また、氷蓄熱システムを導入し、電力需要の下がる夜間電力を利用して氷を作り、日中の冷房に利用することで、夏場のピーク時における省エネルギー化を図っています。

メルクマール京王笹塚では、緑化のほかにも、水平庇と高遮熱断熱ガラスなどを取り入れ、ヒートアイランド現象軽減などを図っています。



建物の省エネルギー化を図るキラリナ京王吉祥寺(左)とメルクマール京王笹塚(右)

! topics

■ 京王プラザホテル

ご宴会席時のCO₂排出量実質0プランの販売開始

京王プラザホテルでは、2021年7月から宴会場を使用する企業(主催者)に向け、グリーン電力証書を利用したCO₂【0zero】オプションの販売を開始しました。これは通常のご宴会オプションとして追加することにより、グリーン電力にて発電された電力の環境価値を購入して充当することで、会場で使用する電力を再生可能エネルギーに置き換えることができるプランです。



再生可能エネルギーの活用

京王グループでは、再生可能エネルギーの活用に積極的に取り組んでいます。



▶ 太陽光発電事業

岩手県宮古市および神奈川県相模原市の社有地において、太陽光発電事業に取り組んでいます。



岩手県宮古市の太陽光発電

■ 太陽光発電事業の取り組み

	開始時期	設置パネル数	発電能力
神奈川県相模原市	2015年2月	1,021枚	302kW
岩手県宮古市	2019年11月	9,120枚	2,872kW

循環型社会を目指して

京王グループでは、限りある資源を有効活用し、事業活動におけるリサイクル・リノベーション等を通じて循環型社会の実現を目指します。

資源の有効活用

▶ 車両洗車時の節水

京王線の若葉台工場では、「処理水再利用装置」を導入し、使用済みの水の汚れを取り除くほか、工場内の湧水を活用し、洗浄水などに利用しています。現在、利用している水の半分以上はこの装置により処理されたものです。

また、若葉台と高幡不動の車両基地では、車両洗浄に使用する水を従来に比べ約半分にできる節水型車両洗浄装置を導入しています。



節水型車両洗浄装置

▶ リサイクル

♻️ きっぷ

使用済みきっぷをリサイクルして、駅のトイレトーパーの一部として使用しています。

♻️ ペットボトル

駅売店などで回収された飲料用ペットボトルをリサイクルし、駅の案内板に使用しています。

▶ 間伐材を使用したベンチ

一部の駅に木の温かみを感じられる木製ベンチを設置しています。素材には、多摩地域で発生した間伐材を使用しています。



▶ 厨房等の排水を再利用

京王プラザホテルでは各厨房からの排水を地下3階にある中水造水プラントに集め、バイオの力で精製した後、館内のトイレ洗浄水などに再利用しています。これにより、南館のすべてのトイレの洗浄水は各厨房からの排水が使用されています。

▶ 緑化廃棄物処理

京王レクリエーションでは外部会社と協力し、桜ヶ丘カントリークラブのコースで発生した緑化廃棄物(折れ枝・落葉など)を、パルプチップやバイオマスチップにリサイクルすることで堆肥や燃料として有効利用する取り組みを行っています。

▶ 車両のリニューアル・再生(京王重機整備)

京王重機整備では、現役車両のリニューアル工事で京王電鉄等を引退した車両の再生化工事を実施しています。全国の鉄軌道事業者ごとのニーズに合わせて改造し、再生を図ることで、全国各地の「地域の足」として快適に利用していただいています。新造車両同様に再生した転用改造車両を、新造車両よりも安価で提供しており、1984年以降の納車車両数は220両以上にのぼっています。



元京王3000系を転用改造した伊予鉄道の車両



元東武20000系を転用改造したアルピコ交通の車両

伊予鉄道様の声



従来の2両編成に比べて3両編成で使用しても電力使用量が計画以上に削減されました。主要機器のメンテナンスを大幅に軽減することができました。

アルピコ交通様の声

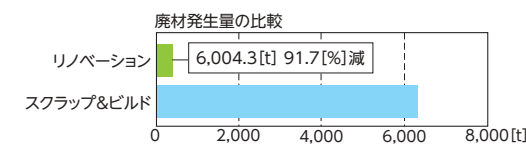
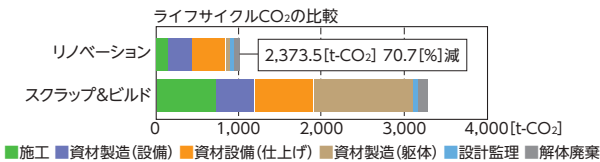
限られた費用の中で、いかに快適で安定し、かつ新しい車両感を出すことができるかについて、当社の要望を最大限受け入れていただき素晴らしい電車ができました。





▶ 環境負荷を低減した「リノベーション事業」を展開

既存建物を再生し、魅力ある住宅を供給するリノベーション事業は、限られた資源を有効に使い、CO₂排出を抑制する環境にやさしい手法です。例えば、リビタが手がけた「リノア多摩川CORTE」では、省エネ改修によって、ライフサイクルCO₂*1を70%削減、廃材発生量*2を91%削減することができました。



※1 ライフサイクルCO₂とは、建物の建設から運用、解体までのライフサイクルを通じて排出される二酸化炭素 (CO₂) の量を指します。
 ※2 廃材発生量とは、建物を解体した場合に発生する材料を指します。建物を与える地球温暖化への影響を評価する指標です。

▶ エコステイ

京王プレリアホテルでは、連泊のお客様を対象にシーツ、枕カバーを交換せずに清掃を行い、クリーニングの回数を減らして水資源保護・CO₂排出削減を図る「エコロジー清掃」を導入しています。

お客様には「ベッドリネン交換要望カード」で意思表示をしていただいております。



京王プレリアホテル札幌



ベッドリネン交換要望カード

! topics

■ 京王プレリアホテル札幌

“まだ知らない”北海道を朝食からプロジェクト

京王プレリアホテル札幌では、世の中でまだ知られていない魅力ある食材、規格外野菜、行き場を失った冷凍魚などを活用して、ホテルの朝食のオリジナルメニューにアレンジすることで、北海道の生産者の課題解決につなげるとともに、廃棄ロスにも貢献しています。

2022年7月からは期間限定で、一般家庭では調理が難しい「北大短角牛」の旨味ある稀少な部位を、ホテルならではの調理技術とフレンチの手法を用いてアレンジしたメニューを提供しました。



▶ 海洋プラスチックゴミ問題への対応

京王プラザホテルチェーンでは年間約43万本使用していたプラスチックストローを、2018年12月より新宿・多摩・八王子・札幌、4つのチェーンホテルで原則廃止し、紙製ストローへ移行しました。

そのほか、京王百貨店および京王ストアでは、お客様により一層のマイバッグの持参を呼びかけています。



自然共生社会を目指して

京王グループでは、森林保全などの生物多様性への取り組みを通じて、沿線の豊かな自然を次世代に引き継いでいきます。

生物多様性への取り組み



! topics

■ 水道水源林保全の取り組み ～京王水源の森～

2021年9月に東京都水道局の「みんなで作る水源の森」に賛同し「東京水道～企業の森」の協定を締結しました。

当社は多摩川との関わりが深いため、本協定にてネーミングライツを設定した水道水源林の一部を「京王水源の森」(約2ha)とし、水道局と連携し植栽活動や保全作業などを通じて、多摩川源流域の森林保全に貢献していきます。



■ 取り組み内容



苗木の植栽時に作業の支障とならないように、木の枝や刈り払った雑草などを整理する地ごしらえ作業を行いました。



京王水源の森で次世代を担うヒノキの植栽を行いました。社員研修の一環として、東京都水道局より水道水源林の果たす役割を学びました。

京王グリーンキャンペーン

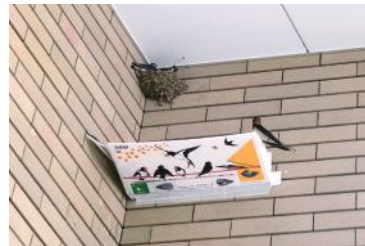
1991年から沿線地域の環境保全を目的に、毎年高尾山や多摩川の清掃活動を行っています。2022年5月には、高尾山で清掃活動を行い、一般のお客様と京王グループ社員あわせて531名が参加しました。



高尾山で実施した
京王グリーンキャンペーン

ツバメのフン受け板の設置

2014年から、ツバメが巣作りをする春から初夏にかけて、駅の設置可能な箇所に取り付けています。ツバメのフンでお客様にご迷惑をおかけしないこと、またツバメの生息環境にも配慮した生物多様性施策の一環です。



ツバメのフン受け板

森林再生への取り組み

2002年から日本山岳会「高尾の森づくりの会」が裏高尾(小下沢国有林)で行う森林再生活動を支援しており、累計約17,000本の苗木提供を行ったほか、下草刈りなどの育樹活動を行っています。



線路脇の緑化

降雨による法面の崩壊を防ぐとともに、お客様に沿線風景を楽しんでいただくため、線路脇へアジサイ・ツツジ・サザンカなどを植栽し、緑化を行っています。



線路脇の緑化

高尾の森 親子森林体験スクール

裏高尾において、日本山岳会「高尾の森づくりの会」と協力して、お子様と保護者の方に、植樹の体験、水生生物の観察などを通じて、森の大切さを学んでいただいています。



植樹の様子

やまゆり再生プロジェクト(高尾登山電鉄)

かつては里山のいたるところで見ることができた「やまゆり」を高尾登山電鉄の社員や高尾山薬王院の職員が高尾山内に植える「やまゆり再生プロジェクト」を2020年から実施しています。

また、高尾登山電鉄の社員が作成している「高尾山やまゆり散策マップ」を登山客へ配布し、やまゆりの認知度向上を図っています。



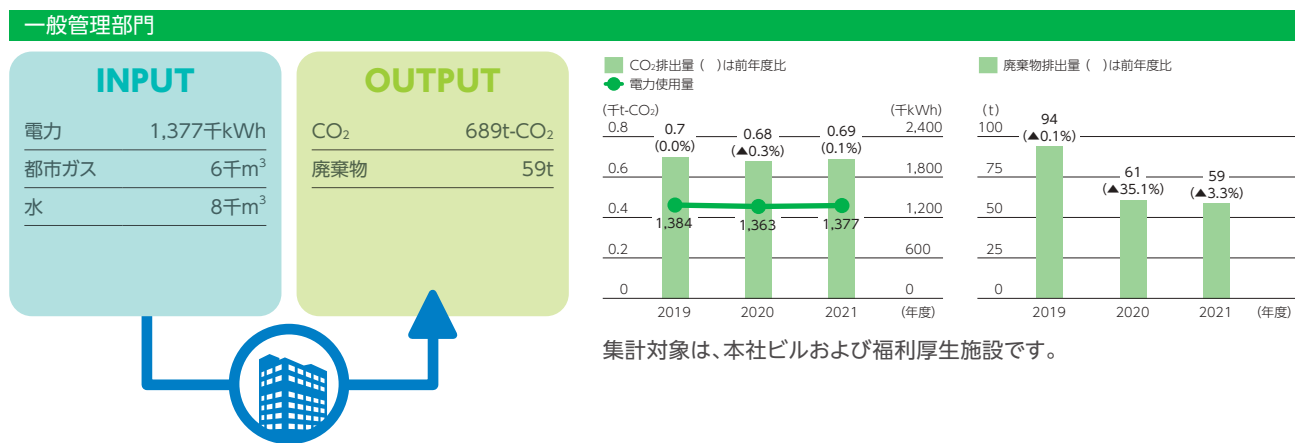
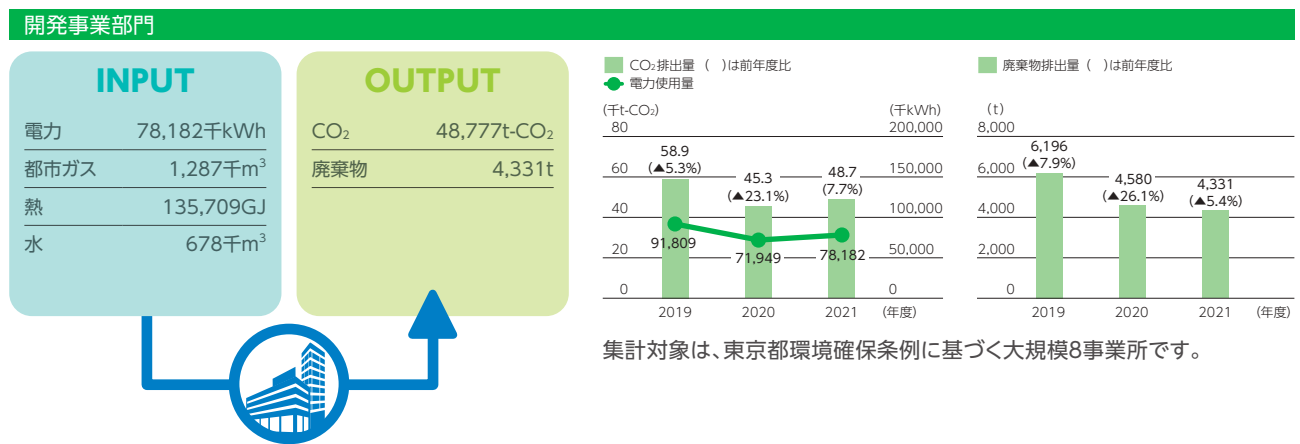
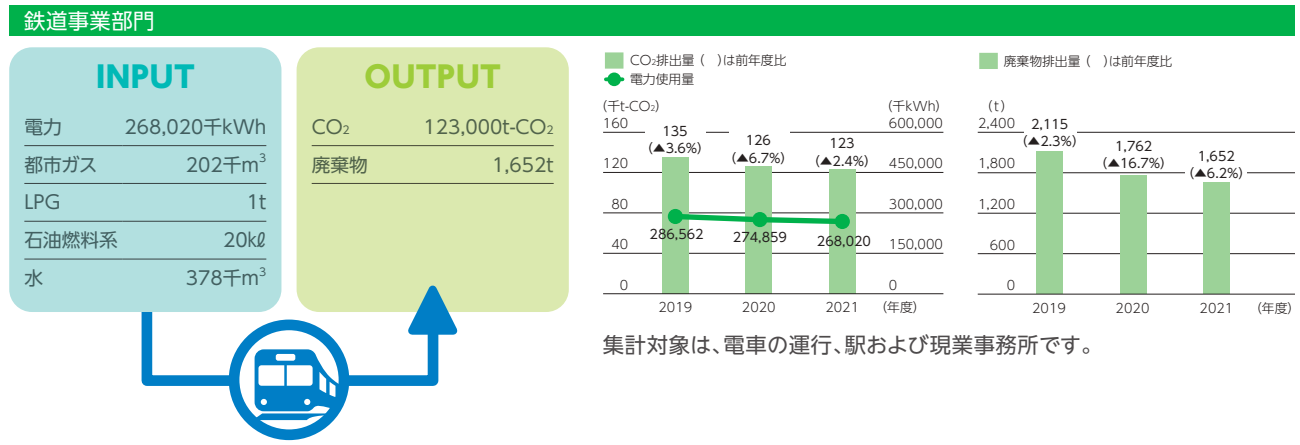
高尾山内にやまゆりを
植栽する様子

環境関連データ

環境負荷の把握

当社には「鉄道事業部門」、土地・建物の賃貸・販売を行う「開発事業部門」、会社全般の管理業務を行う「一般管理部門」があります。それぞれの事業特性に応じて、資源の使用(インプット)とCO₂・廃棄物の排出(アウトプット)を定量的に把握し、企業活動に役立てています。

2021年度の環境負荷レビュー



環境会計

環境保全に向けて、2021年度は約51億円の環境投資・費用を行使しました。

当社は、環境負荷の低減に向けて、列車の騒音振動防止や、駅施設やオフィスビル・店舗などへの高効率照明をはじめとした環境配慮設備の導入による省エネルギー化、廃棄物の分別・リサイクルの推進に向けて、環境投資を継続しています。

2021年度の環境保全コスト(投資・費用額)

(単位:百万円)

内容	主な取り組み	具体的な内容	投資	費用
(1) 事業エリア内コスト			3,354	1,669
① 公害防止コスト	●騒音振動防止 ●大気汚染防止 ●水質汚濁防止	○連続立体交差化 ○ロングレール更换 ○草刈 ○ホーム上家塗装補修工事	2,434	492
② 地球環境保全コスト	●省エネルギー化 ●モーダルシフト ●オゾン層破壊防止	○冷凍機分解整備 ○VVVF更新 ○省エネ機器への更新 ○可動式ホーム柵設置 ○オフィスビル等の空調機更新・LED化	833	119
③ 資源循環コスト	●廃棄物減量 ●廃棄物処理・処分 ●廃棄物リサイクル	○PASMO関連費用 ○駅清掃費 ○車両清掃費 ○エコベンチ設置	87	1,058
(2) 管理活動コスト	●景観保持 ●自然保護・緑化 ●教育・啓発	○植栽管理 ○環境報告書制作	0	109
(3) 社会活動コスト	●自然保護・緑化 ●環境保全の寄付 ●社会的取り組み	○環境保全の寄付	0	3
合計			3,354	1,781
コスト総計				5,135

【対象期間】

2021年4月1日～2022年3月31日

【対象範囲】

当社の鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門で発生した環境保全コストを対象としています。

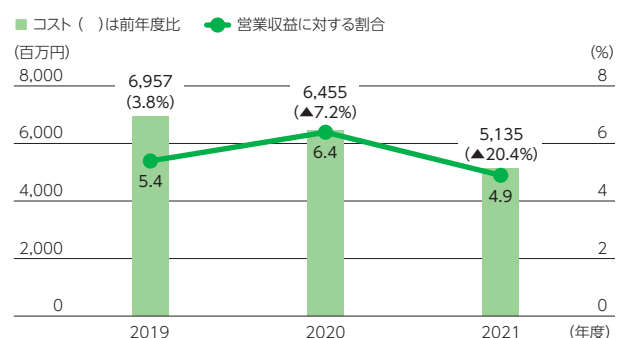
(京王グループ各社で発生したコストは含んでいません)

【算定基準】

1. 「環境省環境会計ガイドライン(2005年版)」および「民鉄事業環境会計ガイドライン(2008年版)」を参考に集計しています。
2. 環境保全コストとして確実に把握したもののみ計上しています。
3. 減価償却費は計上していません。

※PASMOは、株式会社パスモの登録商標です。

■ 環境保全コストの推移



企業統治

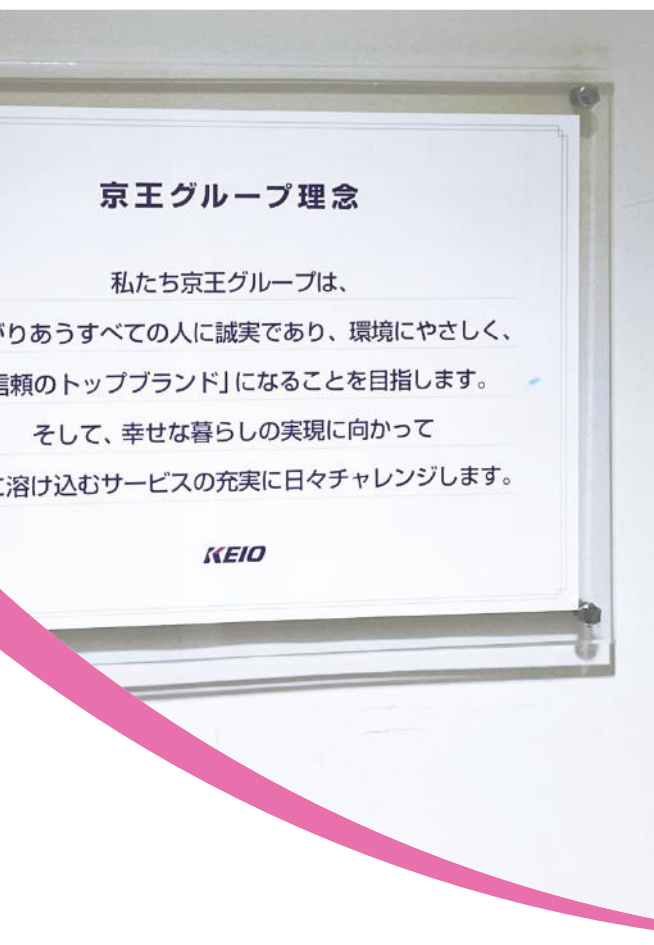
コーポレート・ガバナンスの充実・強化

京王グループでは、「京王グループ理念」に基づき、透明性・公正性を確保しつつ、迅速・果敢な意思決定を行うことにより、株主の皆様をはじめつながりあうすべての人からの信頼を確保し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を推進します。

CONTENTS

コーポレート・ガバナンスと内部統制	P.94
コンプライアンス	P.96
リスクマネジメント	P.97
情報セキュリティ	P.97





コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスと内部統制

基本的な考え方

当社グループでは、「京王グループ理念」に掲げる「信頼のトップブランド」の確立を目指し、「京王グループ行動規範」に基づき、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を進めております。特に鉄道事業においては、皆様から信頼され、愛される鉄道になるため、「安全に関する基本方針」および「安全に係る社員の行動規範」を定め、全社員が一丸となって安全文化の構築に取り組んでいます。鉄道事業者として、安全と事業の継続性を確保しながら、「京王グループ理念」に基づき、透明性・公正性を確保しつつ、迅速・果断な意思決定を行うことにより、株主の皆様をはじめつながりあうすべての人からの信頼を確保し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を推進してまいります。

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、監査等委員会設置会社として、監査等委員である取締役が取締役会で議決権を持つことで、監査機能を担いつつ取締役会の業務執行の監査機能強化を図るとともに、監査等委員会は内部監査部門と緊密に連携し、必要に応じて監査部に調査を指示するなど、内部統制体制のさらなる充実を図っています。また、執行役員制度を導入しており、機動的な意思決定と業務執行を図り、当社グループを取り巻く経営環境の変化に迅速に対応できる体制を構築しています。報酬制度については、基本報酬と年次業績連動報酬に区分・整理するとともに、中長期的な業績向上および株主価値の最大化に貢献する意識を高めることを目的に株式報酬制度を導入しています。

さらに、当社では社外取締役の選任により経営に対する監督機能を強化している他、取締役会の諮問機関としてガバナンス委員会および指名・報酬委員会を設置し、経営の透明性・公正性の向上に努めています。

内部監査

法令および社内規程等の諸基準への準拠性、管理の妥当性・有効性の検証を目的とした内部監査を実施しており、経営の合理化、業務の改善、効率性の向上および事業の健全な発展のための提言を行っています。

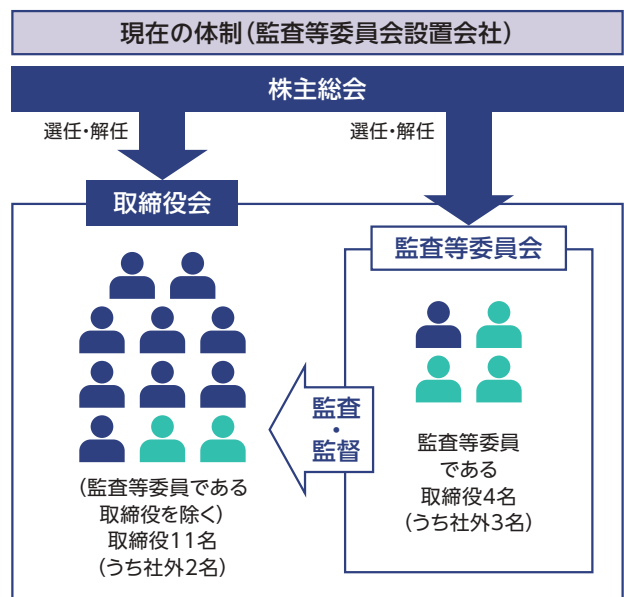
内部監査の独立性・客観性を保持するため監査部は社長直轄の組織としており、2022年3月末現在、28名が在籍しています。監査等委員会と連携し、内部統制のさらなる充実を図っています。

グループ会社の常勤の監査役は、原則として監査部に所属しており、相互に連携を図ることによりグループ全体の監査体制の充実・強化に取り組んでいます。

内部統制システムの強化

「京王グループ内部統制システムに関する基本方針」のもと、内部統制の整備状況を確認・検証し、必要に応じた見直しを行っています。また、内部統制に関する体制を統括するため、内部統制委員会を設置しているほか、財務報告に関わる内部統制についても専任部署を設けてグループ全社で取り組んでいます。

取締役会の構成:取締役15名(うち社外5名)



コンプライアンス

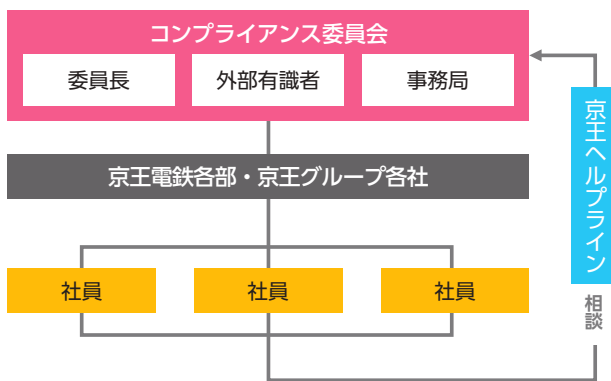
基本的な考え方

京王グループにとっての「コンプライアンス」とは、「法令遵守にとどまらず、社会の規範やルールまで含めて遵守することで、社会の期待に応える」ことであると考えています。京王グループ行動規範(P.7)を実践し、誠実な企業としてお客様や社会から一層の信頼を獲得したいと考えています。

コンプライアンス体制

当社では、「コンプライアンス委員会」が中心となって、グループ全体のコンプライアンス体制を推進しています。当委員会はコンプライアンス担当役員が就く委員長、外部有識者、事務局により構成され、コンプライアンスに関する各種取り組みの検証や改善策の検討等を行っています。

● コンプライアンス体制



内部通報窓口

京王グループでは、コンプライアンス上の問題の早期発見と解決を図るため、グループ全体の内部通報窓口である「京王ヘルプライン」を設けています。

「京王ヘルプライン」には、社内窓口と社外窓口(弁護士事務所)があり、京王グループの全従業員と取引先の方が利用できます。

「京王ヘルプライン」に寄せられた通報のうち、コンプライアンス上の疑義があるものは速やかに調査を行い、適切な対応を行っています。2021年度は、110件の通報を受け付けました。

コンプライアンス意識の浸透

京王グループで働く一人ひとりにコンプライアンス意識が浸透するよう、「京王グループコンプライアンスブック」を全従業員に配布しています。このほか、職位や職種に応じた研修の実施や、時事的な話題をテーマとした「コンプライアンス・トピックス」を毎月発信するなど、継続的に啓発を行っています。



京王グループコンプライアンスブック



コンプライアンス・トピックス

リスクマネジメント

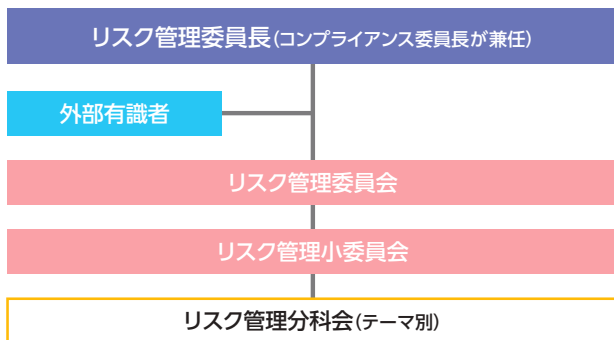
基本的な考え方

京王グループでは、「信頼のトップブランド」にふさわしい適切なリスク管理活動を実施するため、「京王グループリスク管理方針」を定め、リスクの低減および発生防止を目的とした体制を整備しています。

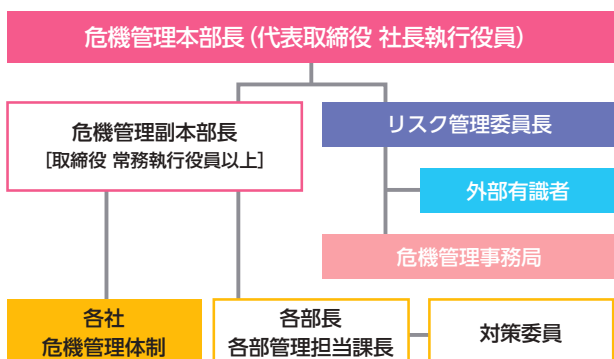
リスクマネジメント体制

京王グループのリスクマネジメント体制は、平常時の体制と危機発生時（発生の恐れがある時を含む）の体制の2つからなっています。平常時は、コンプライアンス委員長が兼任するリスク管理委員長のもと「リスク管理委員会」を定期的開催し、リスク対策重点項目の設定や対策の実施状況の確認、リスクマネジメントに関する活動報告などを行っています。危機発生時は当社の社長を本部長とする「危機管理本部」を設置し、速やかに対応します。

● リスクマネジメント体制（平常時）



● リスクマネジメント体制（危機発生時）



災害時における事業継続への取り組み

大規模災害等のさまざまな緊急事態が発生した場合において、重要業務を中断させず、仮に中断したとしてもできるだけ早急に復旧させることを目的に、BCP(事業継続計画)を策定しています。また、防災ニュースの発行などの啓発活動や訓練を定期的実施し、防災意識の浸透を図っています。



総合防災訓練の様子

情報セキュリティ

情報セキュリティ体制

リスク管理上の重要項目として位置付け、個人情報を含む機密情報の取り扱いや、情報システムのBCP、セキュリティを規定した情報管理基本方針に基づき、リスク管理分科会の一つとして常設で情報セキュリティ分科会を設置しています。また、セキュリティインシデントに対応するCSIRTを設置し内外の情報を集めるとともに、発生したインシデントの対応にあたっています。

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
連結経営成績				
営業収益	390,472	396,860	407,985	408,039
営業利益	29,640	28,022	33,073	33,845
経常利益	26,437	24,538	30,244	31,390
親会社株主に帰属する当期純利益	12,433	14,748	16,197	17,248
営業収益営業利益率	7.6%	7.1%	8.1%	8.3%
総資産経常利益率 (ROA)	3.4%	3.1%	3.8%	4.0%
自己資本当期純利益率 (ROE)	4.9%	5.5%	5.7%	5.8%
EBITDA*	64,028	63,032	67,420	69,171
減価償却費	34,287	34,605	33,942	34,921
資本的支出	34,989	49,327	38,891	44,909
有利子負債*	340,182	356,366	328,941	308,157

連結財政状態				
総資産	791,640	793,293	787,825	782,422
純資産	260,549	278,834	292,607	307,726
自己資本比率	32.9%	35.1%	37.1%	39.3%

連結キャッシュ・フローの状況				
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,370	48,711	58,772	51,858
投資活動によるキャッシュ・フロー	△40,976	△47,080	△37,939	△32,325
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,854	11,442	△33,158	△26,281

配当の状況				
配当性向(連結)	29.5%	33.1%	28.3%	28.3%

※EBITDAは、連結営業利益+減価償却費+のれん償却額により算出しています。

※有利子負債は、借入金+コマーシャル・ペーパー+社債+鉄道・運輸機構未払金により算出しています。

(単位:百万円)

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
416,254	418,996	434,697	447,508	433,669	315,439	299,872
37,758	37,976	38,537	40,078	36,024	△20,866	740
35,066	35,285	35,728	39,281	34,684	△17,980	5,366
19,468	21,168	23,897	27,213	17,875	△27,519	5,585
9.1%	9.1%	8.9%	9.0%	8.3%	△6.6%	0.2%
4.4%	4.3%	4.1%	4.4%	3.9%	△2.0%	0.6%
6.3%	6.6%	7.0%	7.6%	4.8%	△7.7%	1.6%
73,740	73,063	74,802	76,731	72,292	14,269	32,208
35,577	34,681	35,860	36,248	35,862	34,663	31,164
46,397	61,793	72,621	55,146	56,632	36,121	33,822
339,306	328,584	352,181	338,376	329,501	399,610	375,715
820,177	834,682	889,135	889,341	876,691	912,624	906,212
311,818	332,020	352,241	368,022	373,454	344,395	342,286
38.0%	39.7%	39.6%	41.3%	42.6%	37.7%	37.8%
54,247	49,440	62,713	60,620	50,157	6,897	28,222
△55,323	△65,908	△71,267	△47,608	△50,570	△30,822	△ 14,318
25,530	△16,642	17,384	△20,376	△15,611	58,767	△ 23,264
26.7%	26.0%	24.3%	22.4%	35.9%	—	87.4%

京王グループでは、CSR活動をより深化させていくために、「安全」「社会」「環境」「企業統治」における重要テーマに取り組み、中期目標とアクションを立てて推進しています。

CSR項目	重要テーマ	中期目標	2021年度実績
安全	事故等の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ● 事故や輸送障害の未然防止に向けた施策の実行 ● テロ対策を含めた災害・危機管理 ● ホームドアの設置等によるホーム安全対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 有責事故0件、鉄道運転事故・輸送障害発生件数28件(対前年度7件増) ● 駅構内やホーム、車内、踏切への防犯カメラや監視カメラの整備を拡大 ● 下北沢駅へのホームドア設置を実施
	減災対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 耐震補強や自然災害対策等の減災対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新宿トンネルの耐震補強工事および高架橋、盛土区間の耐震補強工事を実施 ● 雷害対策として、防雷設備の増設を実施
	安全対策・老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進 ● 下北沢駅改良工事の推進 ● 老朽設備の着実な更新による保安度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進(用地取得や高架橋構築工事) ● 経年劣化した電気設備・車両設備の老朽更新を実施
社会	お客様の利便性・快適性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅施設・車両設備の整備 ● 改良によるお客様サービスの向上 ● 沿線活性化への取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王線8000系2編成のリニューアル工事を実施 ● 京王ライナーのサービス拡充、こどもといっしょ割座席指定券の販売 ● 駅の遊休スペースを有効活用し、行内営業店舗やシェアリングサービスを展開
	お客様との対話	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々なお客様にとってわかりやすい情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王ホームページリニューアルの推進
	多世代が生活しやすい沿線づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者事業・生活支援事業・子育て支援事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王プラザホテル八王子内に会員制サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA 八王子」を開業
	地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化・教育・子育て支援イベント・スポーツ振興支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王アカデミープログラムや各種イベントの継続実施 ● 各種スポーツイベントへの協賛を継続実施
	地域社会・行政との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王沿線および中央道高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携した地域活性化への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ● 貨客混載事業等を活用した中部地方の地域産業支援(輸送品目および対象路線拡大) ● 新宿の観光案内所での特産品販売や各種PR支援などを通じた中部地方の地域産業支援の継続実施
	人材の活用と働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性活躍推進 ● 障がい者雇用の推進・職場環境の整備推進 ● ワーク・ライフ・バランスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公正な管理職登用を実施した女性の活躍を推進(女性の課長級以上の管理職人数2020年度22名→2021年度23名) ● 2022年度総合職新卒採用人数のうち女性の占める割合33.3% ● 育児・介護・出生支援制度に関する相談窓口の新設 ● 病児・病後児保育料補助制度の新設 ● 子の看護休暇の対象となる子どもの年齢の引き上げ
	株主・投資家・取引先等への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主・投資家・取引先等に分かりやすい情報開示の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適時適切な情報開示、株主・投資家との対話を継続実施
環境	低炭素社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ● 車両の省エネルギー化 ● 駅やビルなどの省エネルギー化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王線8000系2編成のVVVFインバータ制御装置を省エネ型に更新 ● 車両や駅構内等の照明のLED化を実施 ● めじろ台駅へ駅舎補助電源装置を設置 ● 地下駅の空調設備における省エネ活動実施により、省エネ大賞(経済産業大臣賞)を受賞
	自然共生社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境保全活動・環境教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水道水源林保全活動への参画 ● 高尾山エリアでの育樹活動 ● 各種環境教育プログラムの継続実施
企業統治	コーポレート・ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● コーポレート・ガバナンスの強化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● サステナビリティに関する取り組みを推進 ● プライム市場を選択し、改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応を実施 ● 経営環境をふまえた審議の充実による取締役会の実効性向上
	コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス意識浸透策の実施、法改正等への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 階層別研修等による従業員教育、コンプライアンス・トピックス等による各種啓発活動の実施 ● 法令改正情報の周知・適切な対応策の実施 ● コンプライアンス・アンケートの実施 ● ハラスメント防止に向けた取り組みの強化
	リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク対策重点項目の対応・啓発活動の推進 ● 事業継続計画(BCP)の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク対策重点項目等における対応策の検討・実施 ● 富士山噴火による降灰に対応するBCPを新規策定
	情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティリスク対策等のIT統制の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティガイドライン等の整備、PDCAサイクルの確立 ● グループ内公開ウェブサーバのセキュリティ統制強化 ● リスクアセスメントに基づく課題の解消

SDGsへの取り組み

SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な世界を実現するために、2015年に国連で採択された2030年に向けた開発目標です。京王グループは、この持続可能な開発目標の考え方を取り入れ、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指します。

2022年度のアクションプラン	関連するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> ●安全目標「有責事故ゼロと鉄道運転事故・輸送障害発生件数の前年度比削減」の達成 ●駅構内やホーム、車内、踏切への防犯カメラや監視カメラの整備を拡大 ●笹塚駅へのホームドア設置を実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●新宿トンネルの耐震補強工事および高架橋、盛土区間の耐震補強工事を継続実施 ●雷害対策として、信号設備の耐雷性向上および防雷設備の増設を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進(用地取得や高架橋構築工事) ●経年劣化した電気設備・車両設備の老朽更新を実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●5000系増備による京王ライナーのサービス拡充 ●駅の遊休スペースを有効活用 	
<ul style="list-style-type: none"> ●京王ホームページリニューアルの推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ●既存店舗での顧客満足度向上施策の実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●京王アカデミープログラムの継続実施 ●各種スポーツイベントへの協賛を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●貨客混載事業等を活用した中部地方各地域の特産品・農産物の販路拡大 ●新宿の観光案内所等での観光PRによる中部地方への観光誘客支援 	
<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者雇用の継続促進 ●働きやすい職場環境・制度の検討を継続実施 ●2021年度から2026年度までの女性総合職の新卒採用人数を総合職新卒採用人数全体平均30%以上となるよう目標設定し、2022年度の採用活動を実施する。 ●育児・介護・出生支援制度に関する相談窓口の運用開始 	
<ul style="list-style-type: none"> ●適時適切な情報開示、株主・投資家との対話を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●車両機器情報の常時モニタリングデータを活用した省エネ運転の実施 ●8000系車両のVVVFインバータ制御装置を省エネ型に更新 ●車両や駅構内等の照明のLED化を継続実施 ●京王八王子駅の空調設備における省エネ活動を実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●高尾山エリアでの育樹活動の継続実施 ●各種環境教育プログラムの継続実施 ●水道水源林保全活動の継続実施および社員向け環境教育の実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●サステナビリティ経営に向けた体制整備 ●ガバナンス課題への対応 ●さらなる取締役会の実効性向上 	
<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンス意識浸透策、法令改正への対応等の継続実施 ●グループ内におけるコンプライアンス・アンケートの計画的実施 ●ハラスメント防止対策の推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ●リスク対策重点項目等への対応の継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●サイバー攻撃被害に備えたIT-BCPを新規策定 ●グループ内公開ウェブサーバのセキュリティ統制強化の継続実施 ●リスクアセスメントに基づく課題点解消の継続実施 	

ISO26000対照表

中核主題	課題	CSRレポート2022掲載ページ
組織統治	組織統治	P.2-P.5 トップメッセージ P.6-P.9 経営計画 P.94-P.97 コーポレート・ガバナンス
	デューデリジエンス	
人権	人権に関する危機的状況	
	加担の回避	
	苦情解決	
	差別及び社会的弱者	P.72-P.75 人材の活用と働きやすい職場づくり
	市民的及び政治的権利	
	経済的、社会的及び文化的権利	
	労働における基本的原則及び権利	
労働慣行	雇用及び雇用関係	
	労働条件及び社会的保護	
	社会対話	P.32-P.33 人材の育成 P.72-P.75 人材の活用と働きやすい職場づくり
	労働における安全衛生	
環境	職場における人材育成及び訓練	
	汚染の予防	P.80-P.81 環境マネジメント
	持続可能な資源の利用	P.82-P.85 低炭素社会を目指して
	気候変動緩和及び適応	P.86-P.87 循環型社会を目指して P.88-P.89 自然共生社会を目指して
	環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復	P.90-P.91 環境関連データ
公正な事業慣行	汚職防止	
	責任ある政治的関与	
	公正な競争	P.71 株主・投資家・取引先等への取り組み P.94-P.97 コーポレート・ガバナンス
	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	
消費者課題	財産権の尊重	
	公正なマーケティング、情報及び契約慣行	
	消費者の安全衛生の保護	P.23 安全方針・安全管理体制 P.24-P.25 安全管理方法 P.26-P.31 安全目標・安全重点施策 P.34-P.35 安全文化の構築
	持続可能な消費	P.36-P.37 危機に備えた訓練 P.38-P.47 施設・設備の取り組み P.48-P.49 日々の保守管理 P.50-P.52 災害などへの備え P.53 その他の取り組み P.54-P.55 グループ会社の安全対策
	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	P.60-P.63 お客様の利便性・快適性の向上 P.64-P.65 お客様との対話 P.66-P.67 多世代が生活しやすい沿線づくり P.71 株主・投資家・取引先等への取り組み P.94-P.97 コーポレート・ガバナンス
	消費者データ保護及びプライバシー	
	必要不可欠なサービスへのアクセス	
	教育及び意識向上	
	コミュニティへの参画	
	教育及び文化	
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	雇用創出及び技能開発	P.60-P.63 お客様の利便性・快適性の向上 P.66-P.67 多世代が生活しやすい沿線づくり P.68-P.70 地域社会への貢献
	技術の開発及び技術へのアクセス	
	富及び所得の創出	
	健康	
	社会的投資	

※GRI対照表については京王HPで公開します。

会社概要 (2022年3月31日時点)

社名	京王電鉄株式会社
会社設立	1948年6月1日
本社所在地	〒206-8502 東京都多摩市関戸一丁目9番地1 (登記上の本店所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿三丁目1番24号)
資本金	590億23百万円
従業員数	2,449人
営業内容	【鉄道事業】 路線 京王線、高尾線、相模原線、 競馬場線、動物園線、井の頭線 駅数 69駅 営業キロ 84.7km 輸送人員 年間5億122万人(2021年度実績) 車両数 877両
	【開発事業(土地、建物の賃貸業・販売業など)】 新規賃貸資産の開発 賃貸資産の管理・営業 ショッピングセンターの管理・運営 住宅地などの販売
グループ会社数	全54社

役員一覧 (2022年6月29日時点)



代表取締役会長
紅村 康



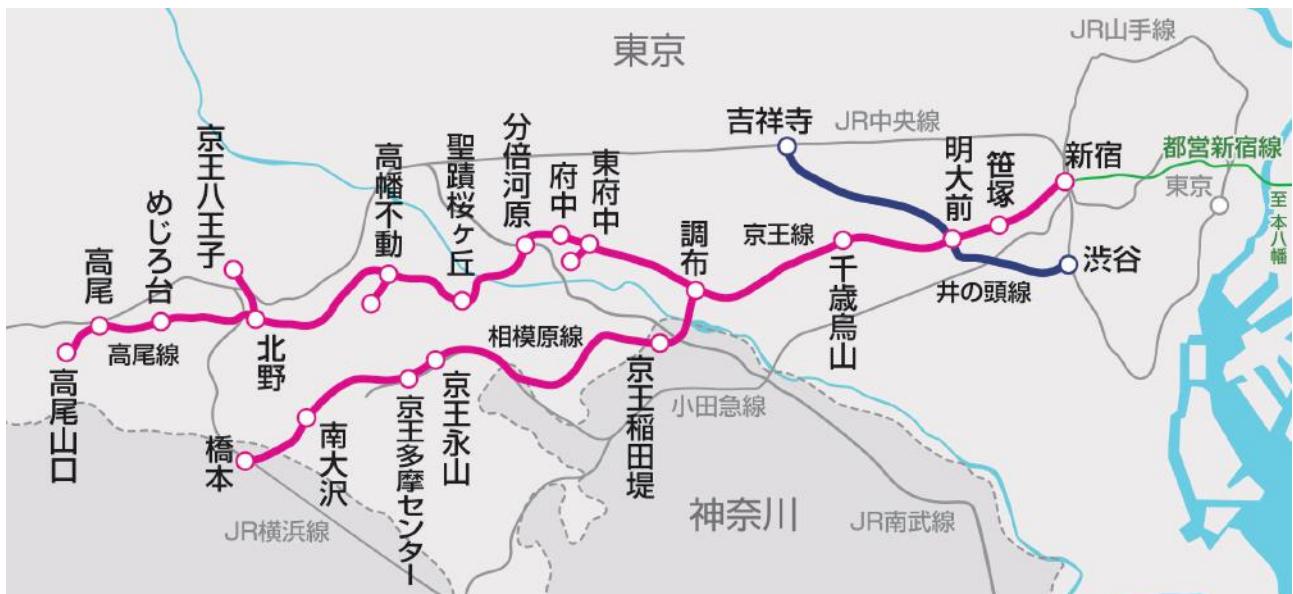
代表取締役社長
社長執行役員
都村 智史

取締役 常務執行役員 (戦略推進本部長、開発事業本部長 新宿再開発推進室 分担)	南 佳孝
取締役 常務執行役員 (人事部長 総務・危機管理部、法務・コンプライアンス部、広報部、人事部 分担 コンプライアンス 担当)	山岸 真也
取締役 常務執行役員 (経営統括本部長 財務・情報開示 担当)	小野 正浩
取締役 常務執行役員(鉄道事業本部長)	井上 晋一
取締役 高橋 温	執行役員 (鉄道事業本部 工務部長) 番 睦
取締役 古市 健	執行役員 (経営統括本部 グループ事業部長) 熊谷 高志
取締役 仲岡 一紀	執行役員 (開発事業本部 SC営業部長) 古屋 圭子
取締役 若林 克昌	執行役員 (新宿再開発推進室長) 中瀬 正春
取締役 監査等委員(常勤) (監査等委員会委員長) 伊藤 俊司	執行役員 (鉄道事業本部 計画管理部長) 加藤 慎司
取締役 監査等委員(常勤) 竹川 浩史	執行役員 高木 保
取締役 監査等委員 北村 敬子	執行役員 川田 裕史
取締役 監査等委員 金子 正志	

京王グループ会社一覧 (2022年4月1日時点)



京王電鉄路線図



株主の状況

当社の2022年3月31日現在の株主数は34,216名です。
全体の約7割が、当社沿線に在住されている個人株主です。

● 株式の状況

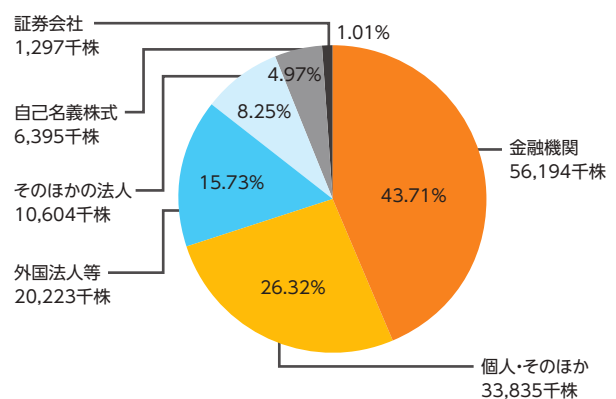
発行可能株式総数	316,046,000株
発行済株式総数	128,550,830株
株主数	34,216名

● 株主総会

2022年6月29日に京王プラザホテル八王子にて第101期定時株主総会を開催し、333人の株主様に出席いただきました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、2021年度の事業の経過や業績についてわかりやすくお伝えするよう努めました。

● 株式分布状況(2022年3月31日現在)



当社は、以下のサステナビリティ/ESG指数の構成銘柄に選定されています。

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

第三者意見

全体を通して、「つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、『信頼のトップブランド』になることを目指します」という京王グループの理念が反映された良いレポートです。社員や協働パートナー、そして、沿線にキャンパスを持つ大学の学長など、多彩なステークホルダーの生の声や現場の写真が数多く掲載されています。また、「安全」「社会」「環境」の各パートの冒頭で担当取締役による活動へのコミットメントがなされている点も特徴です。

トップメッセージにあるように、2022年度は、京王グループ中期3か年経営計画(2022~2024年度)のスタートの年でした。「まちづくりへの注力」「事業構造改革の推進」「稼ぐ力の強化」を柱に据え、2024年度に過去最高益であった2018年度の85%まで営業利益を回復させ、2030年代までに過去最高益を超える水準を目指すという目標を掲げています。ここ数年で人々のライフスタイルは様変わりし、鉄道やバスの輸送人員も影響を受けていますが、このような事業構造の転換期には、自らの存在意義や社会的役割すなわちパーパス(Purpose)に立ち返ることが大切だと考えます。公共的な交通事業を営み多くの沿線住民をもつ京王グループにとって、事業を通じて生み出す価値とは何なのか。ここを突き詰めることこそが、100年後の京王グループをつくり上げ、同時に本業を通じた社会的責任を考えることに他なりません。レポート内で、経営トップ自らが、「サステナビリティ経営の検討を進める中で、従来にも増して様々なステークホルダーと向き合い、多様な価値観を取り入れながら事業課題・社会課題を解決」と述べられていることを頼もしく感じます。京王グループの事業課題・社会課題に取り組む姿勢を高く評価したいと思います。

安全報告のパートでは、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」という京王グループの方針に基づき、お客様に「安全」「安心」を提供するための様々な取り組みが報告されています。今年度も笹塚駅~仙川駅間の連続立体交差事業やホームの安全対策は着実に進展しました。また、災害対策や鉄道テロ対策などに取り組み、特に後者については、リアルタイム伝送機能付き車内防犯カメラを全車両へ、ホーム上防犯カメラを全駅へ設置することを決定するなど速やかな対応がなされています。運輸事業者が果たすべき最も大切な社会的責任は「輸送の安全性」です。この点に関して、すでに高いレベルに達している京王グループではありますが、今後も安全意識を維持・向上させて、安全最優先の鉄道づくりに取り組んでいただきたいと思えます。

社会性報告のパートでは、「住んでもらえる、選んでもら



立教大学経営学部
教授／経済学博士
高岡 美佳

える沿線づくり」をキーワードに、地域社会に寄り添う京王グループの取り組みが描かれています。2022年4月に認可保育所「京王キッズプラッツ桜上水」を新たにオープンしたほか、「フードドライブ」にも取り組み、多摩エリアの子ども食堂などに食品を寄附したようです。また、便利で魅力あるまちづくりも積極的に推し進めており、2022年3月には下北沢高架下に商業店舗とワークプレイスを融合した「ミカン下北」をオープンしました。

グループ内の人材活用と働きやすい職場づくりについても、着実な進展が見られます。「健康経営優良法人2022」に認定されたほか、2026年度までの管理職における女性人数について意欲的な目標値を設定するなど、ワークライフバランスや人材のダイバーシティに取り組んでいることがわかります。以上の点を高く評価したいと思います。

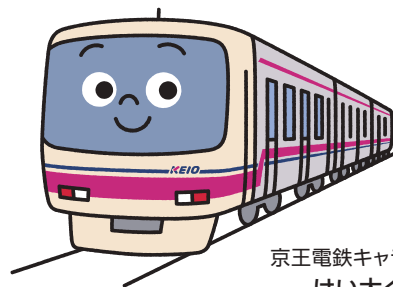
環境性報告のパートでは、京王グループのCO₂削減活動や資源の有効活用、生物多様性への取り組みなどが紹介されています。2021年度は、地下駅の空調設備の最適化を図ることで大幅な省エネルギーを達成し、見事に省エネ大賞の経済産業大臣賞を受賞しました。また、東京都水道局と「東京水道~企業の森」の協定を締結したとのこと。プライム市場に上場する企業としてTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)のリスクと機会の分析も行っており、かねてより電車の運転電力の削減を中心に定評があった京王グループの環境への取り組みはより一層深まっています。

最後になりますが、次年度は、人権・ハラスメント防止の取り組みを発展させ、「人権方針」を制定してはいかがでしょうか。2015年に英国現代奴隷法が施行されて以降、国内外における人権に対する関心は高まる一方です。自社の事業活動において影響を受ける人々の人権を侵害しないこと、マイナス影響の回避と緩和のために人権デューデリジェンスを実施すること、そして、マイナスの影響が生じた場合は是正に向けて適切な対応をとることは企業の社会的責任にとって欠かせない要素です。ぜひ、ご検討ください。



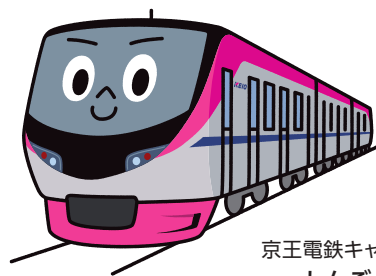
この安全・社会・環境報告書の用紙は、FSC®が定める責任ある森林管理の原則に基づき認証された森林からの原材料とその他管理された原材料から作られたFSC®認証紙を使用しています。

また、日本印刷産業連合会が認定する工場のもと、有害な溶剤を含まないNon-VOCインキを使用しているほか、揮発性有機溶剤を含む湿し水を使用しない、地球環境に配慮した水なし印刷方式で作成されています。



京王電鉄キャラクター
けいたくん

なお、本レポートの原材料調達からリサイクルされるまでのライフサイクル全体で発生する温室効果ガスをCO₂の量に換算した数値は、1冊あたり2,600gになります。



京王電鉄キャラクター
しんごくん

京王電鉄株式会社

〒206-8502
東京都多摩市関戸一丁目9番地1

安全・社会・環境報告書に関するお問い合わせ
経営企画部 サステナビリティ推進担当
Tel. 042-337-3049
Fax. 042-374-9811
www.keio.co.jp

2022年9月発行